

令和7（2025）年度

研究紀要

第20号



香南市教育研究所

“あんぱん”に思う

一昨年度の“らんまん”に続き、今年度は“あんぱん”で高知県民が盛り上がった1年でした。私も朝の BS 放送や NHK プラスを活用して、“らんまん”に引き続き、今回も“あんぱん”を全話視聴しました。

時代背景によって変わる人としての生き方や相手意識を持って接することの大切さなど、共感できるテーマが数多くありました。戦時中の様子もドラマの中で描かれていましたが、ウクライナやパレスチナなど、現在、戦争によって尊い命が奪われている現状を考えると、今の自分たちがいかに恵まれた環境の中で生活をしているのかを考えずにはられません。

一方で、特殊詐欺グループによる強盗致死事件や SNS で氾濫するフェイク動画など、かつてはあり得なかったような自己本位な言動による事案が増えています。教育の世界も教員による盗撮やわいせつ行為などの不祥事が絶えず、学校教育に対する信頼は大きく揺らんでいます。

“あんぱん”の中で特に印象に残っている場面のひとつに、“あんぱん”の放映で脚光を浴びたアンパンマンの主題歌からの引用で、ドラマの中で柳井嵩の叔父、柳井寛が嵩と千尋に「何のために生まれて、何のために生きるのか。何がおまんらの幸せで、何をして喜ぶのか。これや!と思うもんが見つかるまで、何べんでも何べんでも必死で考え。」という言葉投げかける場面がありました。

採用倍率が下がり、新卒新採教員も増える中で、「何のために教員になるのか」という問いに明確な目的意識を確立できないまま採用されて思い悩んだり、教員として勤務する中で「何のために教員を続け、何が教員としての幸せであり、喜びであるか」を見失ってしまったりしている現状があるのではないかと気がします。揺らいできた信頼を回復していくには、今一度、自分自身に何度でも問いかけ、しっかりとした目的意識を持って子どもたちの前に立つことが必要な時期ではないかと思えます。

今年度は中央教育審議会から論点整理が出され、今後の教育の方向性が次第に見えてきました。三つの方向性の一つ「主体的・対話的で深い学び」の実装では、「デジタル学習基盤の効果的活用による学びのあり方」が明記され、一人一台端末の配置から始まった ICT の利活用とそれに伴う教員のスキルアップの向上が求められています。また、一人一人の個性や特性、背景を踏まえた対応が可能な仕組みを整えることの重要性が示され、第二の柱として「多様性の包摂」が打ち出されました。

今後、AI の活用など、教育技術は年々進化が速まっていくと思われます。個々の学力定着度に応じて AI のバーチャルティーチャーが個別に教えてくれるような世界もそう遠くはないような気がしてきます。しかし、AI はあくまでも既存の知識を用いて最適解を出すものであり、子どもの個性や思い、その日の体調、家庭や学校での出来事による気持ちの変化などを察して対応することを AI ができるとは思えません。そこには、相手(子どもや親、同僚など)の言葉や様子から意を察したり、やり取りをしながら相手の状況を把握したりすることが必要になります。児童生徒理解のスキルや特別支援教育の視点の高い教員の存在を欠いては「多様性の包摂」など成り立ちません。

不易と流行で言えば、教育 DX など新しい教育技術は「流行」であり、児童生徒理解や特別支援教育は「不易」と言えるのではないのでしょうか。また、教員としての喜びや責任なども「不易」と言えます。不易と流行の両者を追い求めていく必要があると思いますが、次第に、「不易」に含まれるスキルがより求められ、そのスキルの高さが教師力としての高さに比例していくようになっていくのではないかと思います。

教育研究所としても、教育 DX への手立ての一つとして、「学びのポータルサイト“香南市学びの輪”」を立ち上げ、児童生徒理解や特別支援教育のスキルアップの手立てとして、「コグトレを中心とした高知健康科学大学との連携体制」を令和7年度は整えてきました。今後は、さらにその利活用が進むように、環境を整え、現場の先生方のスキルアップを支えていくことができればと考えています。

巻頭言

I 香南市の教育について

1 基本理念..... 1

2 計画の体系 2

3 現況 3

II 香南市教育研究所の基本方針と機構

1 令和7年度基本方針等 6

2 香南市教育研究所の機構..... 8

III 所員研究

○児童生徒が自律して主体的に学び授業づくり 9

～系統性のある個別最適な学びと協働的な学び～

○ICTの効果的な活用に関する研究 26

～タブレット端末を活用した認知能力向上に向けた支援を中心として～

IV 令和7年度の実績

【重点目標】

①中央教育審議会答申(「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～)で示された「令和の日本型学校教育」を担うために、これからの教師に求められる資質能力の育成を支援する取組を進める。

②香南市教育振興基本計画に基づき、保幼小中連携を中心とした子育てや教育の取組に関する調査研究・実践研究を進め、不登校の未然防止や学力の向上等、香南市の教育課題の解決をめざすとともに、保幼小中連携に関する支援体制の充実を図る。

1 教職に必要な素養

(1) 小中学校初任者集合研修 44

(2) 通級指導担当者連絡会..... 46

2 学習指導

(1) 小中学校授業づくり実践研究講座..... 47

(2) 小学校社会科副読本等編集委員会..... 49

(3) 外国語教育担当者会 50

3 生徒指導

(1) 小中学校ほっとスタート実践研究事業 52

(2) 人権教育・生徒指導担当者会 53

(3) 道徳教育担当者会 55

4 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応

(1) 特別支援教育学校コーディネーター会 57

(2) 特別支援教育支援員等研修会 59

(3) 高知健康科学大学との連携..... 61

5 ICTや情報・教育データの利活用

(1) コグトレ推進担当者会・タブレット端末を活用した認知能力の向上に関する実践研究事業 62

(2) 授業づくり実践研究講座 63

6 保幼小中(中学校区)連携の推進

(1) 保幼小中・家庭・地域連携担当者会..... 64

(2) 保幼小連携・接続担当者会..... 66

(3) 保育所・幼稚園 就学前部会

・研究実績 68

・0歳児部会..... 69

・1歳児部会..... 70

・2歳児部会..... 71

・3歳児部会..... 72

・4歳児部会..... 73

・5歳児部会..... 74

・特別支援部会 75

I 香南市の教育について

I-1 基本理念(第2期香南市教育振興基本計画から)

「子どもに夢 青年に希望 高齢者に生きがい」

少子高齢化や人口減少社会の到来等、社会経済状況の変化により、まちの活力が低下するなか、まちの将来を担う人材を育成する教育や市民一人ひとりのまちづくりへの参加の意欲を育てる学びへの期待は大きくなっています。

しかし、教育を取り巻く環境は、核家族化や共働き世帯の増加に加え、地域コミュニティの希薄化等により子育てに負担感や孤立感を抱える家庭が増加しており、学校教育の現場においても多様な教育ニーズへの対応の困難さ等、さまざまな問題が山積しています。

こうした多様な教育課題に対応していくためには、学校における教育環境だけでなく、子ども同士や親同士がともに学びあい育ちあう環境、さらに学校・家庭・地域がそれぞれの責任を果たしながら連携して子どもたちを育てる環境をつくり、子どもたちの成長をみんなで支えていくことが重要です。

変化の激しい社会のなかで、自然や歴史、文化が息づく本市で、子どもたちが心豊かに育つように、また、子どもたちが、目標や夢を持って、たくましく生き抜くことができるように育つ環境づくりをめざします。

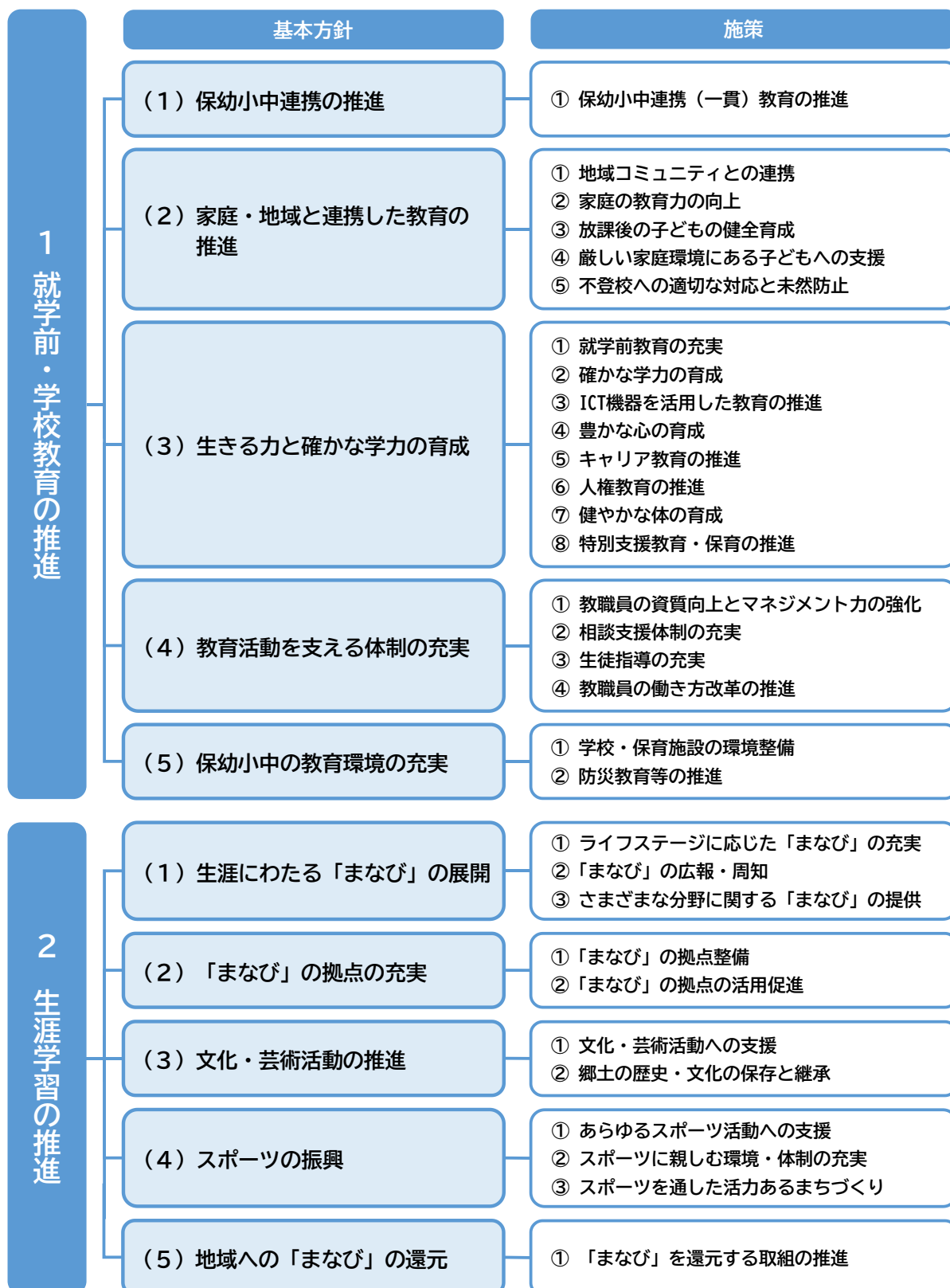
また、高齢化の進行に伴い、退職後の市民の自由時間が増大するなかで、生きがいづくりの支援や、新しい生き方・価値観の発見等につながる学習機会の拡大が求められています。市民のより豊かな暮らしと魅力あるまちづくりを進めるため、学習活動で得た知識や技術を地域や社会のなかで活用できる仕組みづくりが必要となっています。

本市は、学校・家庭・地域の絆を大切にして、子どもから大人まですべての市民が生涯にわたって学びあい育ちあい、豊かな心を育みあうことで、さまざまな場面で活躍できる人づくりと学びのまちづくりをめざします。

本計画では、社会の潮流や市の現状等を踏まえ、たうえて、「子どもに夢 青年に希望 高齢者に生きがい」という前計画の基本理念を継承します。

基本理念

子どもに夢 青年に希望 高齢者に生きがい



I-3 現況

(1) 幼児・児童・生徒数の推移

平成18年3月1日、香美郡旧5ヶ町村(夜須町、香我美町、赤岡町、吉川村、野市町)が合併して現在の香南市が誕生し、令和8年3月1日には20年を迎えました。合併当初に比べると、市としての一体感はずいぶんと高まりました。反面、人口の増減は旧町村によって異なり、幼児児童生徒数の変化を含め、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきています。

香南市保育所乳幼児数・クラス数変遷(4月1日現在数)平成26年度～

所属名	赤岡保育所					香我美おれんじ保育所					野市保育所					野市東保育所					佐古保育所					夜須保育所					吉川みどり保育所					保育所計																				
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																
H26	園児数	5	15	18	14	30	18	100	7	24	35	31				97	20	34	50	50	62	216	6	23	24	25	32	110	9	14	20	31	29	38	141	2	15	15	17			49	16	17	14	6	12	65	23	110	162	181	140	162	778	
	クラス	1	1	1	1	1	1	6	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	2	1	1	2	7	1	1	1	2	1	2	8	1	2	2	1			6	1	1	1	1	1	5	4	10	11	11	6	8	50			
H27	園児数	8	11	11	21	11	29	91	9	21	36	29				95	20	30	51	58	55	214	14	18	29	32	24	117	9	26	31	34	37	30	167	6	14	18	16			54	4	14	15	12	6	51	32	110	158	195	150	144	789	
	クラス	1	1	1	1	1	1	6	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	2	2	1	7	1	2	2	2	2	2	10	1	1	1	1	1	5	4	10	10	12	8	6	50										
H28	園児数	5	21	15	15	22	14	92	9	24	36	39				108	20	32	46	56	59	213	16	17	24	29	32	118	9	24	30	35	36	38	172	5	23	14	18			60	6	6	9	16	10	47	28	134	150	186	159	153	810	
	クラス	1	2	1	1	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	2	1	2	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	11	10	12	7	8	52										
H29	園児数	6	6	21	15	15	21	84	9	24	36	35				104	24	31	44	48	56	203	15	18	23	22	31	109	8	24	30	37	36	39	174	6	17	21	15			59	10	5	6	8	14	43	29	120	162	175	129	161	776	
	クラス	1	1	2	1	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	2	1	2	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	10	12	12	7	8	53										
H30	園児数	7	12	12	23	16	15	85	9	24	36	37				106	24	32	40	49	49	194	18	17	30	22	22	109	9	24	30	39	41	35	178	6	17	22	18			63	14	11	4	7	7	43	31	133	160	191	135	128	778	
	クラス	1	1	1	2	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	2	2	2	11	1	1	2	1	1	6	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	10	12	12	7	7	51										
H31(R1)	園児数	5	8	18	10	22	16	79	9	24	36	33				92	24	32	46	45	47	194	18	17	26	34	23	118	9	24	29	40	48	39	188	6	12	16	21			55	3	17	8	2	1	5	37	28	113	165	174	151	132	763
	クラス	1	1	2	1	1	1	7	1	2	2	2	1	6	2	2	3	2	2	11	1	1	2	2	1	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	10	10	11	8	7	50										
R2	園児数	2	16	12	17	9	19	75	9	24	36	40				109	24	32	50	56	49	211	18	18	19	27	33	115	9	23	30	31	41	47	181	5	12	18	13			48	7	7	14	8	3	39	25	124	153	184	141	151	778	
	クラス	1	1	1	2	1	1	6	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	1	2	2	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	10	10	11	8	8	51										
R3	園児数	6	12	18	12	16	5	69	8	24	27	32				91	24	32	49	51	59	215	18	18	30	23	27	116	9	26	33	37	35	45	185	3	12	12	17			44	8	10	6	14	8	46	26	124	150	183	138	144	766	
	クラス	1	1	2	1	1	1	7	1	2	2	2	1	6	2	2	3	2	2	11	1	1	2	2	1	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	1	5	4	10	11	11	7	8	51										
R4	園児数	4	18	17	16	12	7	79	9	24	36	27				96	24	32	51	55	52	214	18	18	27	32	24	119	9	24	33	40	37	36	179	5	18	12	14			49	15	15	11	6	14	61	27	141	163	186	142	138	797	
	クラス	1	2	1	1	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	2	2	1	7	1	2	2	2	2	2	11	1	2	1	1	1	4	4	12	10	12	8	6	52										
R5	園児数	6	16	24	17	14	8	85	9	24	36	36				105	24	32	48	55	55	214	18	17	18	28	32	113	9	24	33	40	39	39	184	6	12	18	18			54	12	15	18	11	5	61	30	130	175	195	147	139	816	
	クラス	1	1	2	1	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	1	2	2	7	1	2	2	2	2	2	11	1	1	2	1	1	5	4	10	12	11	8	7	52										
R6	園児数	6	12	20	18	15	12	83	9	24	34	31				98	24	32	50	53	54	213	18	18	18	26	28	108	9	24	33	40	43	40	189								11	12	9	14	11	57	24	113	149	165	153	145	748	
	クラス	1	1	2	1	1	1	7	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11	1	1	1	2	2	7	1	2	2	2	2	2	11								1	1	1	1	1	5	3	9	10	10	8	8	48			
R7	園児数	0	5	5	9	9	13	41	9	24	34	30				97	24	32	46	50	50	202								9	24	33	39	38	45	188								2	5	7	4	11	29	18	79	109	131	101	119	557
	クラス	1	1	1	1	1	1	5	1	2	2	2	2	7	2	2	3	2	2	11								1	2	2	2	2	2	11								1	1	1	1	1	3	3	7	7	9	5	6	37		

香南市幼稚園・こども園乳幼児数・クラス数変遷(4月1日現在数)平成26年度～

所属名	野市幼稚園					野市東幼稚園					香我美幼稚園					夜須こども園					幼稚園計					こども園計											
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳		
H26	園児数				37	44	39	120				16	20	17	53				16	46	44	106						24	20	44	0	0	0	69	134	120	323
	クラス				2	2	2	6				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	4	6	6	16
H27	園児数				41	37	46	124				15	16	20	51				8	48	48	104						17	24	41	0	0	0	64	118	138	320
	クラス				2	2	2	6				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	4	6	6	16
H28	園児数				30	35	38	103				13	12	15	40				12	34	49	95						12	16	28	0	0	0	55	93	118	266
	クラス				2	2	2	6				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	4	6	6	16
H29	園児数				26	35	35	96				10	13	15	38				6	59	35	100						18	15	33	0	0	0	42	125	100	267
	クラス				2	2	2	6				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	4	6	6	16
H30	園児数				40	29	33	102				18	10	12	40				17	42	61	120						16	18	34	0	0	0	75	97	124	296
	クラス				2	1	2	5				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	4	5	6	15
H31(R1)	園児数				23	42	30	95				15	17	9	41				11	55	41	107						19	18	37	0	0	0	49	133	98	280
	クラス				1	2	1	4				1	1	1	3				1	2	2	5						1	1	2	0	0	0	3	6	5	14

香南市小中学校児童生徒数・学級数変遷(5月1日現在数)平成18年度～

学校名	夜須小		岸本小		香我美小		赤岡小		吉川小		野市東小		野市小		佐古小		小学校計		夜須中		香我美中		赤岡中		野市中		中学校計		総計		
	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	
H18	226	62	289	163	76	292	584	282	1974	92	153	83	499	827	2801																
通常	9	1	6	1	11	4	6	4	6	2	12	3	19	3	10	3	79	21	3	1	6	1	3	2	14	2	26	6	105	27	
H19	213	58	317	139	71	292	596	277	1963	88	134	97	512	831	2794																
通常	7	1	6	1	13	4	6	3	6	2	12	3	20	5	11	3	81	22	3	1	5	1	4	2	14	2	26	6	107	28	
H20	201	54	319	152	69	310	615	268	1988	92	138	101	522	853	2841																
通常	8	2	6	0	13	4	7	3	6	2	13	3	21	5	11	2	85	21	3	0	5	1	4	2	14	3	26	6	111	27	
H21	182	55	315	151	69	305	603	272	1952	102	137	97	512	848	2800																
通常	8	2	6	1	12	3	7	3	6	2	13	2	21	6	11	3	84	22	3	0	5	2	4	3	15	3	27	8	111	30	
H22	173	54	341	145	67	309	599	259	1947	108	161	83	536	888	2835																
通常	7	2	6	2	12	1	7	1	6	2	12	2	21	6	11	4	82	20	3	0	6	3	3	2	15	4	27	9	109	29	
H23	161	62	356	139	68	320	630	259	1995	97	180	71	497	845	2840																
通常	6	2	6	1	13	3	7	1	6	2	12	2	22	5	11	4	83	20	3	1	6	3	3	3	14	5	26	12	109	32	
H24	162	57	353	124	67	319	631	252	1965	79	179	61	519	838	2803																
通常	6	2	6	2	13	3	6	1	6	2	12	3	20	5	11	2	80	20	3	1	6	2	3	1	14	4	26	8	106	28	
H25	157	53	331	121	62	306	640	275	1945	61	186	56	503	806	2751																
通常	6	2	6	2	12	3	6	1	6	2	12	2	21	4	12	4	81	20	3	2	6	2	3	1	14	4	26	9	107	29	
H26	153	50	304	94	55	282	660	269	1867	66	182	77	544	869	2736																
通常	6	2	5	2	12	2	6	1	5	1	12	2	22	4	12	4	80	18	3	2	6	2	4	2	15	4	28	10	108	28	
H27	153	47	267	92	55	275	658	281	1828	66	199	79	510	854	2682																
通常	6	3	5	2	12	2	6	4	5	2	12	2	21	3	11	4	78	22	3	2	6	2	4	2	15	3	28	9	106	31	
H28	153	41	253	103	50	260	657	271	1788	67	177	79	508	831	2619																
通常	6	3	4	1	11	2	6	5	5	2	11	3	20	5	11	4	74	25	3	2	6	2	4	2	15	4	28	10	102	35	
H29	145	38	242	96	48	266	640	285	1760	58	173	56	486	773	2533																
通常	6	3	4	1	10	2	6	5	4	2	11	3	20	7	12	3	73	26	3	2	6	2	3	2	15	3	27	9	100	35	
H30	133	36	244	102	52	274	628	292	1761	56	148	49	486	739	2500																
通常	6	3	4	2	10	3	6	5	4	2	11	3	20	8	11	2	72	28	3	1	6	2	3	2	15	5	27	10	99	38	
H31(R1)	130		279	106	52	261	618	273	1719	54	142	39	485	720	2439																
通常	6	4			11	4	6	5	5	2	11	3	19	8	11	2	69	28	3	1	6	2	3	2	15	3	27	8	96	36	
R2	126		259	99	51	264	610	282	1691	61	124	37	476	698	2389																
通常	6	4			10	4	6	5	5	2	12	3	18	9	12	2	69	29	3	2	5	2	3	1	15	4	26	9	95	38	
R3	127		282	98	42	268	592	291	1700	60	116	42	493	711	2411																
通常	6	3			11	5	6	3	4	3	12	4	19	9	12	3	70	30	3	2	4	3	3	1	15	5	25	11	95	41	
R4	120		272	72	45	255	583	318	1665	67	118	53	487	725	2390																
通常	6	3			11	4	6	2	4	2	11	2	19	7	12	3	69	23	3	3	5	3	3	1	15	6	26	13	95	36	
R5	116		258	77	47	251	577	309	1635	61	118	51	516	746	2381																
通常	6	2			10	5	6	2	4	2	11	3	19	10	12	3	68	27	3	3	5	2	3	1	15	5	26	11	94	38	
R6	119		260	68	37	248	589	297	1618	54	109	60	512	735	2353																
通常	6	3			11	5	6	2	4	3	11	3	19	10	12	4	69	30	3	2	5	3	3	3	15	7	26	15	95	45	
R7	121		243	59	38	258	586	295	1600	47	109	51	500	707	2307																
通常	6	4			11	4	5	2	3	4	11	3	20	10	11	4	67	31	3	2	5	3	3	2	15	6	26	13	93	44	

(2) 保幼小中連携に向けた取組の変遷

合併後…めざす子ども像『愛あふれ 明日を拓く 香南っ子』

の実現に向けた保幼小中連携を軸にした教育行政方針

平成21年度…「保幼小中連携カリキュラム」作成(令和3年度改訂)

・0歳から15歳までの15年間を見通した系統的な取組計画

平成23年度…「香南市保幼小連携プログラム」作成

平成27年度…「香南市保幼小中連携(一貫)プログラム」として改訂

・保育所・幼稚園での幼児期の教育と小学校以降の学校教育への連続性を確保するための指針

令和3年度…「香南市保幼小中連携(一貫)リーフレット」作成

・継続的な取組の発展・進化及び取組内容の周知

令和4年度…「保幼小中連携モデル地域実践研究事業」

・高知県教育委員会研究指定(3年間)

・各中学校区での取組の価値づけと取組内容の発展・深化

(3) 令和7年度の学習指導面での取組

- 中学校区連携事業による取組
 - ・夜須中学校区 ・香我美中学校区 ・赤岡中学校区 ・野市中学校区
- 高知県教育委員会等の事業指定等による各校での取組
 - 令和7年度 令和の授業を創る推進プロジェクト《令和の授業 DX》(高知県教育委員会)
 - 【拠点校】野市小学校・野市中学校 【推進校】野市小学校・野市中学校以外の全校
- 香南市授業づくり実践研究講座
 - ・実施回数 8回 ・実施校 7校
 - 夜須小学校2回(生活科、算数)、吉川小学校(算数複式授業)、野市東小(算数)
 - 佐古小学校(算数)、夜須中学校(国語)、香我美中学校(国語・社会・数学・理科・英語)
 - ※高知県教育委員会指定事業の「学習者主体の授業づくり(学びの変容)【授業DX】」の研究内容を兼ね、学習指導要領の趣旨の実現に向け、これまでの授業からデジタル学習基盤を効果的に活用した授業への転換を図り、学習者主体の授業づくりを実現するための教科指導等の在り方について研究することを目的として令和7年度は実施した。
- 担当者会での公開授業研究
 - ・外国語教育担当者会…赤岡小学校(講師:東部教育事務所 溝渕晴子 指導主事)
 - 野市中学校(講師:高知大学 村端五郎 名誉教授)
 - ・道徳教育担当者会…赤岡中学校(講師:高知大学 森 有希 教授)
- タブレット端末を活用した認知能力トレーニングの実践研究事業(第Ⅱ期)《令和7~9年度》
 - ・活用アプリケーション ⇒ コグトレオンライン
 - ・小学校低学年における学力の二極化改善に向けた取組研究
 - ・小学校特別支援学級及び通級指導教室での自立活動への効果検証研究
 - ・モデル実践校(赤岡小学校・佐古小学校)での小学校中高学年での効果検証研究
- 学びのポータルサイト“香南市学びの輪”の立ち上げ
 - 《教員にとって個別最適な学びが得られる環境づくりとして》
 - ・香南市内小中学校の指導案データやデジタル教材等の共有の場
 - ・学びに関するサイトや動画、デジタル資料等の情報共有

(4) 令和7年度の生徒指導面での取組

- 中学校区連携事業による取組
 - ・夜須中学校区 ・香我美中学校区 ・赤岡中学校区 ・野市中学校区
- 高知県教育委員会等の事業指定による各校での取組
 - ・令和7年度(1年間)通常の学級における合理的配慮実践充実事業《香我美小学校》
- 「魅力ある学校づくり」を中心とした香南市としての取組(新規不登校を生まない学校づくり)
 - ・魅力ある学校づくりアンケート結果をもとにした各校・各中学校区での取組の検証と改善
 - ・特別支援教育支援員並びに生活・学習支援員の配置と研修機会の提供
 - ・SC、SSWの配置と状況共有機会の充実
 - ・特別支援教育アドバイザーの配置と訪問指導
 - ・教育支援センター「森田村塾」での居場所づくりや絆づくりの推進
 - ・通級指導教室担当者連絡会の実施(令和6年度から)
- 「香南市小中学校ほっとスタート実践研究事業」(令和5~7年度)の実施
 - ・休み明け等での授業時間の削減を行って時間的なゆとりを持たせる取組
 - ・効果的な状況が見られることから、校長会と協議のうえ、継続して実践研究を行うことを決定
 - ※取組に対する肯定的な回答は児童生徒、保護者、教職員とも70%を超える回答があった。
 - ※第Ⅱ期(8・9年度)は、夏休み短縮は継続し、年度始めを2日間遅らせて継続検証する。
- コグトレを中心とした高知健康科学大学との連携
 - ・香南市との包括協定締結(8月5日)、小中学校訪問の実施
 - ・大学専門家チームの香南市内小中学校への支援訪問実施

Ⅲ-1 香南市教育研究所 基本方針等

(1) 基本方針

香南市教育研究所は、「こどもまんなか社会の実現」を目指し、香南市の教育の改善と向上を図ることを目的として、香南市教育振興基本計画に基づいた重点施策に係る調査研究と幼児・児童生徒への支援、教職員研修の体系化等の事業を展開する。

(2) 研究テーマ

令和の日本型学校教育で求められる教師の資質能力の育成支援
～ 子どもを中心に据えた保幼小中連携を基盤として ～

(3) 運営方針

- ①保幼小中連携に関する調査研究や実践研究を行い、香南市の教育課題の解決に資する。
- ②小中学校のニーズに応じた調査研究や実践研究を行い、香南市内小中学校の組織経営に資する。
- ③不登校問題を中心に据えて、生徒指導上の諸課題や特別支援教育等の調査研究や実践研究を行い、香南市の子どもたちの健やかな成長に資する。
- ④学力調査を基に香南市の子どもたちの学力実態を把握し、授業改善に関する調査研究や実践研究を通して学力向上に資する。
- ⑤教育に関わる研修機関や調査機関等の関係機関との連携を図りながら、香南市内小中教職員の研修の体系化を図る。

(4) 重点取組

①中央教育審議会答申（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～）で示された「令和の日本型学校教育」を担うために、これからの教師に求められる資質能力の育成を支援する取組を進める。

○教職に必要な素養

- ・香南市内小中学校の初任者教員が1年間の見通しを持って日々の指導や初任者研修に臨むことができる環境を整えることを目的として初任者集合研修を実施するとともに、香南市内保幼小中教職員の資質向上に関する研修への取組を支援する。
- ・講師招聘研修や担当者会等の内容について、所報等を活用して情報提供を行い、「令和の日本型学校教育」で示された子どもの学びや育ちを支える教師としてのあり方や学習指導、生徒指導等について周知する。

○学習指導

- ・高知県教育委員会が行う「令和の授業を創る」推進プロジェクト等の研究推進を支援するとともに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関わる調査研究や実践研究を進め、各校の授業改善や子どもたちの学力向上への取組を支援する。
- ・香南市小中学校授業 DX 推進事業に関する調査研究を通して、子どもたちが、主体的に学習活動に取り組むことができる授業づくりのあり方について研究する。
- ・香南市小中学校授業づくり実践研究講座を学校と連携しながら実施し、「令和の日本型学校教育」を支える教師の学習指導のあり方について研修する機会を提供する。
- ・外国語教育担当者会等への参加や実施支援を通して、ALT や各校の外国語担当等と連携しながら、

保幼小の外国語活動及び小中の外国語の授業改善や関連した取組を支援する。

- ・社会科副読本「香南のくらし」のデジタル資料集及び単元デザインの作成等に関する諸事務を行い、小学校中学年の授業実践に対する支援を行う。

○生徒指導

- ・小中学校ほっとスタート実践研究事業（香南市内全小中学校）をはじめ、不登校等の未然防止に関連した取組を支援する。
- ・保幼小中・家庭・地域連携担当者会や保幼小連携・接続担当者会への参加や実施支援を通して、各校の魅力ある学校づくり等の取組を支援する。
- ・ポジティブ行動支援に関する調査研究を通して、主体的に活動できる子どもたちを育てる学級経営や生徒指導のあり方について研究する。
- ・道徳教育担当者会を核として、各校の道徳教育の推進や授業実践に対する支援を行う。
- ・人権・生徒指導担当者会等への参加や実施支援を通して、各校における人権教育や生徒指導の充実を支援する。

○特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応

- ・香南市内の保育所、幼稚園、こども園、小中学校における発達支援サポートシステムの構築を目指して、高知健康科学大学との連携による共同研究を推進する。
- ・配慮や支援を必要とする子どもたちの架け橋期における引継ぎや対応について調査研究を行い、子どもが安心できる連携や接続のあり方について検証する。
- ・特別支援教育学校コーディネーター会や特別支援教育支援員等研修会等への参加や実施支援を通して、各校における特別支援教育の充実を支援する。

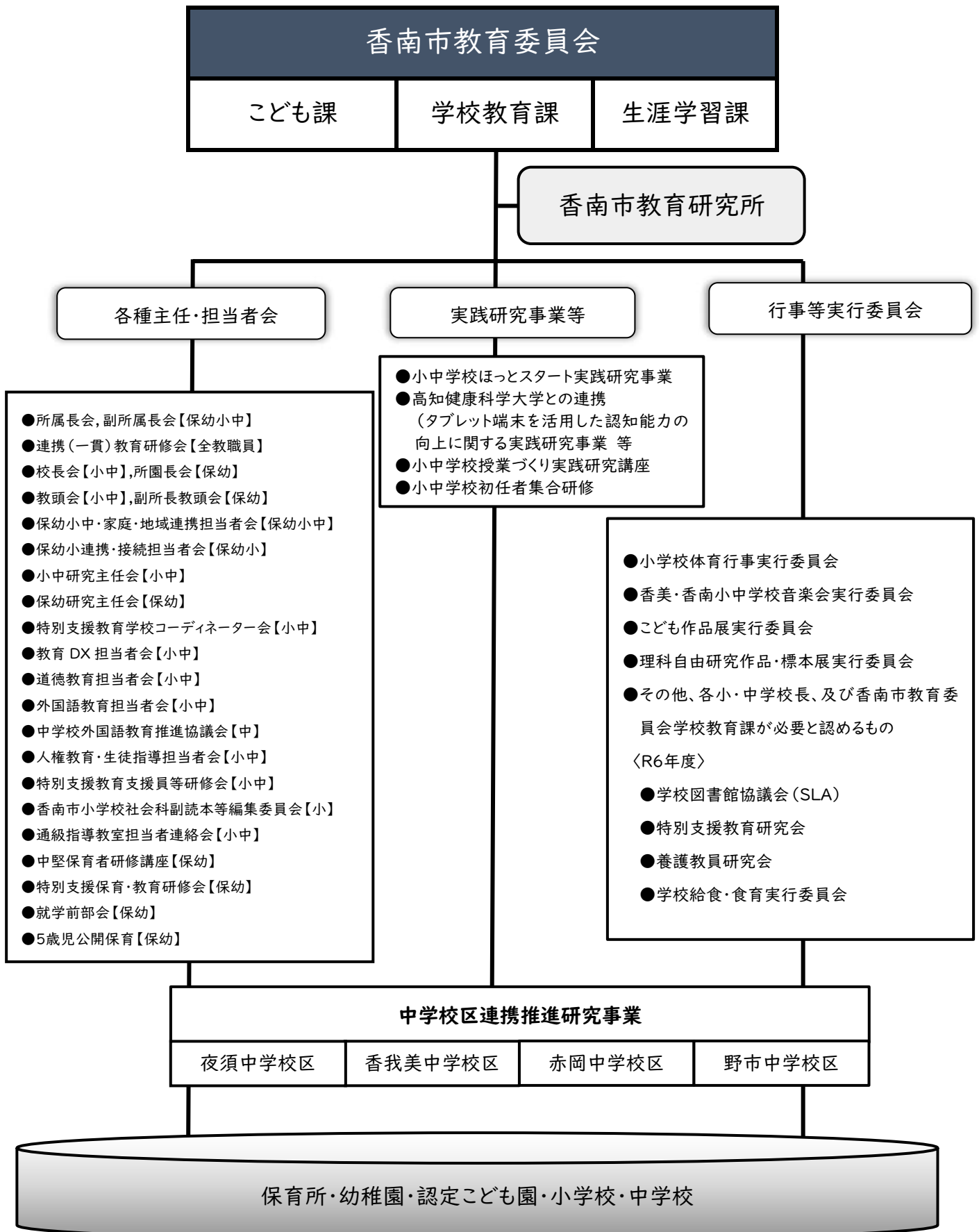
○ICT や情報・教育データの利活用

- ・教育 DX 推進の取組の一貫として、教育研究所からの効果的な資料提供のあり方について研究し、教職員が学校の枠を超えてデジタル学習資料を共有できるシステムの構築を推進する。
- ・学力調査や各種アンケート調査の分析や検証を行い、分析結果の情報共有を行う。
- ・教育 DX やコグトレ推進等の担当者会への参加や取組支援を通して、各校における情報教育や ICT 活用の充実を支援する。

②香南市教育振興基本計画に基づき、保幼小中連携を中心とした子育てや教育の取組に関する調査研究・実践研究を進め、不登校の未然防止や学力の向上等、香南市の教育課題の解決をめざすとともに、保幼小中連携に関する支援体制の充実を図る。

- 「中学校区連携推進事業」に関わる調査研究や実践研究を通して事業支援を行い、各中学校区の連携（一貫）教育の充実を図る。
- 保幼小中・家庭・地域連携担当者会や保幼小連携・接続担当者会をはじめ、各担当者会の実施内容に中学校区の連携や接続に視点を置いた内容をできるだけ設定する。
- 教育 DX の推進における授業 DX に関する調査研究を通して、小中学校の系統性のある授業づくり及び効果的な ICT の活用について研究員の在籍中学校区と連携しながら研究を深める。
- ポジティブ行動支援に関する調査研究を通して、発達段階に応じた系統性のある指導や支援の方法について、研究員の在籍中学校区と連携しながら研究を深める。

Ⅲ-2 香南市教育研究所の機構(香南市教育研究組織)



児童生徒が自律して主体的に学ぶ授業づくり
～系統性のある個別最適な学びと協働的な学び～

香南市教育研究所
研究員 細川寛史

Ⅰ 研究の背景及び研究の目的

(1) 国の動向と在籍校の目指す生徒像

令和の日本型学校教育に関する答申¹⁾では、『ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた「協働的な学び」とを一体的に充実すること』が明記されている。

このことを受け、在籍校の野市中学校では、『自ら課題を捉え、主体的に学び・行動する生徒』を目指す姿として掲げている。具体的には、クラウド活用を基盤とした「探究型の授業スタンダード」を策定し、自律的に学習を進め、自走する生徒の育成に取り組んでいる。

(2) 実践から見えてきた課題

昨年度までの実践の成果として、生徒たちはクラウド上の共有機能を活用し、他者の意見を参照しながら主体的に学ぶ姿を見せるようになってきた。しかし、さらなる高まりを目指す上で、以下の2つの課題が感じられるようになった。

- **対話の固定化と質の偏り**

話し合い活動は行われているものの、相手がいつも「仲の良い友人」に固定されがちである。

- **理解の浅さとアウトプットの弱さ**

他者参照によって表面上の成果物は整うものの、本質的な理解が浅い生徒が見られる。また、得た情報を自分なりの言葉でアウトプットしたり、既習の知識と結びつけたりする力に弱さが見られる。

(3) 研究の仮説と目的

上記の課題を踏まえ、本研究ではクラウド活用を基盤とした学習に「協調学習（知識構成型ジグソー法）」を取り入れることとした。

構成されたグループでの対話や、異なる知識を持ち寄る活動を通して、生徒自身が「情報を関係づけること」や「言葉にして説明すること（アウトプット）」を必然的に意識するようになるのではないか。その結果として、事象に対する理解が深まり、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」がより一層、実現できると考えた。

そこで本年度は、[ICTを利活用した知識構成型ジグソー法]という学習モデルを構築し、その実践を通して生徒の学びにどのような変容が見られるかを検証することにした。

2 研究方法の概要

(1) 対象及び検証方法

本研究の実践は、香南市立野市中学校第2・3学年、および香南市立野市小学校第6学年を対象に行う。提案する学習モデルによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両者が一体的に実現できているかを検証するため、以下の2つの視点から分析を行う。

- **生徒への意識調査**: 授業後に4件法によるアンケートを実施し、生徒の変容を定量的に捉える。
- **授業後の事後検討会**: 授業者や参観者による定性的な振り返りを行い、実際の生徒の姿から有効性を評価する。

(2) 実践の構成と日程

本研究は、段階を追って検証を行うため、以下の2つのフェーズで実践を行った。

- **【フェーズ1】ICTツールの利活用に関する研究**

まずは、タブレット端末やICTツールを活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化がどの程度図れるか、その土台となる現状を検証する。

- 6～7月: 中学2年生(3クラス)
- 10月 : 小学6年生(1クラス)

- **【フェーズ2】学習モデル[ICTを活用した知識構成型ジグソー法]の研究**

次に、本研究の中核となる学習モデルを適用し、その成果を検証する。ここでは、単元の「中盤」と「導入」という異なる場面での有効性を探る。

- 11～12月: 中学2年生(1クラス) ※単元の展開場面(中盤)における活用
- 12月 : 中学3年生(1クラス) ※単元の導入場面における活用

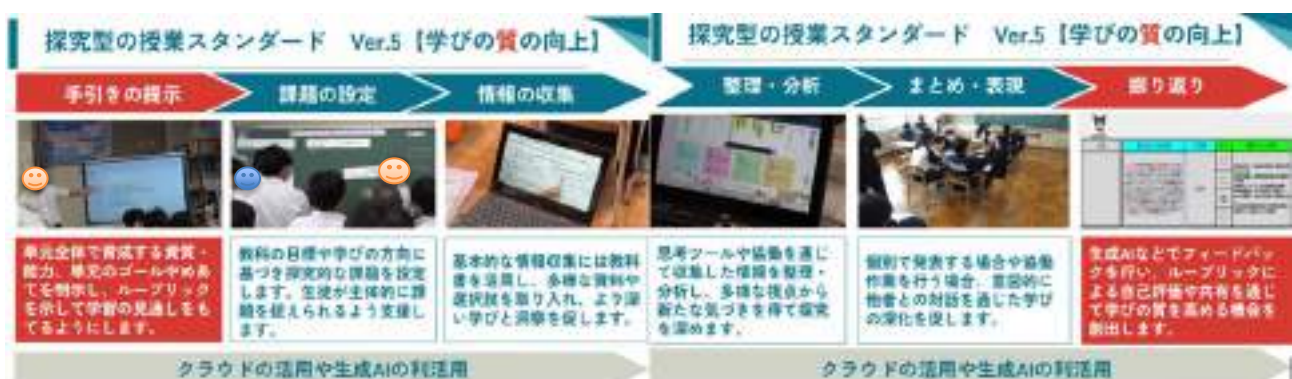
3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現するICTツールの利活用に関する研究

(1) 探究型の授業スタンダード

個別最適な学びにおいては、学習者自身の選択や自己決定を保障する指導スタイルが求められる。在籍校では、生徒が学習の進め方を調整しながら自律的に学ぶことを目指し、「探究型の授業スタンダード」を策定している。

フェーズ1の実践(事例研究1)においても、このスタンダードを踏襲し、以下の6つのステップを基本サイクルとして検証を行った。

【探究型の授業スタンダード:6つのステップ】



[図1 野市中学校 探究型の授業スタンダードの流れ]

(2) Googleアプリの選定と学習環境の構築

「情報収集・整理・分析・他者参照」を効果的に行うためのツールを選定するため、各Googleアプリの特徴を比較・検討した(表1)。

アプリ名	主な操作的特徴	有効な活用場面(整理・分析)
Google スライド	・リアルタイム共同編集 ・図形、画像、動画の配置が容易	【グループでの意見交換・構造化】 複数の意見を視覚的に配置・分類し、関係性を図示する。発表資料の作成に適する。
Google ドキュメント	・テキスト入力中心 ・コメント、提案モード機能	【論理的な文章構成・記述】 考えを文章で深く掘り下げ、論理的に構成する。レポート作成や相互フィードバックに適する。
Google スプレッドシート	・数値処理、計算、グラフ化 ・ソート(並べ替え)機能	【データ分析・数値整理】 実験データを客観的に分析したり、グラフ化して傾向を把握したりするのに適する。
FigJam	・ホワイトボード形式(無限キャンバス) ・付箋、スタンプ、図形描画が自由	【発散的なアイデア出し・思考整理】 自由な発想を書き出し、リアルタイムで動かしながらグルーピングや構造化を行うのに適する。

[表1 Googleアプリの比較と活用特性]

比較の結果、「自由度が高く、全体を俯瞰できる点」や「他者参照が容易である点」を評価し、授業のメインプラットフォームとしてFigJamを採用することとした。また、単元全体を1つのフォルダで管理できるため、過去の学習履歴へのアクセスもスムーズである。さらに、生徒間のコミュニケーションツールとしてGoogle Chatも併せて導入した。

(3) 実践Ⅰ：中学校理科「生物と細胞」「植物のからだ」

中学2年生3クラスにおいて、計17時間の単元を通して実践を行った。授業は前述のスタンダードに基づき、生徒主体で展開した。

ア 授業の様子 (FigJam・Chatの活用)



[図2 FigJam全体構成]

クラス全体の活動が一覧で見られ、手引きや参考資料等も同じページ内で即座に参照できる。



[図3 個別のセクション]

他者参照によりヒントを得つつも、一人ひとり独自の視点でまとめ方が異なっている様子が見られる。



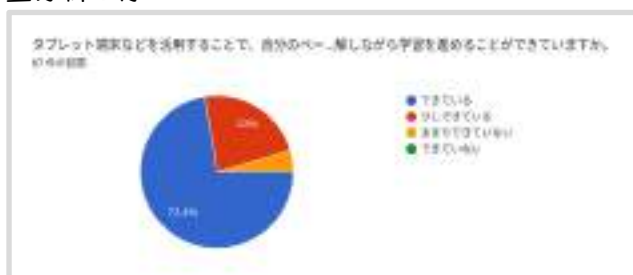
[図4 生徒用Google Chatの写真]

全体や個別のスレッドで、生徒同士が自由に議論や解説を行い、学び合いが発生している。

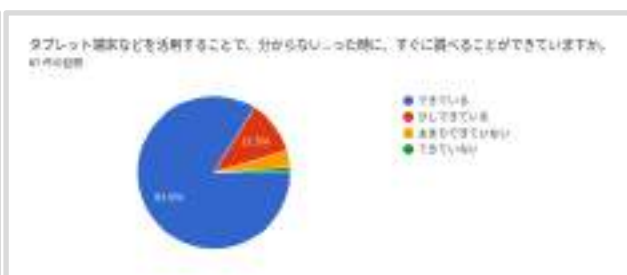
イ 授業後アンケートの結果にみる成果と課題

単元終了後、ICT活用の有効性について生徒アンケート(4件法および自由記述)を実施した。

「できている」を4点、「少しできている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点として定量分析を行った



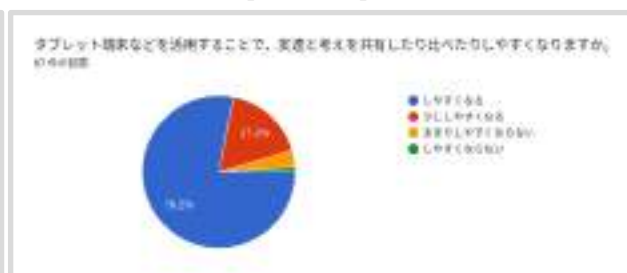
[図5 Q1]



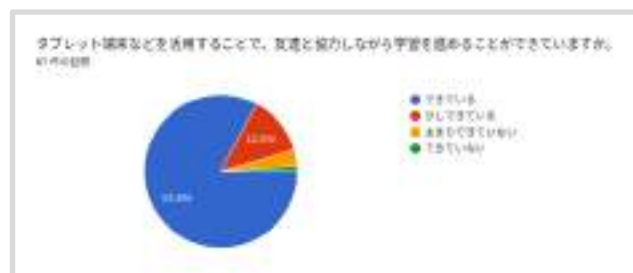
[図6 Q2]



[図7 Q3]



[図8 Q4]



[図9 Q5]

【成果】協働学習と情報収集の日常化

項目②「即時調査(3.71)」と項目④「共有・比較(3.74)」において高い数値が示された。このことから、リアルタイムで共有や、生じた疑問をその場で解決するサイクルが確立されていると考えられる。また、全項目において肯定的評価(3もしくは4)を選択している生徒が88.5%を占めており、全項目で強肯定(4)を選択した生徒は50.6%であった。そういった生徒にはタブレット端末が、深い学びを支える基盤になっていると言える。

【課題】「表現の質」と「個別最適化」の壁

一方で、相対的に数値が低かったのが項目③「表現(3.59)」と項目①「自分のペース(3.60)」である。ここから、以下の課題が考えられる。

- **表現スキルの深化:** ツールを使うこと自体には慣れていても、それを活用して「論理的に自分の考えを構造化する」段階には課題が残る。単にスライドや内容をまとめるだけでなく、「結論・理由・根拠」を結び付ける論理構成、思考ツールなどアウトプットの質を高める指導が必要である。
- **層別化された支援の必要性:** 全体的には高評価だが、8%の生徒において、複数項目で「2(あまりできていない)」以下の回答が見られた。この層にとっては、タブレット端末操作が認知的な負担となっている可能性がある。今後は、デジタルとアナログの併用を柔軟に認めたり、操作のサポート体制を充実したりするなど、「個別最適な学び」を保障するためのきめ細やかなフォローが必要と考えられる。

ウ 自由記述に見る成果と課題

自由記述(全87件)の分析では、肯定的評価が75.9%であった。

最大の成果は「思考の可視化」による「相互参照」の定着である。従来の「教師対生徒」の垂直的な関係から、「生徒対生徒」の水平的な学びへと移行している様子が見えてくる。

● 【生徒の声:メリット(成果)】

- **意見の可視化:**「みんなの意見がすぐ見れて参考になる」「自分の課題に足りないところを埋められる」
- **視野の拡大:**「自分と違う考えを知れる」「話したことのない人の意見もわかる」
- **心理的安全性:**「席を立たなくても質問できる」「絵文字で評価し合えるのが良い」
- **自己調整:**「自分で結論を出す授業は挑戦しがいがある」「どこが分からないか自覚できる」

● 【生徒の声:課題(懸念点)】

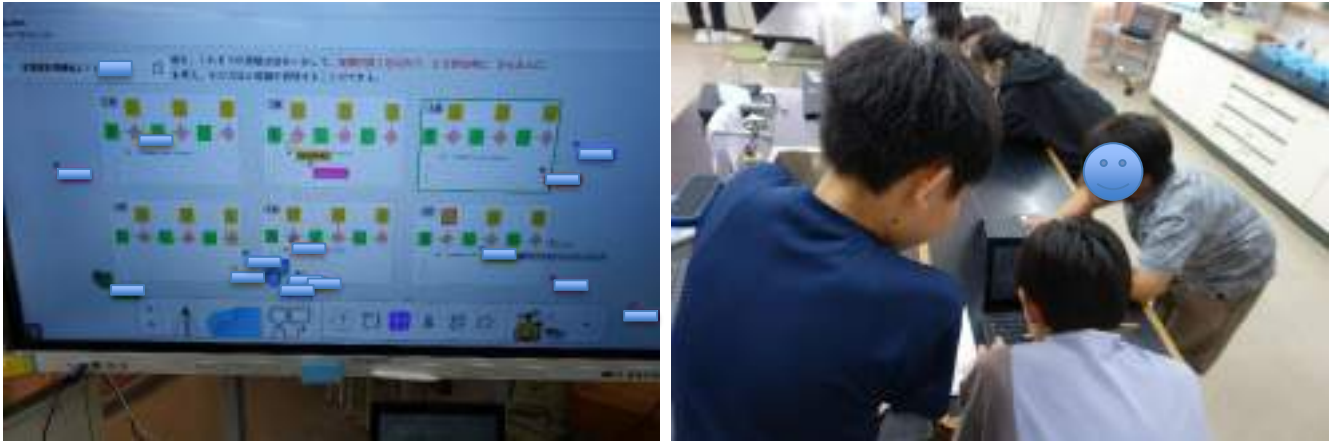
- **操作性・トラブル:**「写真を貼るのが難しい」「誤って他人の意見を動かしたり消したりしてしまう」
- **学習適性:**「ノートに書く方が覚えられる」「アナログも併用したい」

これらより、ICT(FigJam等)の利活用は「学びの自律化」と「協働的な知の創造」を強力に推進する一方で、操作スキルの習熟や、アナログ学習との最適な使い分けという新たな指導上の視点も浮き彫りになった。

(4) 実践2: 小学校理科「水溶液」

小学校6年生(1学級)の理科「水溶液の性質」における実践(2025年10月実施)である。

本時では、5種類の正体不明の水溶液を見分けるための実験計画を作成する場面でFigJamを活用した。特に「フローチャート作成機能」を用い、班ごとに思考を整理させた。



[図10: 実験中の児童の様子・タブレット画面]

ア 授業分析(事後検討会より)

授業後の研究協議で出された成果と課題を整理する。

ツール・視点	期待された効果	協議での評価・実際の児童の姿
FigJam (フロー図)	思考の可視化 論理構築	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な共有に極めて有効であった。 ・一方で、操作に不慣れな児童もあり、習熟度に個人差が見られた。
他者参照	多角的な視点の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・「他の班のここが良い」と対話のきっかけになった。 ・他班の計画を取り入れ、自班の計画を修正する姿が見られた。 ・形式的なコピーを防ぐ手立てが必要。
既習スライドの参照	知識の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の実験結果を根拠にするなど、情報の活用が定着していた。

表2

小学校段階においても、FigJamによる他者参照は、自らの考えを客観視するきっかけとして有効であった。今後は、日常的に多様なツールに触れ、文房具のように端末を使いこなす素地を低学年のうちから養うことが、高学年・中学校での深い学びにつながると考えられる。

4 [ICTを利活用をした知識構成型ジグソー法] 学習モデルの実践研究

(1) 知識構成型ジグソー法と本研究の学習モデル

「知識構成型ジグソー法」(東京大学CoREF開発)は、生徒同士が異なる「部品(知識)」を持ち寄り、対話を通して一つの大きな「答え」を作り上げる協調学習の手法である。²⁾³⁾

本研究では、先行研究⁴⁾⁵⁾⁶⁾を参考にしながら、この手法にICT特有の「選択・共有・可視化」の機能を組み込み、在籍校の「探究型の授業スタンダード」に即した新たな学習モデルを構築した。(表2)

【本研究における学習プロセスの概要】

ステップ	活動内容	ICT活用のポイント
① グループ分け (準備)	4人1組の生活班(ホームグループ)を基本とする。	
② 学習課題 (仮説の設定)	本時の「問い」に対し、自分の仮説を立てる。	【全員の考えを可視化】 タブレット上でクラス全員の仮説を一覧表示し、多様な考えに触れる。
③ エキスパート活動 (情報収集)	3~4種類の資料から担当を自己選択する。同じ資料を選んだメンバー(他班混合)で内容を深める。	【選択と協働の促進】 誰がどの資料を選んだかをリアルタイムで把握する。まとめは個人用シートに入力し、いつでも参照可能にする。
④ ジグソー活動 (整理・分析)	ホームグループに戻り、異なる知識を持ち寄って「答え」を作る。	【思考の統合・アセスメント】 班の議論をリアルタイム共同編集で記録する。教師は各班の進捗をモニタリングし、停滞している班へ即時介入する。
⑤ クロストーク活動 (比較・検討)	他班のまとめを見て、気になった点をインタビュー形式で質問し合う。	【相互参照による気付き】 タブレット上で他班の成果物を確認し、自分たちの考えとのズレや共通点を発見する。
⑥ 振り返り (まとめ・表現)	全体の活動を通して、最終的な自分の考えをまとめる。	

表3

(2) 実践1: 中学2年 理科「日本の四季の天気」

- 時期・対象: 2025年12月 / 中学2年生 (33名)
- 単元の問い: 「日本の特徴的な四季の天気は、何によって決まっているのだろうか?」
- 使用ツール: FigJam (メイン)、Chromebook

ア 授業の構成

日本の天気の特徴づける『春・秋』『夏』『梅雨』『冬』の4つの季節要因を「部品」とした。

1時間目は、自分が選択した季節について、同じ季節を選んだ生徒同士(エキスパート)で「特徴・天気図・要因」を徹底的に調べた。2時間目はホームグループに戻り、それぞれの季節のメカニズムを持ち寄ることで、日本全体の気象メカニズム(西高東低や太平洋高気圧など)を統合的に理解することを目指した。

イ 活動の様子とICT活用



[図11: FigJam全体構成] クラス全体の思考がこの1枚に集約されている。



[図12: エキスパート活動の個人セッション]

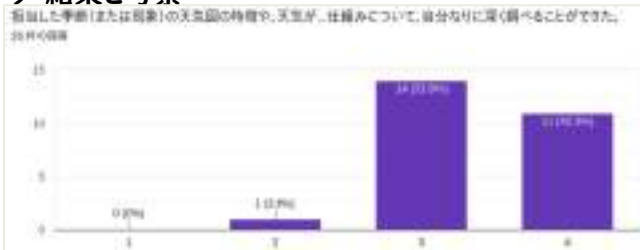
担当する季節によってセッションの色を変え、視覚的に区別しやすくしている。



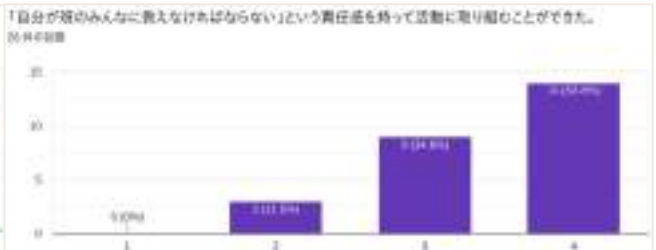
〔図13:ジグソー活動の個人セクション〕

ベン図やチャート・表など、生徒が思考ツールを自己選択して整理・分析を行っている。

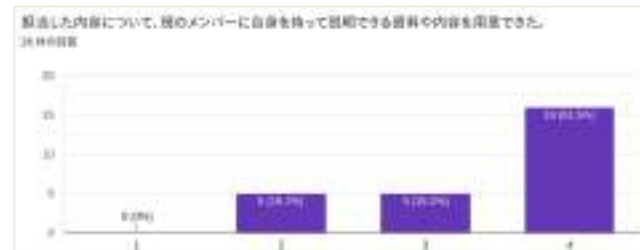
ウ 結果と考察



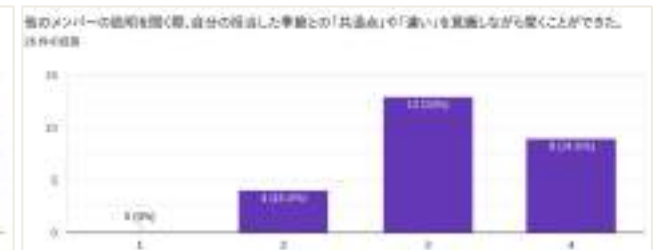
〔図14 Q1〕



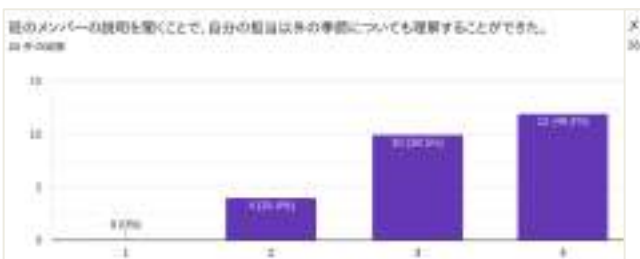
〔図15 Q2〕



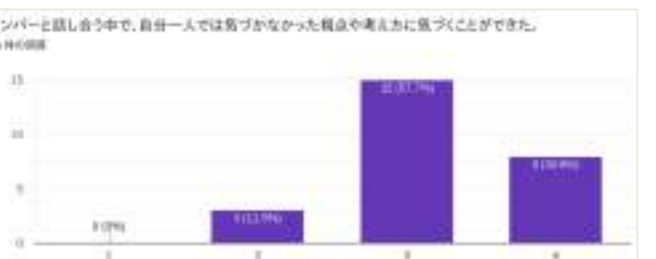
〔図16 Q3〕



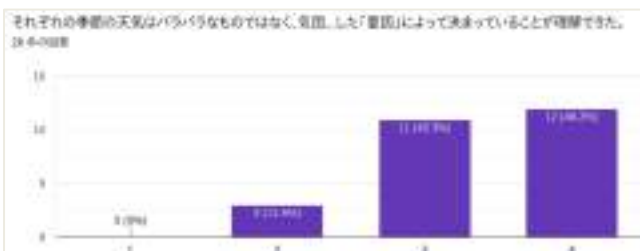
〔図17 Q4〕



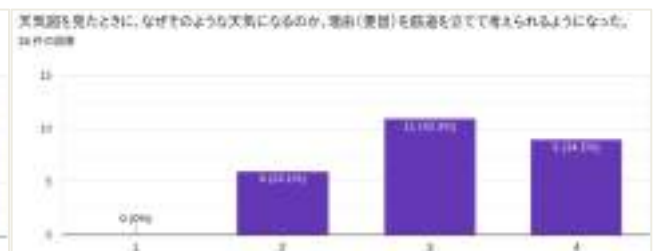
〔図18 Q5〕



〔図19 Q6〕



〔図20 Q7〕



〔図21 Q8〕

アンケート結果(図参照)および自由記述から、以下の成果と課題が明らかになった。

【成果】責任感と自己効力感の高まり

特筆すべきは、「エキスパート活動」における意欲の高さである。「責任感を持って取り組んだ(Q2)」の平均値は3.44、「説明する自信がついた(Q3)」の平均値も3.44と、全項目の中で最も高いスコアを示した。「自分が調べないと班のみんなが困る」という状況と、FigJamによる他者参照できる環境が、生徒の当事者意識を向上や自信のあるアウトプットにつながったと言える。

【課題】「情報の交換」から「知の統合」への壁

一方で、情報を持ち寄って結論を出す「ジグソー活動」では、数値の伸び悩みが見られた。「対話による新たな発見(Q6)」は平均値3.22、「筋道を立てて考える(Q8)」は平均値3.15と、エキスパート活動と比較して低い結果となった。

自由記述においても「自分の担当については詳しく知れたが、共有の時に情報が一気に入ってきすぎて、うまく知識を取り入れられなかった。」という認知的負荷の高さを訴える声があった。エキスパート活動で個々が詳しく調べすぎた結果、ホームグループでそれらを統合するための「共通の軸(気温・気圧・風など)」を見つけるのが難しかったようである。「教える準備」には熱心だったが、「聞く(他者の情報を利用して考える)」姿勢への転換に課題が残った。

ただし、深い学びを実現した生徒もいる。「季節ごとの特徴は違うが、気圧や風などの要因で決まる仕組みは一年を通して共通していることが分かった」という記述のように、雪が降る等の具体的な現象抽象的な概念で結び付けられたケースもあった。

今後は、単に説明し合うだけでなく、「情報の量」を適切に制御し、「互いの情報の矛盾や共通点を探す」ことに焦点を当てた指導が必要である。

エ 共同実践者による評価と継続的な変容

本単元は、他クラスにおいても授業実践が行われた。共同実践者(授業参観者)による事後評価からは、本モデルの汎用性と今後の可能性について、以下の示唆が得られた。

- **段階的なスキルの習得:** 本学年では、「①前線 → ②気象災害 → ③日本の四季(本時)」と、単元を通じて繰り返し知識構成型ジグソー法を実践してきた。当初は情報の整理や伝達に課題が見られた生徒たちも、回数を重ねるごとに対話の質が高まっていく様子が確認された。このことから、知識構成型ジグソー法における協働スキルは、継続的なトレーニングによって向上することが示唆された。
- **学習形態としての妥当性:** エクスパート活動での「個での探究(責任感)」と、ジグソー活動での「知の統合(協働)」を往還する本モデルは、一人ひとりの学習スタイルを尊重しつつ、最終的なゴールへ全員で到達する手法として有効であると評価された。
- **今後の改善点:** 一方で、情報を伝えるスキルが未熟な場合、ジグソー活動の効果が薄れる懸念も指摘された。今後は、生徒の実態に合わせた「グループ編成の工夫」や、エキスパート活動でどこまで深く学ばせるかという「教材の切り取り方(分量の調整)」について、さらなる検討が必要である。

(3) 実践2: 中学3年 理科「生態系(物質の循環)」

- 時期・対象: 2025年12月 / 中学3年生(36名)
- 単元の問い: 「空気中の酸素や二酸化炭素の量が大きく変化しないのはなぜだろう?」
- エキスパート資料:
 - A. 食物連鎖(生産者と消費者)
 - B. 菌類・細菌類(分解者と呼吸)
 - C. 光合成と呼吸(化学変化とエネルギー)

ア 授業の構成

3年生では、過去の実践者の案を参考に、目に見えない「物質の循環」という抽象度の高い概念を扱った。単元の導入として、既習の知識(空気の成分)を確認した後、上記3つの視点から資料を読み解き、「生態系全体で物質がどう回っているか」というシステムとしての理解を目指した。資料は紙とデジタルの両方を用意し、まとめと共有にはFigJamを活用した。



[図22: FigJam全体構成] クラス全体の思考がこの1枚に集約されている。



[図23: エキスパート資料の選択]

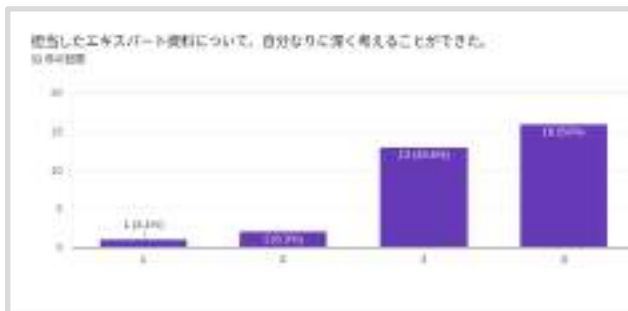
個々がどのエキスパート資料を選択したのかを、可視化するために、FigJamの機能のスタンプを活用した。エキスパート資料をクリックするとPDF化された資料へのアクセスも可能となっている。



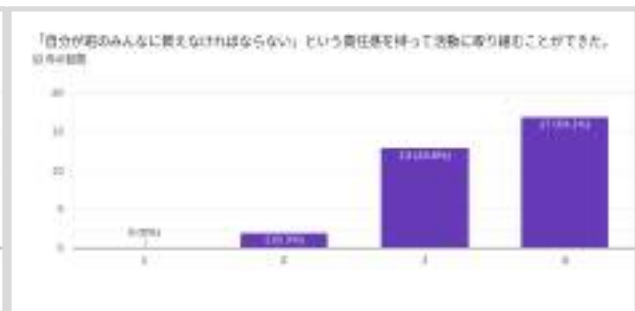
[図24:ホームグループセッション]

互いの矢印をつなぎ合わせ、循環図を完成させている様子。

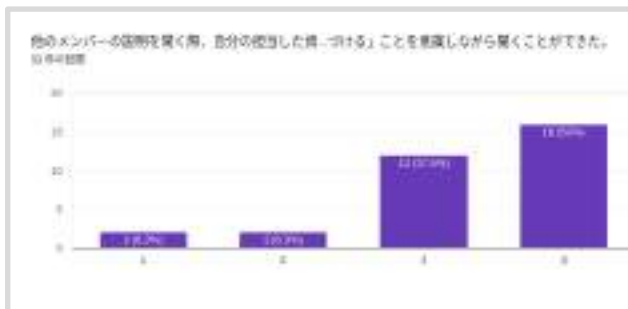
イ 結果と考察



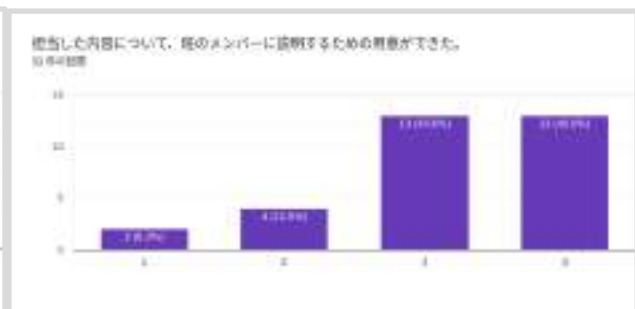
[図25 Q1]



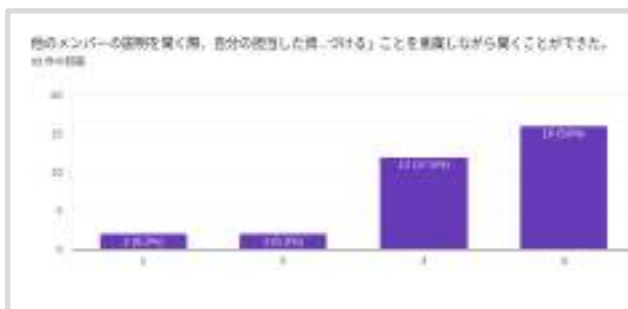
[図26 Q2]



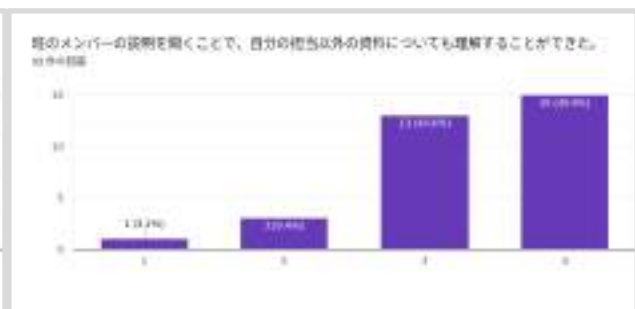
[図27 Q3]



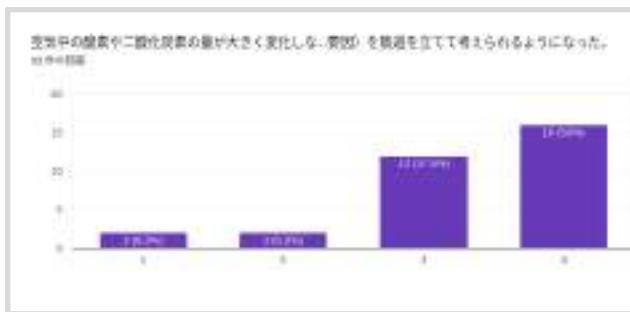
[図28 Q4]



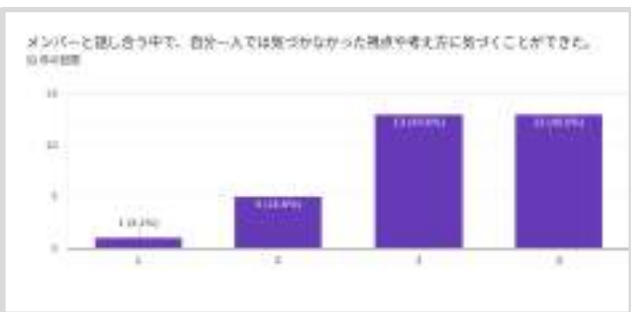
[図29 Q5]



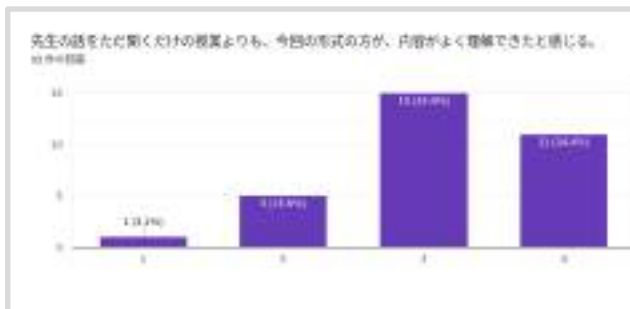
[図30 Q6]



[図31 Q7]



[図32 Q8]



[図33 Q9]

【成果】「構造的な必然性」が生む当事者意識

定量的評価(平均値3.12~3.47)は全体的に高く、特に「相互依存性・責任感(Q2)」は平均値3.47と非常に高く、「探究の深度(Q1)」も平均値3.38と高かった。「自分が説明しないと課題が解決しない」という知識構成型ジグソー法特有の構造的必然性が、中学3年生においても、強い学習意欲を喚起したと考えられる。

【生徒の変容】「点」から「線・面」への理解

振り返りの記述から、概念変容が見られた。「光合成と呼吸だけの関係だと思っていたが、食べる・食べられる関係や、死骸を分解する菌類も全て繋がっていることがわかった」という記述に代表されるように、個別の知識が、生態系というシステムとして統合された。

一部の生徒は、「植物→動物→有機物→無機物→植物」という循環の論理を記述できていた。これは、一人で学ぶだけでは到達しにくい、他者の視点を取り入れたからこそその成果である。

【課題と展望】「情報の持ち寄り」から「知の再構成」へ

2年生の実践で見られた「統合の難しさ」は、3年生の数値データにおいても現れた。活動フェーズ別の分析から、心理的安全性の高いエキスパート活動(Q1-Q3平均値3.34)に比べ、異なる知識を統合するジグソー活動(Q4-Q6平均値3.27)の数値はわずかに低く推移した。これは、単なる「情報の持ち寄り」から「知の再構成」への転換において、より一段高いハードルを感じていることが読み取れる。実際、生徒からは「説明するのが難しかった」「一人が間違えると破綻する」といった「難しさ」や「プレッシャー」を感じる声も聞かれた。しかし、これはネガティブな要素だけではなく、これまでの受動的な授業では感じる事のなかった、探究的な負荷に生徒が向き合った証拠であり、責任ある探究が行えたとも捉えられる。

この負担感を知的な面白さへと昇華させるために、ICTによる可視化や共有のスピードをさらに活かし、生徒の思考の支援を調整していくことが今後の展望である。

ウ 参観者による評価と学習プロセスの有効性

授業参観者の評価からは、生徒の「学ぶ姿勢」と「知識定着のプロセス」において、以下の肯定的な見解が得られた。

- **役割意識が促す「能動的なインプット」**: 生徒自身がエキスパート活動の意義(自分が情報を持ち帰らなければならない)を深く理解しており、グループに対する強い責任意識が見られた。その責任感が、与えられた資料を「なんとなく読む」のではなく、「必要な情報を必死に読み取ろうとする」という能動的な姿勢へとつながっていた点である。
- **アウトプットによる知識の定着**: 単に情報を知るだけでなく、得られた情報や共通課題に対する考えをホームグループで他者にアウトプットする場が確保されていた。この「他者に伝える」という行為自体が、生徒自身の知識をより確実なものへ定着させる働きかけとなっていた。
- **思考変容プロセスの可視化**: 「個人での仮設 → グループでの情報交換・統合 → 個人での再構築」という一連の学習プロセスが機能していた。参観者の目からも、当初の個人の考えが、班員からの情報や自身が担当した内容を取り入れることで、より深く、多角的なものへと変化していく様子が見て取れた。

5 成果と課題

(1) ICT活用がもたらした学習環境の変化

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する基盤として、タブレット端末やツール(FigJam・Google Chat等)を活用した成果と課題は以下の通りである。

【成果:学びの質の変容】

- **「カンニング」から「知の共有(他者参照)」へ**: FigJamの柔軟な操作性とリアルタイム共有機能により、他者の思考プロセスが常に可視化される環境が整った。これにより、他班の計画をヒントに自班の修正を行ったり、異なる視点を取り入れて考察を深めたりする姿が常に見られるようになった。「見る・見られる」ことがネガティブな行為ではなく、学び合いの当然のプロセスとして定着した。
- **「心理的ハードル」の低下と全員参加**: 対面での発言に躊躇する生徒も、チャットや付箋、スタンプ機能を介することで、自身の考えを表出しやすくなった。特定の発言力のある生徒に依存する話し合いから、全員が何らかの形でアウトプットに参加する「知的な対話」へと質が転換した。
- **自己調整学習の促進**: 単元全体の流れや自分の思考の軌跡が瞬時に確認できるため、生徒自身が「自分はどこでつまづいているのか」「既習事項とどう繋がるのか」を自覚しやすくなった。

【課題:操作と思考のバランス】

- **操作習熟度の個人差**: ツールの自由度が高い反面、操作そのものに意識が向いてしまい、本質的な「科学的思考」がおろそかになる場面が見られた。学年や実態に応じたスキル指導の系統化が必要である。
- **デジタルとアナログの最適解**: 「ノートの方が覚えられる」という生徒の声は無視できない。身体性を伴う手書き(記憶の定着)と、構造化・共有に優れたデジタル(思考の拡張)を、学習の目的に応じて使い分ける「学習リテラシー」の育成が今後の課題である。
- **「形式的なコピー」を超えて**: 他者参照が容易になった分、単に答えを写すだけの「形式的な参照」に留まるケースもある。情報を批判的に吟味し、自分の言葉で再構成(引用・統合)させるための、教師側の発問や支援の工夫が求められる。

(2) 学習モデル[ICTを利活用した知識構成型ジグソー法]の実践成果

本研究の中核である知識構成型ジグソー法の実践において、生徒の意欲と理解の質に以下の変容が見られた。

【成果：意欲と概念理解の深化】

- 「説明の責任」が支える主体的参加：「自分が担当部分を理解して説明しなければ、班のみんなが課題を解けない」という知識構成型ジグソー法特有の構造的必然性が、生徒の強い責任感を引き出した。多くの生徒(2年生88%[平均評価3.44]、3年生95%[平均評価3.47])が当事者意識を持って活動に臨む姿が見られ、受動的な学習姿勢からの脱却が図られた。
- 「バラバラの知識」が「つながる」実感：アンケートや記述から、多くの生徒が知識を「体系的なつながり」として理解したことが確認できた。その要因は、活動に「他者に説明する(アウトプット)」という明確なゴールがあった点にある。相手に伝えるために思考を整理する過程と、そこで生まれた「知的な対話」が、断片的な知識を確かな理解へと変える原動力となった。
- 思考整理ツールとしてのICT：説明活動の前に、FigJam上で図解やキーワード整理を行う時間を設けたことで、対話へのハードルが下がった。「何て言えばいいかわからない」という生徒も、画面を見せながら指し示すことで、自信を持って説明に参加することができた。

【課題：「情報の交換」から「知の統合」へ】

- 「持ち寄り」のその先へ：生徒は対話を通して知識を繋ぎ、全体像を把握することには成功した。しかし、全体的に統合のスコアが低い傾向にあり、情報を統合させた「新しい発見」には至っていない。今後、矛盾点や共通点に気づかせるための介入が必要である。
- 複雑な情報の整理：2年生の「気象」のように扱う要因が多い場合、情報を並べるだけで手一杯になり、処理しきれない様子が見られた。事実の背後にある共通ルール(気団の性質など)に目を向けさせるための、より丁寧な補助課題が必要である。
- 言語化への支援：「分かっているけれど言葉にできない」というもどかしさを感じる生徒に対し、文章記述だけでなく、図解やモデル図の作成など、多様な表現方法を評価する仕組みづくりが求められる。

6 今後の展望

本実践を通して、ICTは単なる「提示用の道具」ではなく、児童生徒の思考を拡張し、他者と知を編み上げるための「思考の場(プラットフォーム)」となり得ることが実証された。

この成果を基盤とし、今後は以下の2つの視点から研究を発展させていく。

(1) 「点」から「線」へつなぐICT活用

単年度の実践で終わらせず、デジタル上に蓄積された思考ログを「学びの資産」として活用する仕組みを目指したい。

- 校種をまたいだデータの活用：例えば、中学校の授業で「小学校6年生の時の実験結果やフロー図」を即座に参照できれば、既習知識と新たな学びが強固に結びつく。小・中9年間を見通した、切れ目のない学びを目指す。
- データを活用した個別指導：可視化された生徒の思考プロセス(つまずきの傾向や興味の変容)を教師が分析し、勘や経験だけに頼らない「根拠あるフィードバック」を行う。これにより、「個別最適な学び」の質をさらに高めていく。

(2)「イベント」から「日常」にする授業改善

知識構成型ジグソー法の実践を通して見えた課題(情報の整理・統合の難しさ)を踏まえ、単発の活動ではなく、継続的・計画的な実施による成果の研究を行っていく。

- **思考ツールによる「整理」の効率化:** ベン図やチャートなどの思考ツールを積極的に活用し、情報の整理にかかる時間を短縮する。その分、創出された時間を本来の目的である「分析・考察・統合」といった深い思考活動に充てられるようにする。
- **「一歩先の問い」への挑戦:** 活動のゴールを「知識の習得」で終わらせず、その知識を使わなければ解けない課題を設定する。未知の課題に対し、科学的根拠を持って協働的に立ち向かう力を養いたい。
- **心理的安全性の醸成:** 年間を通じて対話的な学びを繰り返すことで、「分からないと言っても大丈夫」「間違えても修正すればいい」という安心感を学級内に育む。この土台があってこそ、児童生徒一人ひとりの科学的な成長を長く支えることができると考える。

引用・参考文献

- 1)中央教育審議会(2021)『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
- 2)東京大学CoREF 自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト『協調学習 授業デザイン ハンドブック第3版ー知識構成型ジグソー法を用いた授業づくりー』
- 3)高知県教育センター(2018)『探究型学習ハンドブック』
- 4)三宅なほみ, 齊藤萌木, 飯窪真也, 利根川太郎(2012)『学習者中心型授業へのアプローチー知識構成型ジグソー法を軸にー』, 東京大学大学院教育学部研究科紀要, 51, pp.441-458
- 5)横山大河, 松島充(2023)個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する学習モデルーICT活用による選択・共有を生かした授業の提案ー, 香川大学教育実践総合教育研究, 47:43:54
- 6)中澤明子(2023)『対面授業での異なるジグソー法に対する学生の認識』, 日本教育工学会論文誌47, 161-164

ポジティブ行動支援における問題行動へのアプローチに関する研究 ～子どもと先生の笑顔が咲きほこる学校にしていくために～

香南市教育研究所
研究員 中西美和

1 研究の背景及び研究の目的

現在、子どもたちを取り巻く生活環境は大きく変化しており、全国的に不登校等の生徒指導面の問題や二極化などの学力面の課題が顕著になってきている。香南市も同様の傾向が見られ、配慮が必要な児童生徒への関わり方や教員不足による支援体制の構築が十分でないために、学習を受けなくなったり問題行動が日常化したりするなど、子どもたちが学校生活に適應できない事例が増えている。また、それに対する教員の対応がネガティブなものとなり、子どもたちとの関係性をさらに悪化させてしまうという状況も多く見受けられる。

子どもたちの「先生に話を聞いてもらいたい」「もっと自分を見てもらいたい」などの思いに対し、教員がしっかりとその気持ちを受容できずに、「なぜ言うことを聞いてくれないのか」「問題行動への対応が仕方が難しい」といった感情に陥り、子どもたちとの信頼関係が崩れ、学級全体の崩れにつながっていると考えられる。

そのような背景から、配慮の必要な子どもたちを中心に置きながら個々に応じた適切なアプローチを教員が行い、学級経営の基盤となる児童と教員の適切な関係性を構築する手段としてポジティブ行動支援を活用できたらと考えた。さらに、「人間関係づくり」「学級環境づくり」等に対する組織的な取組としての有効性についても検証していきたいと考えた。

そこで、先行研究の把握や研究対象校での調査研究を通して、ポジティブ行動支援の導入に当たっての学級経営、子どもへのアプローチの仕方、学校全体での取組など、効果的な活用方法探し、子どもと教員との関係生や学校全体でのポジティブ行動支援によって、より良い学級経営の一助になることを目指した研究を行いたいと考えた。

2 研究方法の概要

学校全体でポジティブ行動支援に取り組んでいる県外の先進校を視察し、先進校の具体的な取組事例の中から、モデル実践校となる在籍校の赤岡小学校、赤岡保育所の実態にあった取組をピックアップして実施計画を作成した。

まず、赤岡小学校、赤岡保育所職員に研究の方向性の説明や協力の依頼を行い、その後、学校全体の取組目標や各学級・保育所での取組内容を設定し、ポジティブ行動支援に繋がる取組を行った。取組ごとに児童の変容を管理職及び担任・保育士と共有し、児童にも周知した。年度末には児童及び教職員への事後アンケートを行い、児童は事前アンケートとの比較による変容を、教職員は取組後の有用感の有無を検証し、ポジティブ行動支援の効果について考察、検証を行った。

3 研究内容

(1) 先進校事例の把握

ポジティブ行動支援に先進的に取り組む県内外の2校（高知県南国市立日章小学校・徳島県美馬市立脇町小学校）の視察研修と県外4校（大阪市立北巽小学校・滋賀県日野町立日野小学校・山口県田布施町立田布施小学校・宮崎県宮崎大学教育学部付属小学校）の実践報告に参加した。

日章小学校では、桜美林大学の石黒先生の研修に参加させてもらい、各学級を通覧させてもらった後、教員研修で石黒先生の講話を聞かせてもらった。徳島県美馬市立脇町小学校では、徳島県のポジティブ

行動支援のモデル市として、「学校全体で取り組むポジティブ行動支援（スクールワイド PBS）モデル事業実践校として3年間の指定を受け取組を進めている。また、12月には大阪教育大学で開催された「エビデンスに基づく行動支援・実践コミュニティ」と題し大阪市立北巽小学校・滋賀県日野小学校・山口県田布施西小学校・宮崎県宮崎大学附属小学校の4校の実践報告を聞きことができた。

この研修で得た成果をもとに、実践校において研究を進めていった。

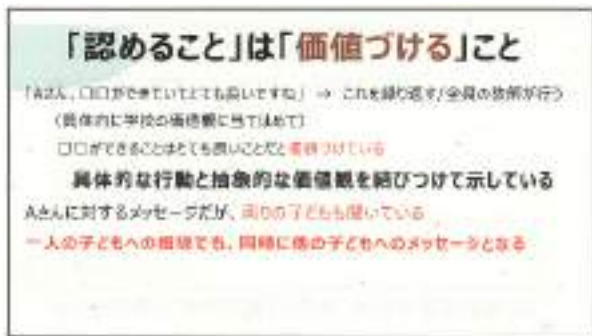
○高知県南国市立日章小学校

6月13日、南国市立日章小学校の視察を行った。日章小学校では、桜美林大学の石黒康夫教授を講師に招き、学級の授業の通覧をした。石黒先生から事前に「先生方の児童への声かけやかかわり方を勉強されるといいですよ」とアドバイスをもらい、授業を見せてもらった。先生方は児童に対し、丁寧な声かけと全ての児童に関わり、関係性を深めている様子が見られ、学級経営の大切さを学ぶ機会となった。

日章小学校では、各学級の「行動マトリクス」を作成しており、そのマトリクスを基本に教員は児童への具体的な支援を行っていた。先生方に行動マトリクスの効果を聞くと「どの場面でどのように称賛すればいいかが具体的に分かる。」「児童の望ましい行動を継続させるための関わりが可視化され、児童の良い行動が強化されている。」と話してくれた。日章小学校は、児童が落ち着かない現状が続いていたため「スクールワイド PBS」の導入し、教職員の児童への関わり方が変わり、児童の言動や行動も日々変容する姿が見られていったようである。その後の石黒先生から、「子どもの良さを認める指導・コミュニティワイド PBS」と題した講話を聞いた。「認めること」は「価値づける」ことであり、具体的な行動と抽象的な価値感を結びつけて示していくことが子どもの良い行動を強化していく。ほめること、認めることを大切に「できている」「それでいいよ」「ちゃんと見ていますよ」ということを児童にフィードバックし、子どもの適切な行動に対して肯定的に称賛することを継続していくことが大切であるなどの講話をいただいた。



各学級に「行動マトリクス」が掲示されていた。
写真を載せることで具体的に行動しやすい目標となっている。



(資料1) 石黒先生の講話より

○徳島県美馬市立脇町小学校

7月4日、徳島県美馬市立脇町小学校の視察を行った。脇町小学校は今年度から徳島県のポジティブ行動支援モデル市の実践校「学校全体で取り組むポジティブ行動支援(スクールワイドPBS)モデル事業の指定校として実践を重ねている小学校である。学級崩壊が続く中、「教師と児童の信頼関係を取り戻したい」「教育活動を好循環させたい。」との思いでスクールワイドPBSの取組をスタートさせた。脇町小学校では、①特別支援教育を教育活動の基盤に据える。②幼小中が同じ手法を用い、望ましい行動を増やす教育活動を展開する。③ポジティブ行動支援推進上の留意点について、共通理解を図る。ことを大切に取組を行っている。具体的な実践である「脇小3つの約束」として、朝のあいさつ運動・帰りの会での「いいところみつけ」と翌日の校内放送での紹介・あったか言葉(「ホット♥脇小」)の木の可視化を柱に実践している。

その他にも、望ましい行動を増やすための全校体制を組み、週目標の提示やフィードバックの紹介、人権主任主事とポジティブ行動支援主任を中心とした校内研修の充実、また、保護者(PTA活動)と連携した取組も行っていった。



脇町小学校の3つに約束



児童会が中心となって活動を進めている



各学級の目標を全校児童に見えるよう掲示



全校児童のあったか言葉の木

学校リーダー講座
行動目標「臨小3つの約束」の誕生

- 気持ちのいい **あいさつ** をしよう
- 「ありがとう」「ごめんなさい」などの **あったか言葉** を言おう
- 友達の良いところを見つけよう

学校リーダー講座
学校経営方針をSWPBS

スクールワイドPBSで安全・安心な学校づくりを

↓

脇町小の教職員はPBSの手法で実践することを紹介！

学校リーダー講座
新組織職員会で共通理解

脇町小の一員としてすべきことを具体的に伝える

↓

PBSを実践すれば「いいこと・効果」がある

学校リーダー講座
「SWPBS」は求められる学校の姿

PBS一点突破でウェルビーイングな学校に

- 児童：具体的な行動がわかる。褒められたい。
- 教職員：信頼関係。教育活動が好循環。
- 保護者：我が子のよさを認めてもらえる。

(資料2) 脇町小学校説明資料

また、徳島県義務教育課の指導主事からも徳島県でのポジティブ行動支援モデル事業についての取組を聞くことができた。徳島県は、ポジティブ行動支援事業を2024年度に特別支援教育課から義務教育課に移行し、ポジティブ行動支援を特別支援教育の手法としてではなく、学校教育の「ベース」として進めている。今年度、さらにポジティブ行動支援の充実を図るため、学校全体で取り組むポジティブ行動支援（スクールワイドPBS）モデル事業を柱に、子ども達の「わかった」「できた」を育むポジティブ行動支援をとくしまの“あたりまえ”にするために徳島県全体でポジティブ行動に取り組んでいる。

ポジティブ行動支援事業について

2024 特別支援教育課から義務教育課へ

ポジティブ行動支援(PBS)を特別支援教育の手法としてだけでなく、学校教育の「ベース」として、とくしまの教育のあたりまえに...

特別支援教育 学力向上 生徒指導 人権教育 GIGA

いじめ・不登校対策 働き方改革・well-being



ポジティブ行動支援モデル市・実践園校

学校全体で取り組むポジティブ行動支援
(スクールワイドPBS)モデル事業

県内4市(1園9校)でスクールワイドPBSを実践

徳島市(方上小・高野中)
小松島市(芝田小・小松島中)
吉野川市(川島小・学島小・川島中)
高松市(認可幼・認可小・認可中)

ポジティブ行動支援プロジェクトチーム

最新の知見を有する専門家が実践をサポート

徳島大学 大久保 賢一 教授 徳島県内
大阪教育大学 山崎 和貴 准教授 徳島市
大阪教育大学 野田 統 准教授 小松島市
近畿大学 大久保 香奈子 准教授 吉野川市
近畿大学 田中 善大 准教授 美馬市

【事業説明】ポジティブ行動支援の成果・課題

成果

① 徳島県 小・中学校 全学年で「学習到達目標達成率」を向上させるための取り組みとして、**PBSの取組を導入**

「高学年に比べて低いところがある」と報告した生徒が前年より15.8ポイント増加(前年より4.1ポイント上昇)

県・全国平均を上回ったのはR5年度が初

学年	達成率	県平均	全国平均
1年	85.4%	82.0%	81.0%
2年	88.1%	85.0%	84.0%
3年	90.2%	87.0%	86.0%
4年	92.5%	89.0%	88.0%
5年	94.8%	91.0%	90.0%

② 徳島県 小・中学校 学校改善アンケートより

「課題だった学習面は改善されてきた」と感じる割合が、令和4年度と比べて**4.4%アップ**

【事業説明】ポジティブ行動支援の成果・課題

成果

① 徳島県 小・中学校 学校改善アンケートより

② 「自分にはいいところがありますか」の割合

③ 「いいところが増えた」と感じる割合

④ 「いいところが増えなかった」と感じる割合

(資料3) 徳島県の取組資料

○エビデンスに基づく行動支援・実践コミュニティ

大阪教育大学で開催された研修会では、大阪市立北巽小学校・滋賀県日野小学校・山口県田布施西小学校・宮崎県宮崎大学附属小学校の4校の実践発表を聞いた。

大阪市立北巽小学校では、学習面におけるポジティブ行動支援の取組に力を入れ、指導案にポジティブ行動支援計画シートを作成し、全校研修後の事後研修では、ポジティブ行動支援計画シートを活用して研究協議を行うことで視点が明確化され、教職員にとってより良い研修となる実践が行われていた。

ポジティブ行動支援通信

今年7年11月25日 No.10 土曜朝刊 高野 昌

★5年2組のABC行動支援計画シートの取り組み (PBISの実践)

ポジティブ行動支援計画シートの取り組みが、5年2組のABC行動支援計画シートの取り組みですが、新しい目標は、「8割30分までの行動遅延率を8%以上を目指す」です。この目標での取り組みは、11月1日から始めました。取り組み開始後のグラフは、上の通りです。グラフを見ての通り、実施前と実施後の達成状況は、実施後が格段に良くなっていることが分かります。ここから効果が出ることは懸念していませんでした。嬉しく思っています。

(資料4) 滋賀県日野小学校

第2層支援 Check-in/Check-outの効果

△点 学校生活や授業へ適応 学力の向上

保護者 子どもとの関係性向上 学校への信頼

担任 子どもとの関係性向上 チーム支援による負担軽減

学校 問題行動の対応への負担軽減 働き方改革

(資料5) 宮崎県宮崎大学附属小学校



(資料6) 大阪市立北巽小学校

3 (2) 実践校での取組内容の共通理解

本年度は、学校全体で取り組むポジティブ行動支援を全学年に協力を得て実践研究を行った。

まず、学校全体でポジティブ行動支援に取り組むにあたって、全教職員に向けた校内研修を行った。次に、学校全体で取り組むポジティブ行動の研究を実施する具体的な実践方法について教職員全員で共有し、学校全体で取り組むポジティブ行動支援の取組について共通理解を図った。また、前年度に作成していた赤岡小学校の学校ビジョンを基本にした行動目標「笑顔があふれる赤岡っ子【赤岡小版 PBS】」の行動目標についても周知を行った。

赤岡小学校における PBS の学校目標

学び	生活	気持ち
<input type="checkbox"/> 相手が話しているときはしっかり聞こう！ <input type="checkbox"/> 自分の言葉で説明しよう！	<input type="checkbox"/> チャイムの合図を守ろう！ <input type="checkbox"/> 時間いっぱいそじをしよう！	<input type="checkbox"/> 相手を見て、元気にあいさつをしよう！ <input type="checkbox"/> あったか言葉を使おう！

(資料7) 赤岡小行動目標

3 (3) 全児童との取組内容の共有

視察校の脇町小学校での実践を参考に赤岡小学校と赤岡保育所で実施した。

目標達成に向けて、各学級に花丸目標ボードを設置し、目標がクラス全員で達成されると花丸ポイントが1つ付き、30ポイント溜まると、大きな花丸を各学年の掲示ボードに張っていく。大きな花丸ポイントが5つ溜まると校長先生から全校集会で表彰するという流れで実践を行った。



各学級の花丸ボード



全校が見えるよう児童玄関に掲示

3 (4) 目標への取組と児童の変容

ア チャイム席を守ろう！

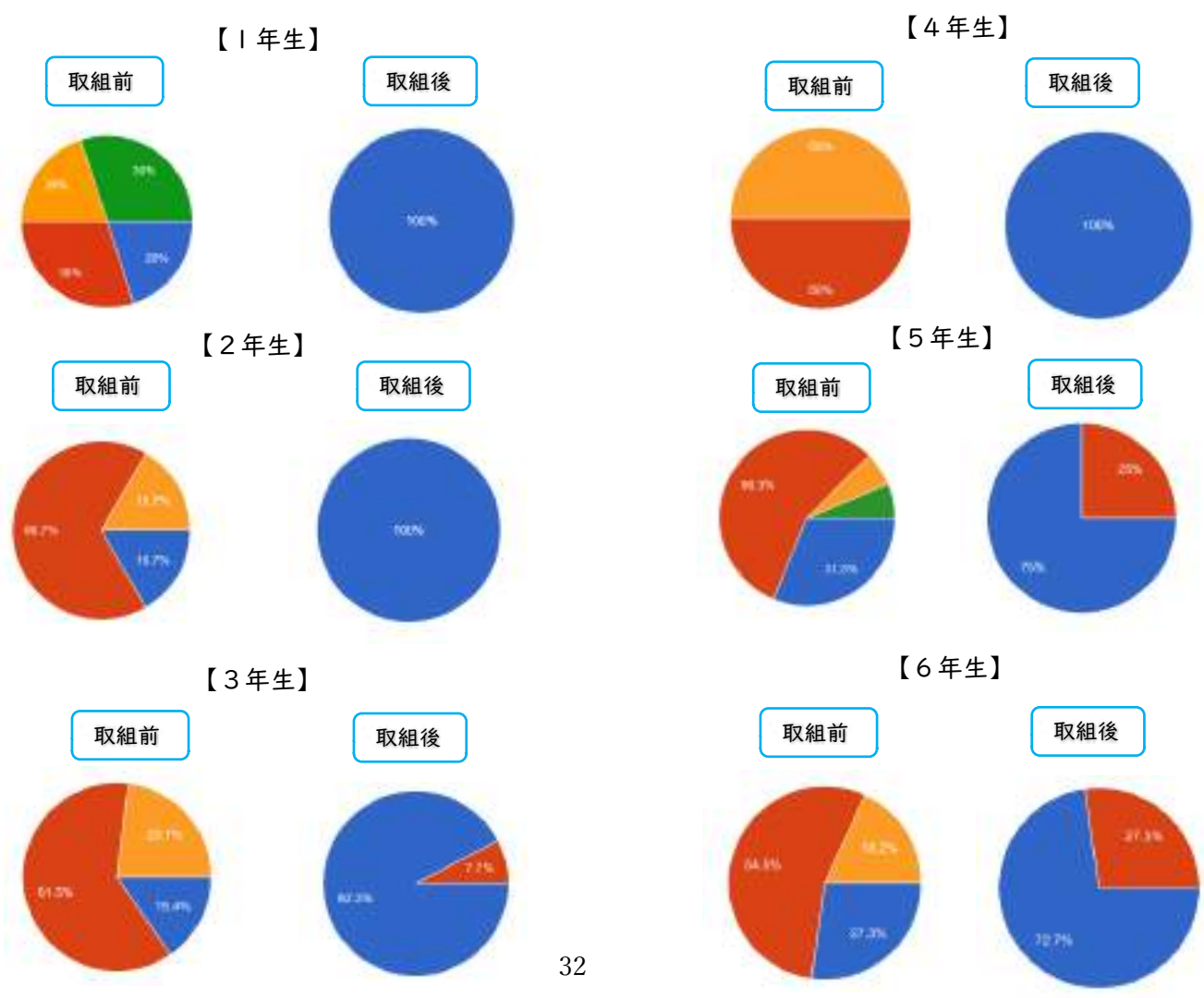
赤岡小学校全体で課題となっていた「チャイム席を守る」を各学級で目標にした。毎時間、児童全員がチャイム席を守ることができたら花丸ポイントが一つ付いていくように目標を設定した。期間は3週間と決めて実践した。実践の様子を各担任と振り返っていく中で、「児童は5分前行動を意識して動くようになってきた」「子ども同士で声を掛け合う姿が見られた」など肯定的な児童の姿が見られた。



チャイム席を守ろう！で花丸ポイントをためています

●できていた
●どちらかといえばできていた
●どちらかといえばできていなかった
●できていなかった

【チャイム席を守ろう！事前事後アンケート】の結果と考察 (グラフ1)



【児童より】

- ・チャイムが鳴る、5分前には教室に入るようになった。
- ・私は、取り組んでみて、自分もできていたし、みんなも取り組めていたからいい取組になったと思った。
- ・ぼくは、チャイム席を守ろうで、時計をよく見るようになったし、5分前行動もしっかりできるようになったから、これからも続けていきたいです。
- ・この目標を守ることによって、授業が早く始まってスムーズに進みました。それに、「みんな早く～！」と声かけもできて、より良いクラスになっていきました。

【考察】

低学年・中学年は、取組前に比べて取組後はほぼ100%の割合でチャイム席が守れるようになった。高学年については、委員会の仕事などでチャイム席を守れない児童もいたが、取組前より改善が見られた。

イ 時間いっぱいそうじをしよう！

赤岡小学校の行動目標にもある「時間いっぱいそうじをしよう！」に取り組んだ。初めに、職員会で先生方に取組の内容を周知し、その後、全校集会で児童に伝えた。赤岡小学校は縦割り班でそうじをしているので、班長さんに協力してもらい、そうじの終わりの反省会で時間いっぱいそうじができた班の児童に花丸シールを渡してもらった。シールをもらった児童は、教室にある花丸シール表にシールを集めていった。その日、花丸シールを学級全員がもらえたら花丸ポイントが一つボードに増えていくという実践を行った。ここでは、期間を2週間と設定していたが、取組が終わる3日前に6年生の児童全員が、「取り組みを始めてから、みんながそうじをととても頑張ってくれているから、続けてやりたいです！」と話があったため、さらに2週間延長して取組を続けた。



花丸シール表



花丸ポイントボード



時間いっぱいそうじをする児童



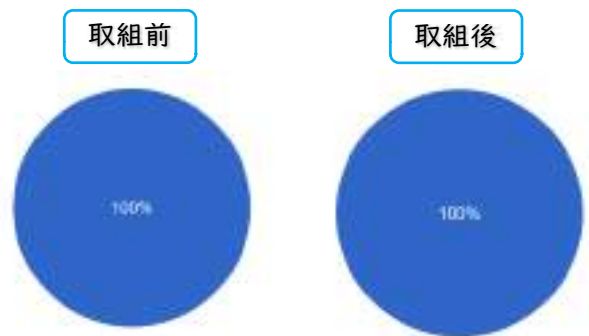
花丸シールで称賛

【時間いっぱいそうじをしよう！事前事後アンケート】の結果と考察 (グラフ2)

【1年生】



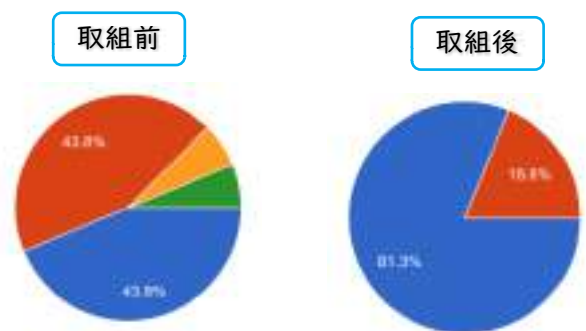
【4年生】



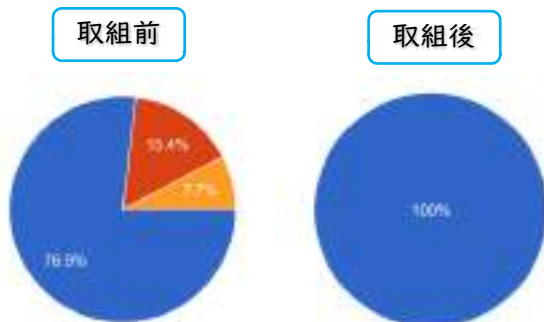
【2年生】



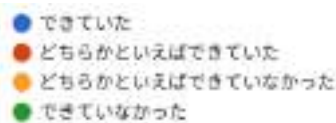
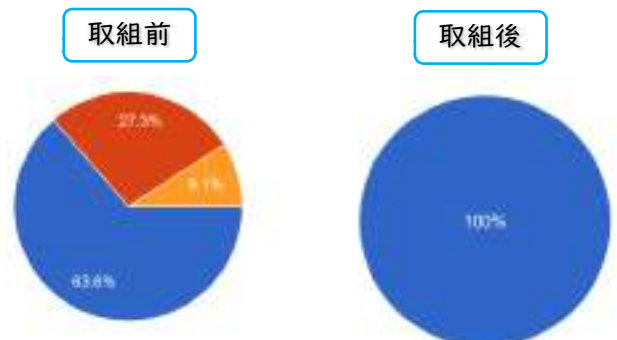
【5年生】



【3年生】



【6年生】



【児童より】

- ・どの学年も時間いっぱい掃除できていた。
- ・この目標のおかげで早く掃除場所に行けるようになったから良かった。
- ・最初はそうじがめんどくさくてやりたくなかったけど、花丸シールをもらった時にうれしかったからもっとがんばろうと思った。だから、そうじが好きになった。
- ・目標をやる前は、早くそうじを終わらせようとする子がちょくちょくいて、声をかけないと最後までしてくれなかったけど、この目標が始まってから多くの子がそうじを頑張って花丸シールをもらえるようにしていた。もらう前も後も、笑顔でうれしそうにそうじをたくさんしてくれるようになった。
- ・取り組む前は班のみんなから「もう時間やき終わらん？」など終わりの時間前に言われていたからど

うしよう…と思っていたけど、この目標をやってみて、みんなが自分の役割をしっかりと時間いっぱいやってくれたからとてもよかった。

【考察】

赤岡小学校の課題の一つとなっていた時間いっぱいそうじをしようでは、なかなか始まりの時間に間に合わない児童が多くいたり、低学年・中学年に児童が集中できず、掃除の途中で遊び始めたりと縦割り班の班長である6年生も悩んでいた。そうした実態もあり、この目標を設定した。

時間に遅れず、時間いっぱいそうじをすると花丸シールがもらえることもあり、班長さんの励ましの言葉もより効果を発揮し、頑張る児童が日に日に増えてきた。アンケートの結果からも分かるように、目標実施前と後とは、時間いっぱいそうじができていた児童が5年生を除いて100%という結果になった。5年生の「どちらかといえばそう思う」と回答した児童に話を聞くと、「昼休み時間をオーバーしてしまって遅れてしまったことがあった」「委員会の仕事を忘れていて、そうじに間に合わなかった」と自分の行動を振り返り、今は時間に守れるように意識して頑張っていると話してくれた。

ウ ありがとうを伝えよう！

赤岡小学校が数年前から取り組んでいる、「あいさつをしよう」「あったか言葉を伝えよう」「感謝の気持ちを伝えよう」を見学が伝えられるよう、手立てを行ってきた。その中であいさつやあったか言葉は増えてきているが、感謝の気持ちを伝えるのが苦手な児童が多いという意見が教職員からも出ていた。そこで、「ありがとうを伝えよう！」を目標にし、1日1回誰かにありがとうを伝えたり、伝えてもらったりできたら目標達成とし、その日学級全員が目標を達成すれば花丸ボードに花丸が増えていく実践を行った。



【ありがとうを伝えよう！アンケート】の結果と考察（グラフ3）

【1年生】

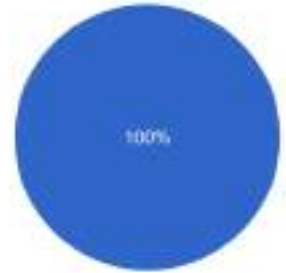
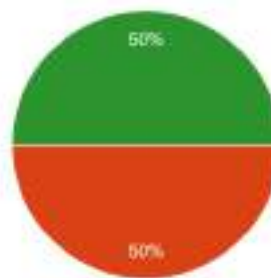
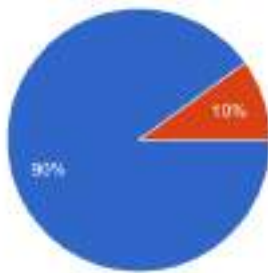
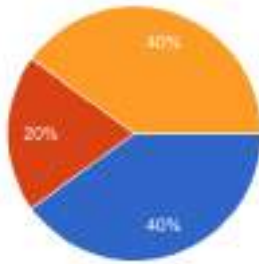
【4年生】

取組前

取組後

取組前

取組後



【2年生】

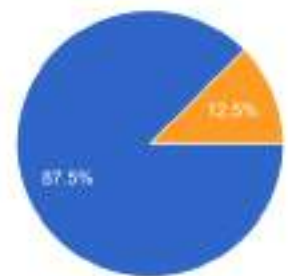
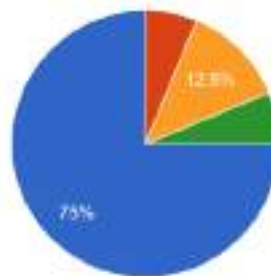
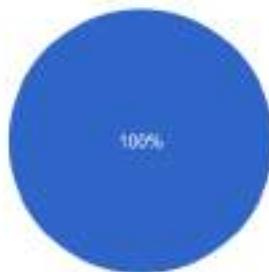
【5年生】

取組前

取組後

取組前

取組後



【3年生】

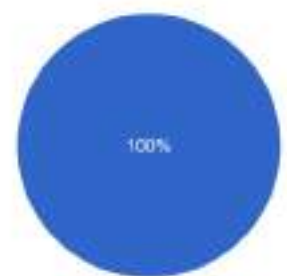
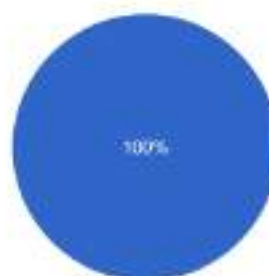
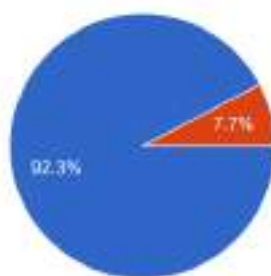
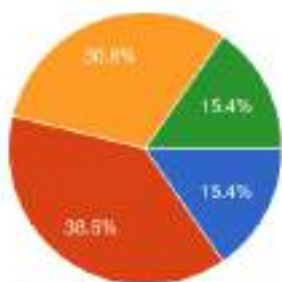
【6年生】

取組前

取組後

取組前

取組後



- できていた
- どちらかといえばできていた
- どちらかといえばできていなかった
- できていなかった

【児童より】

- ・ありがとうと言うのは大切だから、これからも伝えようと思いました。
- ・ありがとうをいっぱい言えてよかったし、気持ちが落ちつくようなかんじがしました。
- ・この目標のおかげで友だちや先生にありがとうを伝えることができるようになった。
- ・ありがとうを言ったり言われたりしたとき、とってもうれしい気持ちになりました。
- ・ありがとうを言うためには、友だちのやさしいところを見つけたし、言われるためにはみんなに親切になれた気がしました。

【赤岡小学校 6 年生の日記より】

ありがとうの大切さ

おはよう、バイバイ、ごめんね、それからありがとう。私たちがふだんから使っている言葉のうち、ありがとうに注目してみます。

きっかけは、花丸目標が来週から新しくなって、ありがとうに関する目標になるからです。そこで、中西先生が「今日 1 日で、ありがとうと言った数と言ってもらった数を数えてください。」と言いました。毎日使う言葉だからこそ気づけなかったけど、ありがとうは言う方も言われる方もうれくなる、温かくて大切な言葉です。なんだかうれしくなる 1 日になりそうだなと思いながらさっそくチャレンジし始めはじめました。

覚えている中だと、プリントを配った時、台ふきをした時、黒板を消した時と言ってもらった方で、給食の片づけを手伝ってもらった時、ボールを片づけてもらった時、理科とか音楽の授業が終わった時と言う方でした。

こうして注目してみると、けっこう使う場面が多いんだなあと感じます。そして、今回のチャレンジで、気をつけようと思ったことがあります。それは、例えば「先に行っていていいよ」と言われたとき、ごめんなさいじゃなくて「ありがとう」を言うことです。その方が感謝しているよと伝わりやすくなるからです。

このように、ありがとうは素敵な言葉です。みんながこの言葉を使ってありがとうで満ちた世界になりますように。

【考察】

アンケートから取り組み前は、ありがとうを伝えることへの意識ができておらず、否定的な回答が 1 年生 40%、2 年生 83.3%、3 年生 46.2%、4 年生 50%、5 年生 25.1%であった。6 年生に関しては事前後も 100%であり、日々感謝の気持ちを伝えることができていくことが分かる。目標実施後はどの学年も 100%に近い数値が表れており、実施後の児童の変容がグラフからも見られる。

5 年生の「どちらかといえばできていなかった」と回答した児童は、場面緘黙であることから、言葉で伝えることが難しく、今後の手立ての方法を検討していく必要がある。



各学年の頑張っています



1 年生が大きな花丸を貼りに来ました

エ ス

昨年度、赤岡小学校 6 年生取り組んでいた Good behavior チケットを今年度は全校で実施した。児童が書いた Good behavior チケット（スマイルカード）を各学年のオープンスペースに掲示し、全校児童が見ることができるよう工夫した。また、Good behavior チケット（スマイルカード）を週 1 回各学年ごとに給食放送で紹介し全校に友だちの良い行動や書いてもらった返事などを伝える取組を実施した。



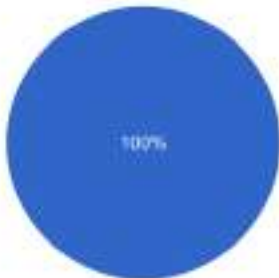
スマイルメッセージを廊下に掲示



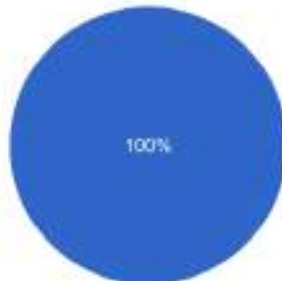
Good behavior チケット

【スマイルメッセージアンケート】の結果と考察 (グラフ 4)
 ○スマイルメッセージの給食放送はよかったですか。

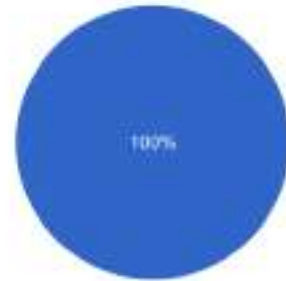
【1年生】



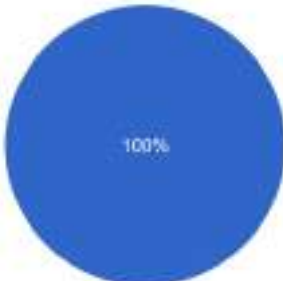
【2年生】



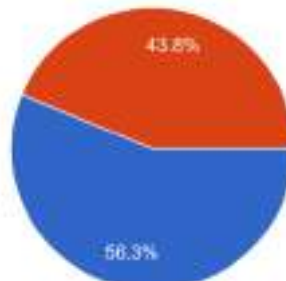
【3年生】



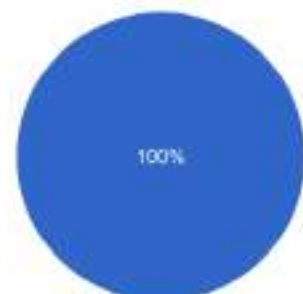
【4年生】



【5年生】



【6年生】



【児童より】

- よかった
- どちらかといえばよかった
- どちらかといえばよくなかった
- よくなかった

- ・自分が書いたスマイルメッセージを放送で聞くと、とってもうれしい気持ちになるのでやってよかったと思いました。
- ・スマイルメッセージの放送は、全校が誰にどんなメッセージを書いているのかが知れてよかったし、毎週のスマイルメッセージの放送が楽しみになってきました。これからも、続けてほしいです。
- ・他の学年のスマイルメッセージを聞いて、友だちが何をしているかが知れたし、こういうことでよるこんでもらえるんだなと分かりました。そして、「今度やってみよう」とか「気をつけて行動しよう」と前向きな気持ちになれたので、いい行動が広がっていったと思います。
- ・5年生以外の学年のスマイルメッセージを聞いて自分もそうしてみようかなーとか これいいなとか思うし5年生のスマイルメッセージを聞いてそういうこともあったんだとか しれたからいいと思いました。
- ・スマイルメッセージの放送は、みんなの優しい言葉や自分がされていいことはどんなことかが知れてよかったです。いい行動が学校や赤岡町にもっと増えるといいなあ。

【考察】

「スマイルカードの給食放送はよかったですか」のアンケートの回答では、5年生以外の学年では100%という結果となった。スマイルカードを掲示するだけでは全校児童に友だちのいい行動や言動を知ってもらうには不十分であると考え、給食時に放送で伝えるようにした。放送が始まってから、スマイルメッセージを積極的に書く児童も増え、自分のメッセージが放送されるのを楽しみにしている姿も見られた。5年生の「どちらかといえばそう思う」に回答した児童に話を聞くと、「全校で放送されるのははずかしかった。」といった意見があり、そのような思いをする児童もいることをこの実践を通して知ることができ、今後の課題として検討していくことが必要だと感じた。

3. (5) 赤岡保育所での実践

赤岡保育所の年長さんを対象に花丸目標の実践を行った。まず、園長先生と副園長先生、5歳児担任にポジティブ行動支援の研究について知ってもらい、研究の協力をお願いした。担任の松本先生にクラスの子どもたちに今頑張ってもらいたいことはどんなことかを聞き、お昼寝後のパジャマをきれいにたためるといいということを共有した。そこで、1回目の花丸目標を「きれいにパジャマをたたもう！」とし、2週間取り組んだ。子どもたちに目標を伝え、その日のお昼寝後から意識して丁寧にパジャマをたたむ姿が見られた。目標が達成し花丸ポイントが増えていくたびに、自分から「先生、きれいにたためたよ」「みんな上手にたためているね」など意欲的に取り組むことができた。2つ目の目標は、小学校の取組と揃えようと考え、『ありがとうをつたえよう！』にした。担任の先生からも、「子どもたちから「ありがとう」とお友だちや先生に伝える姿が多く見られ、クラスが温かくなりとてもいい雰囲気になってよかったです。」と話があった。

また、保育所の方に小学校生の様子や行事の写真を掲示し、小学校入学に向けた接続の一環として定期的に掲示し、子どもたちや保護者に見てもらうようにした。



ありがとうをつたえよう!の目標を頑張っています。



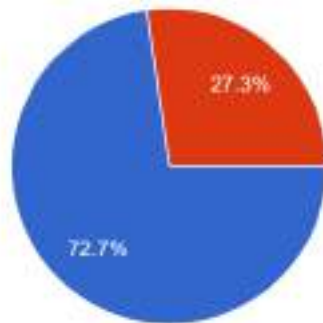
小学校の行事の写真を提示

【教職員】

ポジティブ行動支援実施後、教職員にアンケート調査を行った。今年度は学校全体でポジティブ行動支援に取り組んできた。職員会や校内研修等で実践を共有し、学校全体で決めた「笑顔があふれる赤岡っ子【赤岡小版 PBS】」の行動目標や花丸目標の振り返りとともにアンケートの回答をいただいた。

児童に変容はあったと感じますか。

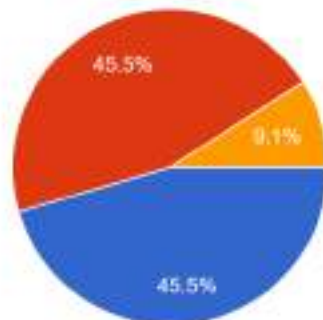
11 件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

今後、学校全体で必要だと感じますか。

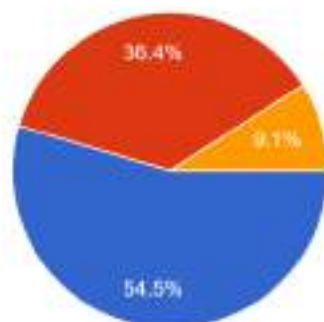
11 件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

継続して取り組みたいと思いますか。

11 件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

(教職員からの記述アンケート)

○成果や変容などを具体的に教えてください。

・1年生は休み時間に掲示しているカードを友達と嬉しそうに見て、読み合っている姿が度々見られた。教員が近くに行くと、「先生、これ見て〇〇ちゃんに私が書いたが」と、自分が書いてもらったカードだけでなく、自分がお友達に向けて書いたカードを見せようとしていた。自分が褒められることだけでなく、人のいいところを見つけられる自分を認められることの喜びを感じられていることは、良い成長だと感じた。

・児童の表情も良くなり、言動に角がなくなり自尊感情（自己肯定感・自己有用感）が向上してきたように感じる。先生方の日々の児童に向き合う丁寧なご指導、ご支援の成果だと考えられる。先生方、いつも丁寧で温かい対応をありがとうございます。

・みんなで取り組む目標があると、児童の意識を高めやすい。花丸がつくことで、自分たちのがんばりが見られ、次への意欲となった。

・児童が友達のよさに気づく視点をもつようになり、友達のいいところを具体的に書けるようになった。

・子どもたち自身が目標達成した時に、これがいい行動なのだと再認識し、友達や保育者にも認めてもらえる場面が増えた。

○今後に向けての意見などを教えてください。

・学校全体で取り組むことがやっぱり大切かなと思っています。

・素敵な評価物（掲示物）を活かし、定期的に取り組週間を設けるとよい。

・全校の具体的な目標に取り組めていいと思う。花丸を増やしたいと頑張っていました。

・個人が視覚化されることを喜ぶ児童と、できる児童でも「個人」が分かる形で表示されるのを嫌がる児童もいました。良くも悪くも「できる子」と「できない子」という意識が児童間の中でさらに印象づいてしまうことが少し心配されました。

・取組内容を、各学級で課題に反映させる等、児童から意見を出して取り組むようにしていったら、どうでしょう。

【考察】

アンケート内容から「児童に変容はあったと感じましたか。」の項目では100%の教員が肯定的な回答をした。9月から学校全体でポジティブ行動支援に取り組み、各学級で実践してもらう中で児童の変容が見られたようだ。教職員は、児童のポジティブな行動に対して肯定的な言葉を伝えることを意識して取り組んだ。例えば、チャイム席ができたときや時間いっぱい掃除ができたとき、また、ありがとうと伝えられたときなど、学校全体で同じ目標に取り組むことにより、児童はたくさんすることに意欲的に取り組んで、仲間を大切にしている行動が増えていき、教職員全員で他学年の児童も称賛することができた。それにより学校全体が温かい雰囲気となったと話してくれた。

次に、「今後、学校全体で必要だと感じますか。」の項目では肯定的な回答が見られ、次年度に向けてさらにより良い取組となるよう広げていきたい。

3項目の「継続して取り組みたいと思いますか。」では、ほとんどの教員が肯定的な回答をし、ポジティブ行動支援の取組を理解し、学校全体で実施していくことの大切さを実感したと考える。

2項目、3項目で「どちらかといえばそう思わない」に回答した教員からは、「継続して取り組みたい・学校全体として必要の質問について、取り組みたいと思うのですが、【毎日】確認することが大変、出張などで担任が不在の場合もある、児童も抜かることがあるのでもっと簡単に取り組めるといいと思う。」といった意見があり、内容の見直しと工夫が必要であると感じた。

記述アンケートから、成果として「学校全体で取り組むことがやっぱり大切かなと思っています。」や「自分自身の行動を振り返る視点(特に前向きな視点)を意識できると、行動が変わると思いました。」「児童が友達のよさに気づく視点をもつようになり、友達のいいところを具体的に書けるようになっ

た。」「児童の表情も良くなり、言動に角がなくなり自尊感情（自己肯定感・自己有用感）が向上してきたように感じる。」など、学校全体で取り組むことにより、教員が全校児童へポジティブな言葉がけから、児童が意欲的に望ましい行動できてきていることが分かる。一方、「個人が視覚化されることを喜ぶ児童と、できる児童でも「個人」が分かる形で表示されるのを嫌がる児童もいました。良くも悪くも「できる子」と「できない子」という意識が児童間の中でさらに印象づいてしまうことが少し心配されました。」という意見も出され、取組の際には、このような児童への配慮・手立てを想定しながら実践を行う必要があると感じた。また、「スマイルメッセージの放送で、全校に伝えられるのが恥ずかしくて苦手な児童もいた。」についても、放送前に児童本人に確認するなどの配慮が必要であった。このような課題に対し、学校全体で目標設定をする中で児童の個々の実態をしっかりと把握し、持続できる目標設定や取組の伝え方の工夫を行っていくことが取組の質を向上させるポイントであると感じた。また、学校全体にポジティブ行動支援の取組を実践していくには、教職員にしっかりと周知することや取組に対し、定期的に振り返りを行い、先生方の意見を検証し、その都度反映させながら取組を実践していくことが重要であるということを今回の研究実践で学ばせてもらった。

4 成果と課題

本年度の成果については、以下の通りである。

- ・ 県外の先進校に視察させていただき、ポジティブ行動支援について多くの取組を知ることができ、在籍校での実践研究に繋げることができた。
- ・ 今年度は、学校全体でポジティブ行動支援に取り組むことで、教職員・児童が同じベクトルで実践することができた。
- ・ 学校全体でポジティブ行動支援を実践していく中で、児童の変容や教員のポジティブな言葉がけなどに変化が見られ、学校全体がよい雰囲気となった。
- ・ 一つ一つの目標に対し、児童や教職員が意識的に行動・言葉がけすることで、望ましい行動が継続してできるようになった。

本年度の課題としては、以下の3点である。

- ・ 学校全体で取り組むポジティブ行動支援について、教職員と十分な振り返りをする時間が持てないときがあった。理解を得るための情報発信があまりできていなかった。
- ・ 児童のいいところ見つけの発信や行動の変化を確認する手段として取り入れた実践で児童一人ひとりの実態に合った取組になっていない場面があった。
- ・ 学級担任によっては、負担になる取組になったようで改善が必要である。

5. 終わりに

2年間の研究を通して、1年目は在籍校の6年生を中心にポジティブ行動支援を取り入れた様々な取組をしてきた。児童は様々な場面で意欲的に活動にし、ポジティブに行動する姿がたくさん見られた。教員もポジティブ行動支の取組に理解を示し、児童の行動を承認、称賛することを繰り返すことで、ポジティブな行動が増えていった。これにより、児童も教員も日々笑顔が絶えない学級へと変わっていった。

2年目は、学校全体へとポジティブ行動支援を広げて実践を行った。学校全体で取り組むことで、児童も教職員も同じベクトルで取組を進めたことによって相乗効果が生まれ、行動や言葉遣いにおいて望ましい行動が全児童から見られるようになった。教職員においても、それぞれの児童への承認・称賛がどんどん増え、学校全体が温かく意欲に満ち溢れた雰囲気となった。

一方、課題もあり、学校全体が目標を決める際には、全体の支援と個別・小集団支援の両立を想定した支援が必要となるため、個々の実態に応じた目標・期間の設定の計画が大切となる。

また、日常的に児童が「やってよかった」「目標を達成することができた」と実感できることで、望ましい行動の継続がされやすい環境の工夫が大事になると考える。そのためにも、教職員間での共有をしっかりと行い、児童と教員がスムーズにポジティブ行動支援に取り組んでいけるよう環境整備も見直していく必要がある。このような課題への手立てをしっかりと考え、在籍校に戻った後も継続して研究に努めたい。

研究員として2年間、ポジティブ行動支援の研究に取り組んできて、子どもたちと教員との関係性の構築がより深いものとなった。学校全体で取組を進めていくことにより、全校共通の目標を達成しようと日々子どもと教員、子どもと子どもが協力し合って取組を進めていくことができ、学校全体が温かく笑顔にあふれた雰囲気となっていた。子どもを肯定的に称賛することで、望ましい行動が増え、教員もほめる言葉がけが多くなり、プラスのサイクルが回っていくようになってきた。ポジティブ行動支援の研究を進めていくことで自分自身も多くのことを学ぶことができた。

最後に、研究実践にご協力いただいた赤岡小学校、赤岡保育所をはじめ、たくさんの先生方、取組を通して頑張る姿を教えてくれた子どもたちに、心より感謝を申し上げ、研究のまとめとしたい。

【参考文献】

- ・松山 康成 (2023)：「学校・学級が変わる！ はじめてのポジティブ行動支援」明治図書出版
- ・庭山 和貴他 (2023)：「学校全体で取り組む ポジティブ行動支援スタートガイドライン」ジアース教育出版
- ・庭山 和貴他 (2023)：「PBIS 実践マニュアル&実践集」ほんの森出版
- ・ディアンヌ A クローン (2013)：「スクールワイド PBS 学校全体で取り組むポジティブな行動支援」二瓶社
- ・高津 梓 (2022)：「叱らずほめて伸ばすポジティブな特別支援教育」明治図書出版
- ・日本ポジティブ行動支援ネットワーク HP

令和7年度 香南市小中学校初任者教員集合研修実施要項

香南市教育委員会・香南市教育研究所

1. 現 状

初任者研修は法定研修であり、新規採用された教員に対して、採用の日から1年間、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させるため、学級や教科・科目を担当しながらの実践的研修を行うこととされている。

しかしながら、学校現場での実践体験がなく採用となる初任者が増える現状の中で、年度始めから多忙な日々を過ごし、研修を十分に受けることができないまま、児童生徒の指導にあたる状況がある。

香南市では、研修コーディネーターが中心となって各校でのメンター研修が進み、身近での研修の機会が増えることによって、初任者の資質向上を図る態勢が整ってきている。反面、初任者だけで情報共有する機会が少ないことから、同じ立場で語り合える仲間づくりが十分にできていない実態がある。

2. 目 的

香南市内の小中学校に配置になった初任者教員を対象として集合研修等を行うことにより、初任者教員が1年間の見通しを持って日々の指導や初任者研修に臨むことができる環境を整える。

また、初任者教員同士が顔を合わせて相互の成果や悩みを出し合うことにより、同僚性を持てる環境を整え、日常的な情報交換や学期末ごとの協議を通して、初任者教員の心の居場所づくりを進める。

3. 年間計画

(1) 資料事前配付 (3月下旬から4月上旬)

- ・香南市初任者 OJT マニュアル
- ・令和7年度香南市小中学校初任者教員集合研修実施要項

(2) 第1回(集合研修) 5月16日(金)15:00~16:35

- ・香南市教育委員会あいさつ
- ・事務連絡(年間計画、初任者向けサイトの紹介)
- ・フリートーク「4月からを振り返って」 ・何でも Q&A
- ・井戸端会議タイム

(3) 第2回(集合研修) 7月23日(水)9:00~11:00

- ・フリートーク「1学期の振り返り、2学期以降に向けて」 ・何でも Q&A
- ・何でもお悩み相談
- ・井戸端会議タイム
- ・香南市内の施設見学

4. 実施内容

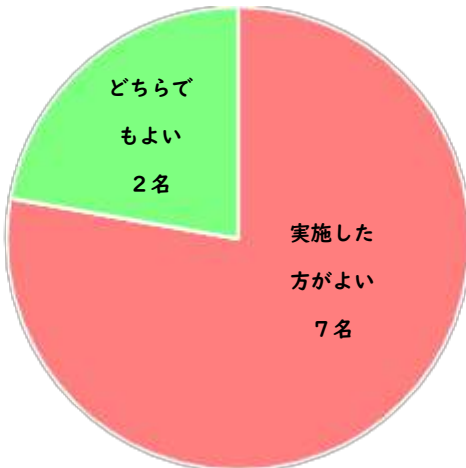
- フ リ ー ト ー ク ⇒ 4月以降の振り返り等情報交換し合うなかで、校種の違いによる教育課程の異なりや対応の違いに気づく機会にするとともに、それぞれが指導上の成果や課題を出し合い、助言を受けることで事後の対応に生かす。
- 何 だ も Q & A ⇒ 学校で勤務する中で分からないことや困ったことについて、香南市教育委員会や香南市教育研究所が回答や助言をする。
- 何 だ も お 悩 み 相 談 ⇒ 初任者とカウンセラーだけの時間になります。日ごろの悩みや対応について、メンタル面からのアドバイスをもらえる時間です。
- 井 戸 端 会 議 タイム ⇒ 初任者だけの雑談的な協議時間を取り、相互の悩み等を気軽に情報交換できる時間を確保する。
- 施 設 見 学 ⇒ 香南市内の教育施設等を見学することを通して、香南市のことを知ったり、関係機関との連携について考えたりする機会とする。

5. その他

※研修内容は前回の協議を受けて変更する場合がある。

《初任者教員集合研修に関するアンケート調査結果(匿名回答)》

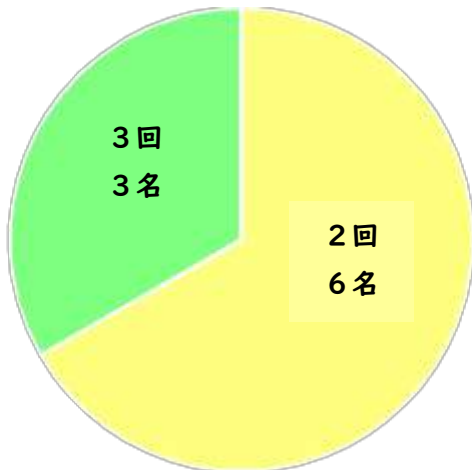
1. 香南市内の初任者教員集合研修は実施した方がいいと思いますか。



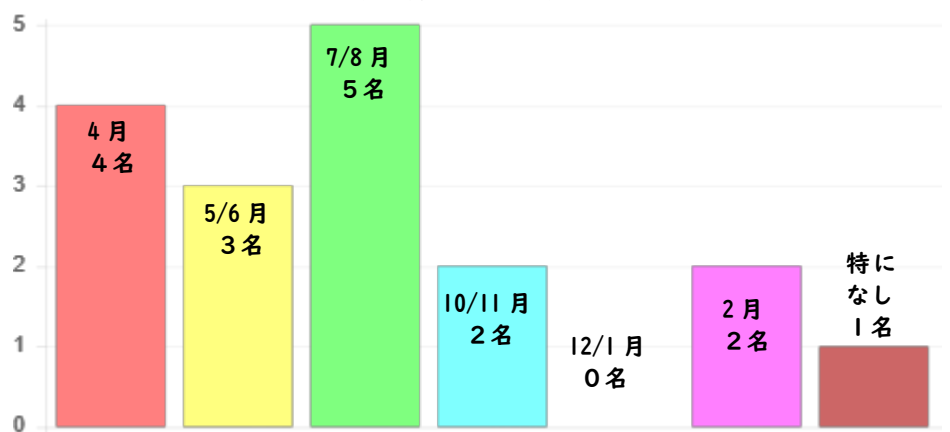
2. 「実施した方がよい」と回答した方は、その理由を書いてください。

- ◇自分の困り感を共有できたからです。
- ◇同じ初任者の先生方と仲を深めることが出来るからです。特に、香南市内の研修では、初任者の先生と話す機会が多くありました。
- ◇市内や身近な同僚とのつながりを持つことができ、悩みや困りごとを共有できるから。
- ◇初任研だと人数が多すぎて話す機会があまりないが、市内で研修を行うことで人数が少ないため話しやすく、仲良くなるきっかけになった。
- ◇初任者としての悩みを相談できたから。
- ◇香南市の学校の様子がわかるから。
- ◇悩んでいるのは自分だけではないと思えたから。

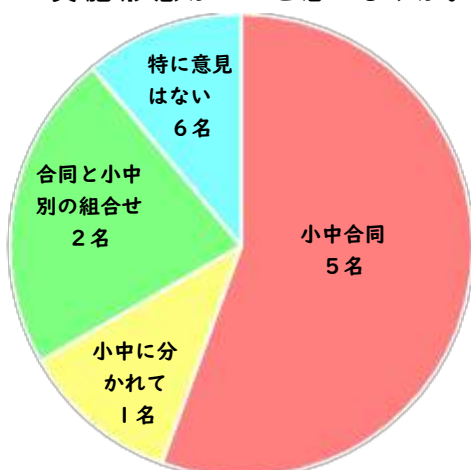
3. 集合研修の実施回数はどれくらいがいいと思いますか。



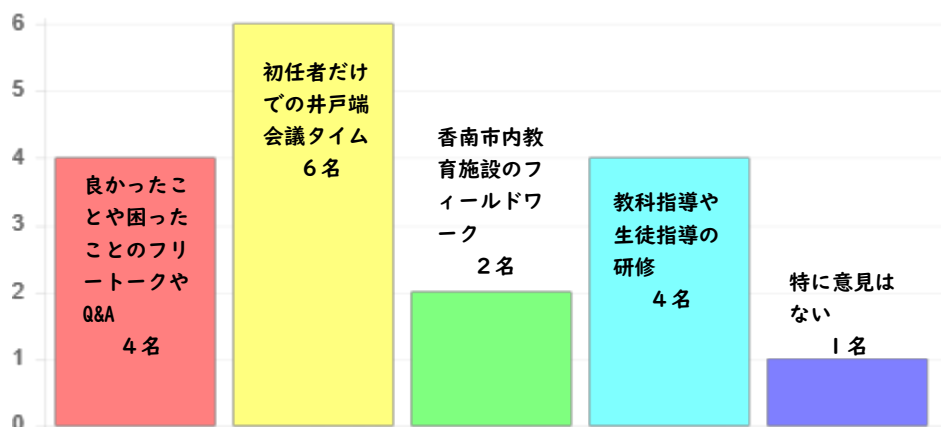
4. 集合研修を実施する時期はいつがいいと思いますか。(複数回答可)



5. 集合研修を実施する際にはどのような実施形態がいいと思いますか。



6. 集合研修としてどんな内容を実施したらいいと思いますか。(複数回答可)



7. 初任者集合研修について何か感想や意見があれば書いてください。

- ◇香南市の初任者教員集合研修で、不安感や悩みを共有できてよかったです。ぜひ次年度以降も続けると、初任者教員の心の安定にもつながると思います。
- ◇小学校の先生と話す機会があまりなかったため、香南市内の小中学校の先生と関わることができてとてもよかったです。
- ◇学年会の取り方や生徒指導など他の学校の様子が知れて、取り入れたいことがあった。
- ◇面談や生徒のトラブルなど、学校での困りごとを共有できたのは、共感することばかりで自分の困りごとの整理にもなりました。自由な時間をもらえてよかったです。

令和7年度 香南市小中学校授業づくり実践研究講座 実施要項

香南市教育委員会・香南市教育研究所

1. 目的

香南市内児童生徒の学力向上を目指し、学習指導要領に沿った質の高い授業実践を広げるために、香南市内在籍教員が授業研究を協働的に行う機会を提供し、共に高め合いながら各教科・領域の授業力の向上を図る機運を醸成するとともに、就学前の学びや教科の系統性について、参加者が校種を超えて相互理解する機会とする。

2. 実施校

香南市内小中学校全校。但し、教員数の少ない吉川小学校については隔年授業公開を基本とする。
※他の研究指定を受けて授業づくり研究及び公開授業を行う学校を除く。

3. 対象教科

小中学校の全教科・領域

4. 参加対象

香南市内の小中学校で参加を希望する者
香南市内の保育所・幼稚園・認定こども園で参加を希望する者

5. 実施曜日

水曜日以外の曜日での実施を基本とする。
※他校の希望者が参加しやすいように曜日にご配慮ください。

6. 実施方法

授業づくり実践研究講座の通知文書は、グループウェアの文書收受にて各小中学校に配付するとともに、メッセージ機能を活用して小中学校全教職員にも個別にデータ配付する。保育所、幼稚園、認定こども園については、ウェブメールを活用して各所属所に通知文書データを送信する。

授業づくり実践研究講座への参加希望者は、所属長の承認を受けたうえで参加申込書を香南市教育研究所に提出する。

なお、実施校は1週間までを目途に、学習指導案等の資料データを香南市教育研究所に提出し、香南市教育研究所は指導案等の資料データを参加者宛てに事前配付する。

7. 研究内容

学習者主体の授業づくり(学びの変容)【授業DX】

学習指導要領の趣旨の実現に向け、これまでの授業からデジタル学習基盤を効果的に活用した授業への転換を図り、学習者主体の授業づくりを実現するための教科指導等の在り方について研究する。

8. その他

- 講師招聘に関する事務手続きは各校对応でお願いします。
- 事業終了後は参加状況やアンケート調査をもとに事業成果を検証し、令和8年度以降の実施についての検討を行う予定です。

令和7年度香南市小中学校授業づくり実践研究講座 実施対象校

1. 対象外校

【小学校】

- 野市小学校……香南市小・中学校教育 DX 推進事業拠点校として授業公開
- 香我美小学校…通常の学級における合理的配慮実践充実授業として授業公開
- 赤岡小学校……香南市外国語教育担当者会実施校として授業公開

【中学校】

- 野市中学校……香南市小・中学校教育 DX 推進事業拠点校として授業公開
- 赤岡中学校……香南市外国語教育担当者会実施校として授業公開
香南市道德教育担当者会実施校として授業公開

2. 対象校

【小学校】

- 夜須小学校
- 吉川小学校
- 野市東小学校
- 佐古小学校

【中学校】

- 夜須中学校
- 香我美中学校

令和7年度香南市公開授業一覧表

香南市教育研究所

授業力アップのために、他校の授業研究へも参加してみませんか！

小 学 校	
<p>《香我美小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通常の学級における合理的配慮実践充実事業 授業公開【算数】第 1 学年 9月25日(木) 《講師》高知大学 是永かな子 氏 	<p>《夜須小学校》</p> <p>(香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業公開【生活科】第1学年 6月18日(水) 《講師》県教委幼保支援課 百田曜誠 氏 他 ● 授業公開【算数】第 1 学年 9月19日(金) 《講師》東部教育事務所 上村詩織 氏
<p>《赤岡小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第1回香南市外国語教育担当者会 授業公開【外国語】第2学年 6月24日(火) 《講師》東部教育事務所 溝渕晴子 氏 	<p>《野市小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「令和の授業を創る」推進プロジェクト」令和の授業 DX 授業公開 10月 2日(木) 【国語】第4学年 【外国語】第5学年 《講師》京都教育大学 大久保紀一朗 氏
<p>《吉川小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座 授業公開【算数】第3・4学年 7月 9日(水) 《講師》東部教育事務所 指導主事 	<p>《佐古小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座 授業公開【算数】第5学年 11月21日(金) 《講師》放送大学 佐藤 幸江 氏
<p>《野市東小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座 授業公開【算数】第5学年 11月7日(金) 《講師》東部教育事務所 上村詩織 氏 	
中 学 校	
<p>《夜須中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座 【国語】授業公開 第 1 学年 10月22日(水) 《講師》東部教育事務所 松下浩子 氏 	<p>《香我美中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (香南市版)小中学校授業づくり実践研究講座 授業公開 9月18日(木) 【国語】第 1 学年 【社会】第 1 学年 【数学】第 1 学年 【理科】第 1 学年 【外国語】第 1 学年
<p>《赤岡中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第2回香南市外国語教育担当者会 【外国語】授業公開 第 1 学年 10月23日(木) 《講師》高知大学 村端五郎 氏 ● 第2回香南市道德教育担当者会 【道德】授業公開 第 1 学年 9月 9日(火) 《講師》高知大学 森 有希 氏 	<p>《野市中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「令和の授業を創る」推進プロジェクト」令和の授業 DX 授業公開 6月 9日(月) 【国語】第3学年 【社会】第3学年 【数学】第2学年 【理科】第3学年 【外国語】第2学年 《講師》京都教育大学 大久保紀一朗 氏

※学年等について検討中の学校は、空欄となっています。また、詳しい日程等は各事業の主催者から後日配付されます。

令和7年度 社会科副読本等編集委員会 活動報告

開催日 時間	会の名称	内容とねらい	参加者・担当
5月13日(火) 15:20~16:35	第1回編集委員会 第1回世話役会	本年度の計画について 副読本の意義と活用について	アドバイザー 世話役 編集委員 事務局
5月~7月		単元デザイン作成及び授業実践	編集委員
7月11日(金)		単元デザインデータ提出(第2回編集委員会分)	編集委員
7月22日(火) 9:00~12:00	第2回編集委員会 第2回世話役会	単元デザインの協議(3名) (赤岡小) (香我美小) (吉川小) テストワークの確認	世話役 編集委員 事務局
9月1日(月)まで		単元デザイン修正案(第2回編集委員会分)の提出	
8月~1月		単元デザイン作成及び授業実践	編集委員
1月19日(月)		単元デザインデータ提出(第3回編集委員会分)	編集委員
2月3日(火) 15:20~16:35	第3回編集委員会	単元デザインの協議(4名) (夜須小) (野市東小) (野市小) (佐古小)	アドバイザー 編集委員 世話役 事務局
2月13日(金)まで		単元デザイン修正案(第3回編集委員会分)の提出	編集委員

※学びのポータルサイト“香南市学びの輪”(小学校社会科)への単元デザインデータのアップ

The screenshot shows the '香南市学びの輪' (Kōnan-shi Manabino Rins) portal site. The main heading is '社会' (Social Studies). Below the heading, there are navigation buttons for '香南市のくらし3年[社会科副読本]', '香南市のくらし4年[社会科副読本]', and '香南市のくらし5年[社会科副読本]'. A table titled 'RS-R-小学社会一覧' (RS-R-Primary School Social Studies Overview) is displayed, listing various units and their corresponding design data files. The table has three columns: '単元' (Unit), '指導案・単元案' (Lesson Plan/Unit Plan), and '編集資料・資料' (Editing Materials/Resources). The units listed include '1-1まちたんけんしよう' through '3-2事故や事件からしを学ぶ' and '3-3 町のようすとうつりかわり'.

令和7年度 第1回香南市外国語教育担当者会

- 1 趣 旨 香南市における英語教育の推進体制を整備するとともに、小小連携・小中連携による英語教育の充実、小学校の英語教育の指導体制の確立、実践研究を通じた小学校外国語活動・外国語科の指導方法及び学習評価の工夫改善の充実を図る。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年6月24日(火) 14:00 ~ 16:35
- 4 会 場 香南市立赤岡小学校 2年教室(2階) 【公開授業】
図書室(1階) 【指導助言・講話】
- 5 参加対象 香南市内小中学校 外国語教育担当者 その他参加を希望する者
- 6 内 容

13:45	14:00	14:45	14:55	15:00	16:00	16:30	16:35
受付	公開授業 2年 教室	移動	開会 行事	講評・講話	中学校区 の協議	閉会 行事	

【公開授業】 授業者 西岡 麻美 教諭
第2学年 「やさいサラダをつくろう!」

- 7 講 師 【指導助言・講話】 東部教育事務所 溝淵 晴子 指導主事

8 成果と課題(研修参加者感想より抜粋)

【授業を参観しての感想やご質問等、ご自由にご記入ください。】

○場面設定が生徒の学びに向かう態度に大きく関わることを感じました。中学校ですが、参考にします。

○小学校2年生ならではの元気さと、友達と一緒にたくさん英語に触れ合って英語を使おうとする姿勢、それを引き出す先生方の力を近くで見させていただき、とても勉強になりました。

○買い物をするところでは、実際の場面を設定することで、使う楽しさを知れる活動になってとても良かったです。子どもたちの楽しむ姿が見れました。

○子どもが繰り返し単語をインプット→アウトプットする機会を多く設けていたことで、子どもが様々な人に対して話す自信につながったと学ぶことができました。また、「伝えてみたい」と思えるような仕掛けや環境があったことにより、興味を持って授業内容と身近な英語をつなげることができたと気づくこともできました。

【講評・講話を聞いての感想をご記入ください。】

○小学校で身につけておくべき力を中心に伺うことができました。そんな力を身につけて中学校へ進学してきてくれることを踏まえて、連携をより丁寧に行う必要性を感じました。

○自身の授業改善につなげるためにも、先生の声掛けや指示・子どもの反応などをしっかりと記録に残しておくことの必要性を改めて感じる事ができました。また、段階を踏んだ(系統性を見据えた)指導をすることで、中学校へとつなげることができると学ぶことができました。また、目的意識や相手意識を持ったうえで、より明確でわかりやすいめあてにつなげることを大切に授業をしていきたいと思いました。

○「外国語の授業においてお願いしたいこと」を大切に授業をしたいと思います。残念ながら現在はそれ以前の状況であるとも感じています。中学校では、コミュニケーションを重視しつつ、音読や文字を書く練習をたくさんする必要もあったと感じます。アルファベットの読み書きと同時にアルファベットカード並び替えなどから慣れ親しませるべきだったとギャップを感じました。

令和7年度 第2回香南市外国語教育担当者会 実施要項

- 1 趣 旨 香南市における英語教育の推進体制を整備するとともに、小小連携・小中連携による英語教育の充実、小学校の英語教育の指導体制の確立、実践研究を通じた小学校外国語活動・外国語科の指導方法及び学習評価の工夫改善の充実を図る。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年10月23日(木)13:45 ～ 16:35
- 4 会 場 香南市立野市中学校 1-1教室(南舎4階)【公開授業】
被服室(中舎2階)【研究協議・講話】
- 5 参加対象 香南市内小中学校外国語教育担当者 その他参加を希望する者
- 6 内 容

13:30 13:45 14:35 14:45 14:50 15:15 16:15 16:30 16:35

受付	公開授業 1-1教室	移動	開会 行事	研究 協議	講話 被服室	中学校区 の協議	閉会 行事
----	---------------	----	----------	----------	-----------	-------------	----------

【公開授業】授業者 宗石 大河 教諭

単元名 「Unit5 This Is Our School」

【講話】講題 「小・中学校を通じた英語教育の展開
～何に重きを置いて取り組んでいったら良いのか～」

講師 高知大学・宮崎大学名誉教授 村端 五郎 教授

- 7 成果と課題(研修参加者感想より抜粋)

【授業を参観しての感想やご質問等、ご自由にご記入ください。】

- ・最新の指導方法が見られて嬉しかったです。ただ全体の場での子どもたちの発言を聞きたかったです。小学校でもそうですが、外国語を学ぶ上での一つの課題として、なかなか口に出して喋ることができない子がたくさんいるからです。
- ・スタディポケットを利用したり、他者参照、AI を使ったりしながら、生徒自らが学んでいく様子を見ることができました。小学校でどの程度できるかはわかりませんが、職員への周知をしていきます。
- ・ICT の活用面ではとてもよかったです。対話面でどれだけ発話しているのかが気になる。単元通して発話をどれぐらいしているのかと、新しい言語材料をどのように教えているのか(AI に教えてもらえるので)が知りたかった。
- ・言語面での型を示していたので、苦手な人には助けになったと思う。スタディポケットを実際に使っているのを見ることができてよかった。

【講評・講話を聞いての感想をご記入ください。】

- ・実際に生徒の立場に立って活動に取り組むことで、気づきが多くありました。ICT の重要性や生成 AI の活用が重んじられる中においても、言語としての外国語学習という軸はブレないで持っていたいと思いました。
- ・スモールトークの内容が難しいかなと思ったのですが、子どもはすぐできるようになるという村端先生のお言葉、急にはできなくても継続したらできるようになると思います。
- ・実践を踏まえた講話をして頂き、身をもって英語におけることばのまとまりの大切さについて実感しました。小学校の段階では、「ひらく」「つなぐ」「とじる」の構成を身につけることが大切で、中学校では代名詞や接続詞をもとにして、ことばのまとまりに気づくようにつなげることが大切だと感じました。ありがとうございました。

休み明け等をゆるやかにスタート！

小中学校の保護者の皆さまへ

香南市小中学校ほっとスタート実践研究事業(第Ⅱ期)の実施について

香南市教育委員会・香南市教育研究所



香南市では、夏休みを少し短縮するなどして休み明け等の授業時間を減らし、児童生徒の負担感を軽減するとともに、先生が子どもたちに関わることができる時間を確保することを目的として、「香南市小中学校ほっとスタート実践研究事業」に令和5年度から3年間取り組んできました。

3か年の取組をもとに、今年度、香南市教育委員会と香南市小中学校長会で来年度以降の対応について協議しました。5・6年度に実施したアンケート調査結果において、「ゆとりを持たせることは安心して登校することにつながる」や「今後も取り組んでもらいたい」という意見を多数の方からいただいたこと、児童生徒の学期始め等の様子が取組以前と比較して好ましい状況になってきていることなどから、令和8年度以降もゆるやかなスタートに香南市内の全小中学校で取り組むことになりました。

また、アンケート調査結果で児童生徒や教職員から意見が多かった「夏休み期間を短くしないでほしい」という意見につきましては、年度始めの業務が増え、子どもたちの受け入れ準備の時間確保が年々難しくなっている状況が生じていることから、年度始め休みの延長を優先することになりました。夏休み期間については、令和7年度と同様に8月27日までとし、下記のとおり、第Ⅱ期として事業を継続し、夏休み期間について検討することになりました。

長期休みの期間を変更することが増え、ご迷惑をおかけしますが、子どもたちにとってより良い教育環境を整えていくことを目的とした取組になりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和8・9年度は下記の内容で取り組みます。

1. 小中学校の1学期のスタートを4月9日からとします。
2. 夏休みを7月21日～8月27日とし、小中学校の2学期スタートを8月28日からとします。
3. 小学校では各校が自校の状況に応じて、休み明け等の授業時間を減らします。
4. 中学校では2学期の開始やテスト期間中等を中心に授業時間を減らします。

【事業の目的】

子どもたちが負担を感じやすい休み明け等に、時間的なゆとりを持たせることによって、子どもたちの負担感を軽減するとともに、先生が休み明け等に子どもたちに関わることでできる時間を確保することを目的とします。

また、子どもたちがほっとした気持ちで休み明け等をスタートすることができるような態勢づくりを各校で進めます。

なお、小学校1年生については、保育所や幼稚園、こども園との連携をより密に行い、就学前の育ちを小学校での能力伸長につなげることができるような取組の充実を図ることも目的としています。

【事業の対象】 香南市内全小中学校を対象として行います。

【事業の期間】 令和8・9年度(2か年)

【事業の概要】

◎休み明け等の授業を減らします。

- ※小学校は、年間を通して休み明け等の授業時間を減らします。
- ※中学校は、2学期の学期始めやテスト期間中等を中心に授業を減らします。

◎1学期は4月9日、2学期は8月28日からスタートします。

- ※年度始め休みを2日間延長し、1学期のスタートを4月9日からとします。

【変更理由】

- ①ICTの設定変更作業など年度始め業務が増え、子どもたちの受け入れ準備の時間確保が難しくなっている。
- ②子どもたちの状況を引き継いだり、配慮が必要な子どもたちの事前対応をしたりする時間の必要性が増している。

- ※夏休み期間を8月27日までとし、2学期のスタートを8月28日からとします。

【継続理由】

- ①授業時数を確保したうえで、今後の夏休み期間と授業時数の確保についての見直し検証を行う。
- ②新学習指導要領の方向性を確認しながら、今後の授業時間の取り扱いの検討を各校で行う。

◎8年度での取組をもとに検証し、10年度以降の取り扱いについて9年度に検討します。

- ※令和8年度の全小中学校の授業時数の実施状況や新学習指導要領の方向性をもとに、令和10年度以降の取り扱いについて、令和9年度に香南市教育委員会と香南市小中学校長会で検討します。



令和7年度 第1回 香南市生徒指導担当者会

- 1 趣 旨 香南市内小学校、中学校の人権教育担当者並びに生徒指導担当者が、すべての教育活動における人権教育の視点(人権に関する理解や人権感覚の育成)を確認し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進を図る。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年8月21日(木) 15:00 ~ 16:35
- 4 会 場 市役所3階 303号室 304号室 305号室 306号室
- 5 参加対象 香南市内小中学校 生徒指導担当者
香南市内小中学校 人権教育担当者
その他参加を希望する教員
- 6 内 容 講話「人権に関する知的理解の深化と人権感覚育成のための実践事例」
講師 香南市教育長 三木 守
- 7 成果と課題(研修参加者感想より抜粋)

- 今日の講話では、特に差別の成り立ちを簡単に、しかし流れとして学べたのはよかった。ただ、三木教育長もおっしゃっていたように、例えば歴史の教科書では流れが見えないように出てくる。かと言って、あの流れをきちんと学ぶとなると、一体どの時間に…という問題も起こる。また、指導者側にどれだけ意識があっても、受け手に問題意識がなければ、なかなか理解が難しいところもあるようにも感じている。ただ、それを自分たちが学ばなくてよいということにつながらないので、知識をつけるというところから始めなくてはならない。
- 今日の講話で、さまざまな教科で人権が散りばめられていることがあるということを知り、今後の教材研究のときには、周りの先生方とも話し合いながら授業に少しでも取り入れていきたいです。また、日頃から、自分の発言や教材内容にも配慮していくことが大切だと分かりました。
- 教育長ご自身の実体験を交えたお話はとても説得力がありました。立場ではあっても人権問題はどこか他人事のように考えていた自分がいました。他人ごとではなく、自分自身の日々の姿勢や生き方にも深く関わることで改めて気付かされました。実際に生活する中で起きた出来事が紹介されたことで、「これからの指導や生活の中でどのような行動を選ぶべきか」を自問する大きなきっかけとなりました。今後も子どもたちとともに学び続け、自分自身の人権感覚を磨いていきたいと感じました。
- 今回の研修で、人権とは意識の改革であると感じました。誰の心にも差別心はあります。それを正しい知識と行動で、修正していこうとする実践意欲と態度を育てることが本来の人権教育だと思います。そのことに改めて気付かされた研修でした。本当にありがとうございました。
- 人権の視点から教材を読み直す、考え直す必要があると感じました。私自身の授業を振り返った時に「かぼちゃのつる」の学習では、かぼちゃがつるを伸ばすことを「わがまま」であると一方的に決めつけて、つるを切断するという暴力を正当化してしまったのではと感じます。授業をする前に人権の視点から教材を読み直す必要性を感じました。
- お話の中で特に印象に残っているのは人権学習には「知的理解」が大事で「正解」があるということです。私自身は年代的に同和問題についてしっかり授業をしてきた世代なので「知的理解」「正解」を目指して授業をしたのを思い出しました。しかし、近年同和問題に特化して学習させる機会はなくなっており、どのように若い世代の教員や生徒に伝えるべきか考えさせられました。
- 正しい知識をつけていくことは自分を守るためにも相手を大切にするためにも必要だとわかった。子どもにも正しい知識を教えられるようにまずは、自分が意識していきたい。

令和7年度 第2回 香南市生徒指導担当者会

- 1 趣旨 香南市内小学校、中学校の人権教育担当者並びに生徒指導担当者が、すべての教育活動における人権教育の視点(人権に関する理解や人権感覚の育成)を確認し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進を図る。
- 2 主催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日時 令和7年11月20日(木) 15:00 ~ 16:35
- 4 会場 市役所6階 604・605号室
- 5 参加対象 香南市小中学校 生徒指導担当者 香南市小中学校 人権教育担当者
その他参加を希望する教員
- 6 内容 講題「人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成のための実践事例②
日常生活・学級経営のなかの人権教育」
講師 香南市教育長 三木 守
- 7 成果と課題(研修参加者感想より抜粋)

・教育長さんの「いじめ、嫌がらせをなくすために」という講話を聞いて、私はとても心に残る時間を過ごしました。これまでも何度か教育長さんの講話を聞く機会がありましたが、毎回、具体的な事例やご自身の体験談を交えながら話して下さるので、より身近に感じることができます。今回のお話の中でも、実際に起こった出来事や、それに対してどう関わったかなどのお話が印象的でした。特に、いじめが起こったときに自分自身が「自分には関係ない」と思わず、自分がどう行動を起こすかや周りの人と協力したり、声をかけたりすることの大切さを改めて感じました。また、いじめや嫌がらせをなくすためには、誰か一人だけで頑張るのではなく、みんなで力を合わせる必要だと思いました。また、教育長さんが伝えてくださった「自分を変えられることの大切さ」を、私もこれから意識していきたいです。今後、自分の身の回りて困っている人がいたら、見て見ぬふりをせず、少しでも声をかけたり、助けたりできるようになりたいと思いました。この講話を通して、一人一人の行動が大切だと改めて感じました。

・学級経営ひとつで、子どもたちは救われることもあるし、生命を失うことにもつながるというお話は、強く印象に残りました。わたしたちの仕事は学力をつけることも大切ですが、同じように社会性を育み、人を大切に作る心を育てることも大切だと思います。

・よい資料で心に響くものでした。ですが、三木先生が逸話とともに伝える資料であり、他の教員が上手く使えるかは難しいとも思いました。

・自分の感じ方や考え方を振り返る機会になりました。相手のことを自分事として感じたり考えたりという視点は、教室で子どもたちとよく話しますが、改めてその大切さを思いました。おそらく職場の仲間もみな同じ気持ちで日々子どもに向き合っていると思うのですが、それを確かめ合う時間って大切なのかも...とも思いました。ありがとうございました。

・「自分が変わると誰かが変わる。自分を変えずに何も変わらない。」というお話から、自分の今の仕事内容を振り返り、変えて行くことで良い方に向かうことがあれば、積極的に変えていきたいと思った。普段の生活の中から人権教育は行っていけるということがわかりました。そのために、私自身が人権の視点を持つておくことが大切だと思いました。

・児童に、おかしいことをおかしいと感じられる、また、沈黙をせずに勇気を持って言える行動できる人になってもらいたい、そんな子どもに育てたい、と思いました。また、欠席者の名前を前に書いたり、班決めの時に班長に支援が必要な子を自分の班に入れ、班編成を考えさせたりしていくやり方は、取り入れたいなと思いました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

令和7年度 第1回香南市道德教育担当者会

- 1 趣 旨 発達支持的生徒指導の考えを生かした道德教育の推進について学び、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道德授業の質的充実を図る。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年8月22日(金)14:00~16:35
- 4 会 場 香南市役所 6階会議室 604・605号室
- 5 参加対象 各小・中学校道德教育推進教師(悉皆)
香南市内道德推進リーダー(希望)
その他参加を希望する教員
- 6 内 容 講話・演習
講師 高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 教職員実践高度化専攻 森 有希 教授
演題「小中連携カリキュラムにおける道德科の学習」

7 成果と課題(研修参加者感想より抜粋)

- 規範意識を1本柱として、低・中・高・中1・中2と系統性を指導の要点・◎中心発問◆問い返しの演習をしながら、学ぶことができて良かったです。
- 規範意識は低学年からの積み重ねで育っていくことに気づきました。事前研究シートを使っの授業準備やめあての工夫の例などとても勉強になりました。
- めあて・中心発問・問い返しの捉え方(導き出し方)がわかりやすく教えていただけよかったです。
- さまざまな角度から問い返しをしながら、深層心理を揺さぶる手法を教えていただき、有意義な時間でした。
- 講話を聞いて、各学年での成長段階(考えの深まり)を視覚的に理解することができました。また授業を進めるうえで、生徒が考えを深めるための様々な手法を知ることができたので、校内で発信していきたいです。
- 森先生のご講話の中で、系統性を持って指導していくということが印象に残りました。その後、各ブロックに分かれて教材研究をしてみて、それぞれの学年で系統的に指導していくことが大切だと分かりました。同じ指導項目でも、自己から他者、社会へと対象が変わっていている事が分かりました。また、授業を深めるための問い返しの質問も有効に活用していきたいと思いました。ゆさぶるためには、人間関係の理解の項目を活用すると良いことが分かったので、これから意識して取り組んでみたいと思いました。
- 小学校の低・中・高学年と中学生とでスムーズな系統性を意識した指導案検討をすることができた。
- 小学校からの系統性がよくわかりました。段階を経て、大きい関わりになっていくことを意識して今後も授業を作成していきたいと思いました。"
- いつもポイントを絞った的確な助言をしていただけるので、わかりやすいです。
- 題材の中でマイナスの姿とプラスの姿を整理し、マイナスをプラスにするにはどういう手立てが有効か、指導要領などをもとに考えていく、というシンプルだけど大切なことが自分の中で落ちてきました。これまでよりも簡潔に、要点を絞った授業構成が考えられそうです。
- 道德教育の進め方を香南市全体で共有できて良かったです。

令和7年度 第2回香南市道德教育担当者会

1 趣 旨 道德教育の趣旨を踏まえた指導方法及び評価の在り方に関する道德の授業実践並びに小
小連携・小中連携による小・中学校の道德教育の充実を図る。また、学校・家庭・地域が連携を図り、地域
全体で道德教育を推進する。

2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所

3 日 時 令和7年9月9日(火) 14:30 ~ 16:35

4 会 場 香南市立赤岡中学校

5 参加対象 市内小・中学校道德教育推進教師(悉皆) 市内道德推進リーダー(希望)

その他参加を希望するもの(保育所・幼稚園・こども園の先生方も参加可)

6 内 容

14:15 14:30 15:20 15:30 15:35 16:30 16:35

受付	公開授業 【2年生教室】	移動休憩	開会行事	講演 【被服室】	閉会行事
----	-----------------	------	------	-------------	------

7 公開授業 【授業者】毛利 圭志 教諭 山崎 江利子 教諭

【主 題】C-10 順法精神・公德心 【教材名】「二通の手紙」

8 講 演 演題 「 系統性やつながりを意識した道德科の指導 」

講師 高知大学 森 有希 教授

7 感想(研修参加者感想より抜粋)

【発達の段階に応じた道德科の指導、道德教育や日々の保育実践について、今後あなたが実践したいと思ったことや大切にしていきたいと思ったことはどのようなことですか。】

- 肯定的に話すことや、自分の意見を言えた時は、しっかり認めたり、褒めたりすることを改めて気をつけて大切にしていきたいと思いました。
- 道德は他律的から自律的に発達していくと学んだ。幼児期にまず他律的な道德も大切にしながら関わっていききたい。
- やはり一方通行の意見や広がりのない意見で終わらないように深く追求していくための問い返しを実践していきたいと思った。
- 登場人物の気持ちを考えたり、物語の結末について話し合い、お芝居をしてみたりする。森先生の講話での資料の中の問い返しの具体例を参考に、もっとその場に適した問い返しができるようになっていきたい。
- 今回の研修には、代理として参加させていただきました。内容をまとめて、担当者に伝達をし、共有できればと考えています。道德性の発達の仕方がわかりました。発達段階を踏まえながら、多面的・多角的に「考える道德」の学びが大切であるとと考えています。
- 赤岡小学校では、2学期に小学校内での道德教育の系統性を見ていく実践交流を行う予定です。
- 子供の道德的価値観の発達に段階があることを理解できました。指導の際にはほめる、注意するという段階から次の取るべき行動を促すよう意識したいと思います。
- 中心発問の問い返し・生徒の意見を拾いながら授業を展開する。
- 発達段階に応じた対応や声かけ、発言等、子どもの語彙やその場に応じた言葉掛けニュアンスも子どもたちは覚えていくと思うので、大切にしていきたい。

令和7年度 第1回香南市特別支援教育学校コーディネーター会 実施要項

- 1 趣 旨 児童生徒がよりよい学校生活を送ることができるよう、香南市の不登校等の実態を把握し、特別な支援を要する児童生徒への支援及び不登校の予防に向けた指導を実践するための情報交換等を行い対応の充実を図る。
また、小中学校間及び関係機関の連携を図った支援体制を構築する。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年5月29日(木) 15:00 ～ 16:35
- 4 会 場 香南市役所 6階 会議室 604・605
- 5 参加対象 小中学校特別支援教育学校コーディネーター、参加を希望する者
教育委員会事務局関係者
- 6 日 程

15:00	15:10	16:00	16:05	16:30	16:35
開 会	講話・情報共有 「つながり、つなげる ～特別支援教育コーディネーターの役割～」 講師 香南市特別支援教育永野アドバイザー	休 憩	情報共有 「各校の校内支援体制について」	閉 会	

7 事後感想

- ・校内支援会議で協議したことを、教職員全体で共有する場を設定できるようにしたい。
- ・これまで同様に会の内容については通信で校内に周知しています。(本校の活用事業と運営)
また、研修に対する共通理解を図るために、新担研も記事内容に取り上げました。
- ・校内支援会議では、お互い話した内容をそれぞれがメモをすることが多かったが、ホワイトボードなどを使って全体が共有してわかるように見える化していくことを取り入れたいと思った。また、いただいた資料の中で子どもに関するチェックリストがあったため、この資料も活用しながら、校内研修などで学校全体が支援の必要な児童にどのように関わっていくのか考える機会を設けるようにしたいと思った。
- ・他校ではスマイルサポート検討会をしていると知りました。入学前は文書でしか想像することしかできず、実際に入学してきて再確認する内容ともっと知りたいこともあったりするので、そういった検討会もいいなと思いました。
- ・とにかく職員室に教員が少ないことが多く、校内支援会の設定も容易ではないので、日常的な会話の中で情報共有をし、学年にとらわれない生徒理解に全教職員が務められるよう、「つなげる」ことにまずは取り組みたい。
- ・情報共有では、参考になる意見を複数聞くことができ、今後の方針が少し見えた気がします。広く情報を持っておられる方が一人でもいるととても参考になり、ありがたいです。
- ・特別支援コーディネーターになるものの、一体どんなことが求められていてどんなことをしないといけないのか分からずやっていたところもあるので、今回このような機会を頂いて永野先生から改めて教えていただけてありがたいなと思いました。学校の中を繋げるという点で、管理職をはじめ、担任や支援員さんとの日頃からのコミュニケーションが大事になるということを改めて学びました。たしかに、コミュニケーションを通して自分が知らなかった情報を得たり、自分が知っている情報と情報が繋がって課題解決につながったことも多かったなあと永野先生のお話を聞いて感じました。また、支援会を開催していますが、問題行動があったり支援が必要なときに実施しがちでしたが、逆に何も無いときこそ(事態が悪化する前に)予防的に支援会を開くということも大切だと感じました。

令和7年度 第2回香南市特別支援教育学校コーディネーター等研修会 実施要項

- 1 趣 旨 児童生徒の将来の自立と社会参加をめざすため、発達障害等のある児童生徒への理解を深め、必要な指導や支援を実践する方法を学び、支援体制の構築をめざす。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和7年9月11日（木）15：00 ～ 16：35
- 4 会 場 マリンホール 香南市夜須町坪井219
- 5 参加対象 小中学校特別支援教育学校コーディネーター(悉皆)、参加希望者
教育委員会事務局関係者
- 6 日 程

14:40	15:00	15:05	16:25	16:30	16:35
受付	開会 行事	講演 「支援を要する児童生徒の理解と具体的な支援」 講師 国立舞鶴工業高等専門学校特命教授 特別支援教育土スーパーバイザー 後野 文雄 氏	質疑 応答	閉会 行事	

7 事後感想

- ・講話を通じて、発達障害の可否を学校が判断するのではなく、困り感に応じた支援を積み重ねることの重要性を学びました。中2夏までの早期支援が効果的であり、安心できる環境づくりが最大の支援であると感じました。
- ・脳の神経のことなど、初めて知ることが多く、とても勉強になりました。どうして、その動きになるのか、どういう言葉掛けが分かりやすいのかなど、新しい視点を教えて頂けました。今回の講演を通して、子どもたちのしんどさや、困っていることに気づいて、適切な関わりができるようになっていきたいと思いました。
- ・早期発見・早期対応は言うまでもないが、診断の有無が就労後にも影響しているということを知ることができた。周囲からの支援だけでなく、本人が自分のことを正しく理解することの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・脳の神経のことなど、初めて知ることが多く、とても勉強になりました。どうして、その動きになるのか、どういう言葉掛けが分かりやすいのかなど、新しい視点を教えて頂けました。今回の講演を通して、子どもたちのしんどさや、困っていることに気づいて、適切な関わりができるようになっていきたいと思いました。
- ・発達障がい定義について丁寧に教えていただきました。また、日常で見受けられる児童の行動について、発達障がいの症状ではなく二次障害による症状である可能性が高いこと。支援策が間違っていて起こしていることを見極められるか。後野先生のお話を聞いて、全教職員で共通理解をする必要があると今年度も強く感じました。
- ・困っている子どもに気づいても、どう理解するといいいのか本当に一人ひとり違っているのでよくその子を観察し、いろいろな方法を試すしかないと思いますか、具体的な捉え方や言葉掛けの仕方などを学ぶことができました。例題が多くあり、とてもわかりやすかったです。
- ・脳神経から基づく様々な話が聴けて、大変勉強になりました。特に、発達障害の傾向のある子どもの見極め方についての話が印象的でした。
- ・実例を聞きながら、過去に関わってきた生徒たちの顔が思い浮かんできました。当時は感覚的に一般的な成長との差異を感じ、なんとなく対応してきたように思います。当時のことも含めて、理論を理解すると更に多くのことに気づくと学びました。
- ・神経学的リミットや社会的リミットの年齢について学ぶことができませんでした。また、子どもをみる視点において鉛筆の持ち方や、姿勢、絵の特徴など今まで知らなかった特徴を学ぶことができませんでした。教師の話方一つで、子どもの行動も変わることも学んだため、伝え方を考えていきたいと感じました。
- ・子供の行動などについて、どうしてそうなるのかな？その子が困っていることは何だろう？と、子供をよく見て、いろんな角度からよく考え、子供にとって、適切な対応ができるようにしていきたいです。
- ・子どもの絵や姿勢、態度などもこれから細かく見ていく。また、その子どもにあった伝え方や支援方法などを考えたり学んでいきたいと思っています。

令和7年度 第1回香南市特別支援教育支援員等研修会

1. ねらい

特別支援教育支援員及び生活・学習支援員の役割を確認するとともに、配慮の必要な児童生徒への支援のあり方を考える。

2. 会 場 香南市役所 6階 604・605号室

3. 研修の内容 (10:00 ~ 12:00)

10:00 10:05 10:15

11:50 11:55 12:00

開 会 行 事	自 己 紹 介	講話・グループ協議 「子どもたちがいきいきと輝くために」 香南市教育委員会特別支援教育アドバイザー 永野富美子	閉 会 行 事	ア ン ケ ー ト
------------------	------------------	--	------------------	-----------------------

4. 事後感想

- ・子どもが求めていることは何か、自分は支援員としてどう考え、動くべきか、気持ちを新たにすることができたのでありがたかったです。子どもがプラスの考えや気持ちになって日々過ごせるように、まずは自分自身が楽しく過ごせるようにしていきたいと思いました。
- ・現在の学校現場において、不登校の子どもたちや特別な支援が必要な子どもたちのみならず、日本語指導が必要な子どもたちも増えていることが分かりました。子どもたちがいきいきと輝けるように、伴走者として子どもたちの成長を見守りながら、自信をつけ、やる気アップさせるように支援していきたいです。
- ・今年度より特支の支援員として勤務になるので「伴走者」として生徒のみなさんに寄り添って頑張りたいです。
- ・昨年度、不登校傾向の子どもへの対応で悩むことがありました。ついついもう少し頑張れるはずと思い、焦る自分がいました。私の焦りが子ども自身の焦りにつながったのだと今日改めて実感しました。気負わず待つこと、望ましい行動をほめることを意識して、今年度を頑張っていこうと思いました。
- ・今年度初めて支援員をするので、担任とともに子どもに寄り添っていききたいと思います。ポジティブ行動支援の考え方・方法を心にとめながら、子どもたちの望ましい行動を認め、増やしていくようにしていきたいです。
- ・協議は校区で話すことができ、小から中への支援の引き継ぎや中学校へ向けて小学校での支援の仕方などを共有することができたので、中学校区でのグループ分けて協議を続けることがお互い有益でした。
- ・ポジティブ行動支援を初めて聞いたのですが、とても参考になりました。トライしてみたいです。

令和7年度 第2回香南市特別支援教育支援員等研修会

1. ねらい

特別支援教育支援員及び生活・学習支援員の役割を確認するとともに、配慮の必要な児童生徒への支援のあり方を考える。

2. 会場 香南市役所 6階 604・605号室

3. 研修の内容 (10:00 ~ 12:00)

10:00 10:05

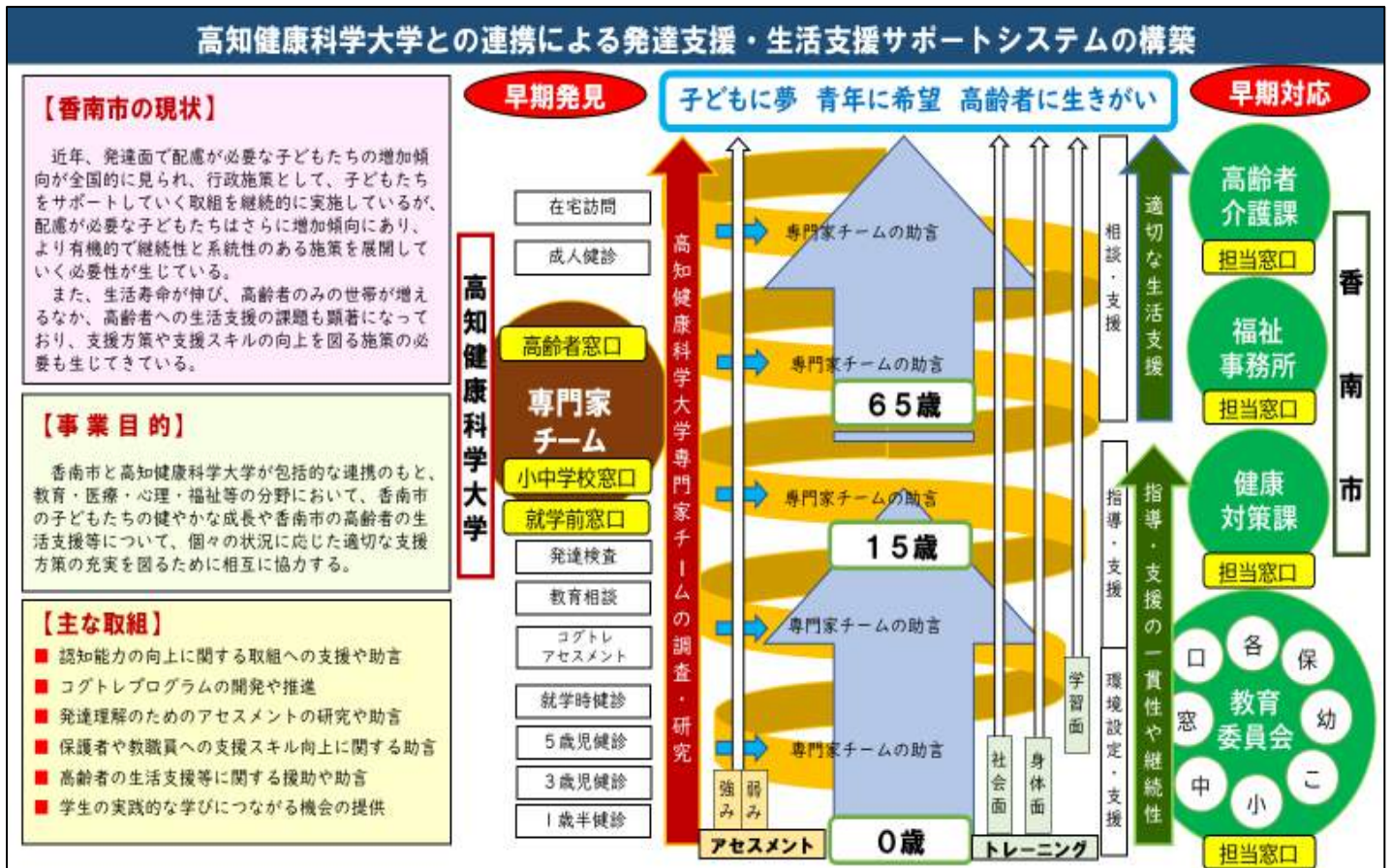
11:50 11:55 12:00

開 会 行 事	講話 「発達的に特徴のある児童生徒の様々な不適切な行動の背景にある原因と対応法 (感覚統合の視点、応用行動分析の視点)」 高知健康科学大学 石附智奈美 教授	閉 会 行 事	ア ン ケ ー ト
------------------	---	------------------	-----------------------

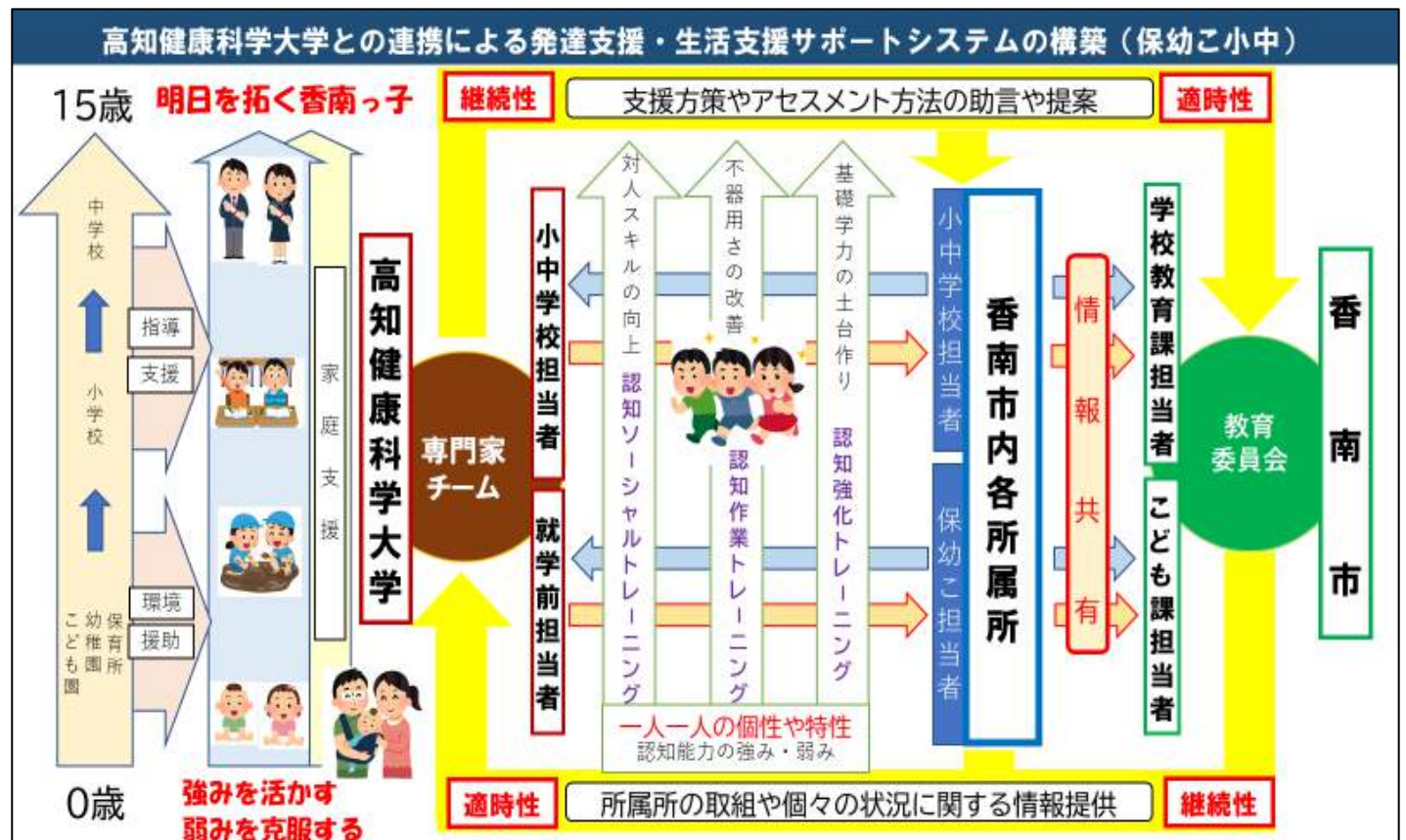
4. 事後感想

- ・行動認知の観点での研修会がとてもわかりやすかったです。感覚が過敏だったり鈍すぎたりということを今ひとたび認識させてもらったので、今後活かしていきたいと思いました。
- ・「行動には理由がある」今回の研修で考えさせられました。なかなか交流学級で過ごす児童に対して、早めの判断が必要となり、どこまで児童の行動を理解して支援できているのだろうか…今後の支援を改めていと思いました。
- ・今回は感覚についても具体的にお話していただき「そういうことだったのか!!」ということに気付け、学校の現状と合わせる事ができました。まずは、自分の心に“ゆとり”を持って接することを再確認しました。
- ・石附先生の話は具体例が多くて学べる事がたくさんありました。応用行動分析的アプローチ等は気付かされる事がたくさんありました。
- ・脳の神経のことなど、初めて知ることが多く、とても勉強になりました。どうして、その動きになるのか、どういう言葉掛けが分かりやすいのかなど、新しい視点を教えて頂きました。今回の講演を通して、子どもたちのしんどさや、困っていることに気づいて、適切な関わりができるようになっていきたいと思いました。
- ・早期発見・早期対応は言うまでもないが、診断の有無が就労後にも影響しているということを知ることができた。周囲からの支援だけでなく、本人が自分のことを正しく理解することの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・困っている子どもに気づいても、どう理解するといいいのか本当に一人ひとり違っているのでやくその子を観察し、いろいろな方法を試すしかないと思いますか、具体的な捉え方や言葉掛けの仕方などを学ぶことができました。例題が多くあり、とてもわかりやすかったです。
- ・具体的な例から、どういう対応をしていくと良いのかがとてもわかりやすかったです。想定される場面で今日学ばせてもらった対応の仕方を実践していければと思います。

《高知健康科学大学との連携による発達支援・生活支援サポートシステム（市全体）構想図》



《高知健康科学大学との連携による発達支援・生活支援サポートシステム（教育委員会関係）構想図》



令和7年度 香南市コグトレ推進担当者会

《第1回》

- | | |
|--------|--|
| 1 趣 旨 | 小学校低学年を中心に、タブレット端末を活用した認知能力のトレーニングを継続的に行い、授業改善の取組とつなげて「学力の二極化」の改善に取り組むとともに、自立活動等の社会生活能力の向上につながる実践の充実も図る。 |
| 2 主 催 | 香南市教育委員会 香南市教育研究所 |
| 3 日 時 | 令和7年4月15日(火) 15:20~16:35 |
| 4 会 場 | 香南市役所 5階会議室 502一号室 |
| 5 参加対象 | 各小学校のコグトレ推進担当者
その他参加を希望するもの |
| 6 内 容 | 講話・演習
「コグトレオンラインの設定と活用方法について」
香南市教育委員会学校教育課 今井悠介 指導主事 |

《第2回》

- | | |
|--------|--|
| 1 趣 旨 | 小学校低学年を中心に、タブレット端末を活用した認知能力のトレーニングを継続的に行い、授業改善の取組とつなげて「学力の二極化」の改善に取り組むとともに、自立活動等の社会生活能力の向上につながる実践の充実も図る。 |
| 2 主 催 | 香南市教育委員会 香南市教育研究所 |
| 3 日 時 | 令和7年7月29日(火) 15:00~16:35 |
| 4 会 場 | 香南市役所 6階会議室 604・605 |
| 5 参加対象 | 各小学校のコグトレ推進担当者
その他参加を希望するもの |
| 6 内 容 | (1) 講 話 「コグトレの意義と効果的な活用について」
高知健康科学大学 宮口英樹 学長
(2) 情報交換 「1学期のコグトレオンラインの実施状況について」 |



※8月5日(火)に高知健康科学大学と香南市の間で包括協定を結ぶことができたことから、タブレット端末を活用した認知能力のトレーニングに関する内容は、各小学校の進捗状況に応じて、学校が高知健康科学大学との連絡調整を直接行い、助言指導を受けるシステムを整えて対応をしていくことに移行した。

令和7年度 香南市小中学校授業づくり実践研究講座

1. 目的

香南市内児童生徒の学力向上を目指し、学習指導要領に沿った質の高い授業実践を広げるために、香南市内在籍教員が授業研究を協働的に行う機会を提供し、共に高め合いながら各教科・領域の授業力の向上を図る機運を醸成するとともに、就学前の学びや教科の系統性について、参加者が校種を超えて相互理解する機会とする。

2. 実施校

香南市内小中学校全校。但し、教員数の少ない吉川小学校については隔年授業公開を基本とする。
※他の研究指定を受けて授業づくり研究及び公開授業を行う学校を除く。

3. 対象教科

小中学校の全教科・領域

4. 参加対象

香南市内の小中学校で参加を希望する者
香南市内の保育所・幼稚園・認定こども園で参加を希望する者

5. 実施曜日

水曜日以外の曜日での実施を基本とする。
※他校の希望者が参加しやすいように曜日にご配慮ください。

6. 実施方法

授業づくり実践研究講座の通知文書は、グループウェアの文書收受にて各小中学校に配付するとともに、メッセージ機能を活用して小中学校全教職員にも個別にデータ配付する。保育所、幼稚園、認定こども園については、ウェブメールを活用して各所属所に通知文書データを送信する。

授業づくり実践研究講座への参加希望者は、所属長の承認を受けたうえで参加申込書を香南市教育研究所に提出する。

なお、実施校は1週間までを目途に、学習指導案等の資料データを香南市教育研究所に提出し、香南市教育研究所は指導案等の資料データを参加者宛てに事前配付する。

7. 研究内容

学習者主体の授業づくり(学びの変容)【授業DX】

学習指導要領の趣旨の実現に向け、これまでの授業からデジタル学習基盤を効果的に活用した授業への転換を図り、学習者主体の授業づくりを実現するための教科指導等の在り方について研究する。

令和7年度香南市公開授業参加者数

小学校

学校名	事業名	外部からの参加者数[人]			
		保幼こ	小学校	中学校	市事務局
香我美小学校	通常の学級における合理的配慮充実事業	2	1	5	6
赤岡小学校	香南市外国語担当者会	0	7	5	5
吉川小学校	校内研	8	1	0	4
野市東小学校	校内研	0	2	0	3
夜須小学校	架け橋プログラム	4	2	0	4
	校内研	0	1	2	4
野市小学校	令和の授業DX				
佐古小学校	校内研	0	4	0	2

※香南市授業づくり実践研究講座として、研究所へ申し込みがあった人数

中学校

学校名	事業名	外部からの参加者数[人]			
		保幼こ	小学校	中学校	事務局
香我美中学校	校内研	0	5	17	2
赤岡中学校	校内研	3	8	3	7
野市中学校	令和の授業DX				
夜須中学校	改善プラン	2	6	2	4

※香南市授業づくり実践研究講座として、研究所へ申し込みがあった人数

令和7年度 第1回香南市保幼小中・家庭・地域連携担当者会 実施要項

1 趣 旨 香南市立保育所、こども園、幼稚園、小学校及び中学校が連携し、0歳から15歳までの15年間を通して系統的に基本的な生活習慣や自己肯定感、規範意識等、発達段階に応じた資質・能力を身につけた幼児・児童・生徒を育成し、香南市の教育課題の解決を図る。

2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所

3 日 時 令和7年5月30日（金） 15:00～16:35

14:50	15:00	15:20	15:25	16:05	16:15	16:30	16:35
受付	開会行事 香南市の取組説明等	移動 休憩	各中学校区情報交換・協議	移動 休憩	協議内容の共有	閉会 行事	

(中学校区の協議を通して、今大切にしたい取組(居場所づくり又は、絆づくり)について)

- 本年度、野市中学校区では「あいさつ・掃除・時間」「授業DXを支える学習の基盤の系統表」の取組の共有資料を作成したので、各校種で資料を元実践に活かして行きたいと考えている。
- 子どもの目に見える姿や行動だけでなく、内面を探ることやそれに伴った関わりを意識していけるような視点を持ちあえると良いと思います。気になる子どもだけでなく、そつなく日々をこなしている子どもたちが、自分のよさを実感でき自尊心をもって大人になっていけるような関わりをしていけたらと思います。
- 小学校、中学校の成長を見据えることももちろん大切であるが、常に目の前の子どもの姿を見とることを大切にしていきたい。
大人のイメージするゴールにもっていくのではなく、育っている姿や育ちつつある姿を共有し、自園での課題は何かを振り返っていききたい。
絆づくりでは、保育者が子どもの意欲を大切に、できた・できないの評価ではなく、やろうとした姿や姿勢、過程に目を向けて一人一人が大切にされる仲間づくりを更に意識して進めていきたい。一人一人を大切にすること姿勢を子どもたちは見ているし、一人一人を大切にすることが、友達や周りの人を大切にすることにつながると考えたからである。居場所づくりにも関わってくると感じた。
また、一人一人のやりたい遊びがあるか、楽しかったと思える保育になっているか、子どもの興味関心を捉え、子どもの姿から保育を振り返り、改善していきたい。
- ① 絆づくり
 - ・日々の取組（したいことが実現できる、主体的に遊ぶ）やあいさつ運動や交流などを通して自尊感情を高める
 - ・子どもの頑張りを「結果」でなく「プロセス」で認める姿勢
- ② 居場所づくり
 - ・発達や育ちの理解と評価（学校間の評価の違いを知り、相手の知りたいことを伝えたい）
 - ・教師や保育者が子どもの姿や育ちを丁寧に見取り、安心を提供する
- 野市中学校区は、連携の取組がとても活発に行われていると感じます。しかし、連携の担当者や1年生担任以外の教員への共通理解に課題があると考えられるので、その点を踏まえた保育者や教員での意見交換、情報共有を大切にしたいです。

令和7年度 第2回香南市保幼小中・家庭・地域連携担当者会 実施要項

- 1 趣 旨 香南市立保育所、こども園、幼稚園、小学校及び中学校が連携し、0歳から15歳までの15年間を通して系統的に基本的生活習慣や自己肯定感、規範意識等、発達段階に応じた資質・能力を身につけた幼児・児童・生徒を育成し、香南市の教育課題の解決を図る。
- 2 主 催 香南市教育委員会 香南市教育研究所
- 3 日 時 令和8年2月19日（木） 15：00～16：35

14：50	15：00	15：15	15：45	16：25	16：35
受付	開会行事 香南市の取組説明等	講師による講話 大阪成蹊短期大学 中野 澄 教授		協議・発表	講師の講評 閉会行事

【中学校区の協議を通して、今大切にしたい居場所づくりまたは、絆づくりの取組】

- これから大切にしたいのは糊代期である。居場所づくりと絆づくりの取組により中学校に上がった大事な時期に安心して過ごせる場を提供することが実現できるので、自分たち教職員の責務を自覚して実践していきたい。
- 一人一人の子どもに丁寧に寄り添い、思いを受け止める関わりを重ねることで信頼関係が育まれ、自己肯定感が芽生えてくると考えるので、今後も、子どもと教師、子ども同士の関わりを大切にしながら、自分の思いだけでなく、他者の思いにも目を向け受け止められる子どもを育てることを意識した取り組みを行っていきたい。
- 保幼小の交流活動や職員連携は隣接している恵まれた環境もあり互惠性のある内容となっており、小中の連携はより意図的なしなかけで充実を図っていくことが、小6にとつての期待や中1にとつての安心感につながると思われます。大人や地域のネットワークを強みに、今年度の交流を継続しつつ、工夫していくことが大切だと感じました。
- 1保幼小中で学年が1から2クラスと、人数もそれほど多くない集団だから、絆は強いのではないかとされるが、実際は教師側が仕組まなければ、やはり健全な同学年間の生徒同士の繋がりは築き上げにくいものだと感じる。優しい言葉かけや相手を敬う思いを発達段階に応じた言動に出せるような、仲間づくりの取り組みが必要だと感じる。
- 子どものよいところを認め合うような関わりを意識する。また、来年度も小学校と連携をし、安心して小学校に就学できるようにしたいです。
自分がここにいて安心できるような仲間づくりが大切かなと思ったからです。また、小学校にも安心出来る存在がいることが就学したときの安心感にもつながると思ったからです。
- 保小、小中での交流活動を継続していくこと。特に中学校からは今年取り組んだ中学生（生徒会）が小学校に赴いて中学校の説明をすることや以前から取り組んでいる小学校の先生が中学校へ入学おめでとうメッセージを送ることなどは居場所づくり、絆づくりにつながり、のりしろ期を大切に取る取り組みとして継続していきたい。
- 1年生には、幼児教育の体験を引き出しながら、今の学びにスムーズにつなげてあげたいと思いました。
- 絆づくりでは、子どもが主体となりながら当番活動や誕生会を行う。栽培活動など、小学校の活動や授業と重なるところの経験ができたならよいと感じました。職場に持ち帰り共有し、できることをやれたらとも思いました。

令和7年度 第1回香南市保幼小連携・接続担当者会

- 1 目的 香南市立保育所、幼稚園、こども園で培われた幼児一人ひとりの育ちや学びを小学校教育に確実に繋げ、円滑な就学前教育と学校教育の接続を図るため、「5歳児後半の年間指導計画」と「スタートカリキュラム」に基づく調和のとれた教育を一体的に推進できるよう接続期カリキュラム、及び架け橋プログラムの作成・編成を行う。
- 2 主催 香南市教育委員会 ・ 香南市教育研究所
- 3 対象者 香南市立保育所、幼稚園の年長担任 1名
香南市立小学校1年担任 1名
- 4 場所 香南市役所 2階会議室【201・202・203】
- 5 日時 令和7年6月5日(木) 15:20～16:35

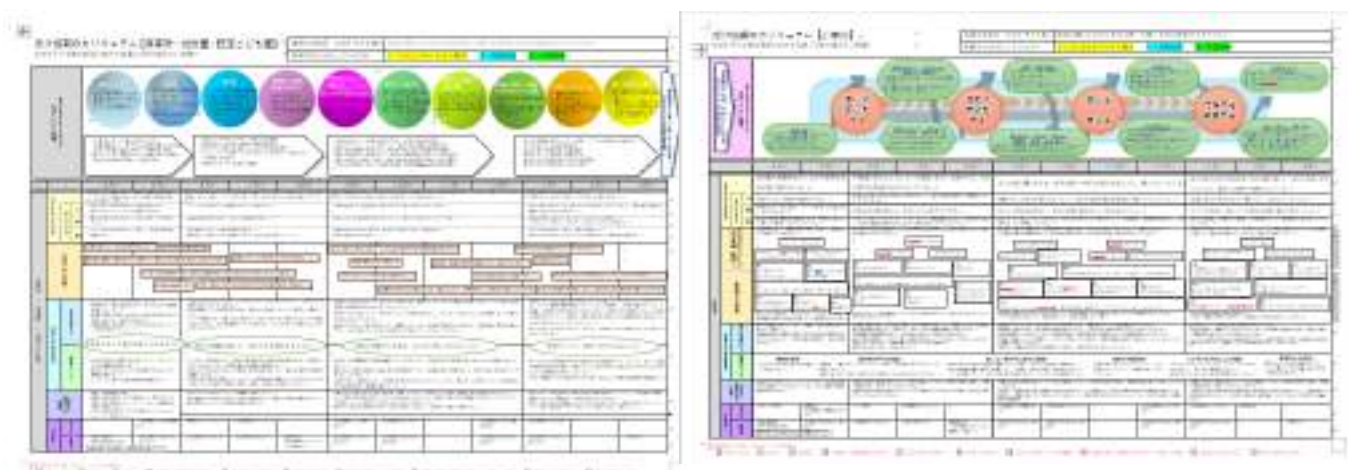
6 内 容

15:15 15:20 15:45 16:30 16:35

受付	開会	説明	演習・協議	閉会
----	----	----	-------	----

7 架け橋期のカリキュラム

*左:夜須こども園、右:夜須小学校



- ・幼稚園や保育所の先生方とめざす児童の姿について話し合いができたことで、今後交流する中で互いに児童の課題や育みたい力にせまる交流ができそうだと感じた。
- ・幼児期の経験カリキュラムと小学校の教科カリキュラムでは、接続に大きな課題があり、架け橋のカリキュラムを作る必要があることがわかった。
- ・これまでの勤務校では、交流活動には取り組むものの、事前の打ち合わせや事後の振り返りはほとんどできていませんでした。ねらいを意識した交流活動の取り組みは、双方に大きなメリットがあると思います。

令和7年度 第2回香南市保幼小連携・接続担当者会 レジюме

- 1 目的 香南市立保育所、幼稚園、こども園で培われた幼児一人ひとりの育ちや学びを小学校教育に確実に繋げ、円滑な就学前教育と学校教育の接続を図るため、「5歳児後半の年間指導計画」と「スタートカリキュラム」に基づく調和のとれた教育を一体的に推進できるよう接続期カリキュラム、及び架け橋プログラムの作成・編成を行う。
- 2 主催 香南市教育委員会・香南市教育研究所
- 3 対象者 香南市立保育所、幼稚園の年長担任 1名
香南市立小学校1年担任 1名
- 4 場所 香南市役所 2階会議室【201・202・203】
- 5 日時 令和8年2月26日(木) 15:20～16:35
- 6 内容

15:15	15:20	15:40	16:00	16:30	16:35
受付	開会	説明	講話	演習・協議	閉会

- ・春野地区が小学校1年生の不登校児がゼロだと聞き、保小間の円滑な接続がいかに大切か改めて考えさせられました。
- ・幼児期の遊びを通して学びと小学校の教科（合科的な学び）のつながりを、保育所も学んでいかなければいけないと感じた。育ちや学びのつながりを意識した交流の大切さを感じた。
- ・保育所のことを知ってもらえることで小学校でも保育での学びを生かした授業を考えてもらうきっかけになり、就学した子どもたちが安心して小学校生活をおくることができるようになると改めて感じた。
- ・講師のお話を通して、子どもの育ちを連続した視点で捉えることの重要性を改めて実感した。特に、他校の例も拝見して安心して自分を表現できる環境づくりや入学までに何を経験してきたのかを知り子どもに丁寧に関わることが、円滑な接続につながると感じた。保育・教育の立場を越えて情報共有を行い、子どもを中心に据えた連携を継続していくことの大切さを再認識した。
- ・接続期の担任として協議や助言を通して、幼児期からの子どもの姿を掴むと同時に多面的に捉えることの大切さを実感した。それぞれの場で見られる子どもの様子や関わり方を共有することで、支援の方向性がより明確になると感じた。子どもが安心して次の環境へ進めるよう、日常の小さな育ちを丁寧に見取り、関係機関と継続的に連携していくことの重要性を改めて認識した。

令和7年度 保育所・幼稚園 就学前部会 研究実績

会 長 （ 夜須こども園 門田 玲加 ）

副会長 （ 吉川みどり保育所 岡田 恵実 ）

1 就学前部会の取組

- ・香南市連携カリキュラムの3つの柱を踏まえ、保育者の願いを基に子どもたちの実態に応じた保育を行うためにサブテーマを設けた。3回の部会を通して、情報共有や協議で学んだことを保育の実践に活かし、実践から振り返りまで協議することで、子どもの育ちを保障していくための保育の在り方を考えた。
- ・部長が中心となり、様々な経験年数の職員が情報を共有しながら主体的に研修を行うことができた。毎回、副所属長がアドバイザーとして参加し、部会に属していない副所属長は特別支援部会のアドバイザーとして参加した。

2 研究テーマ

『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』

3 研究内容

(1) 年齢別部会

0歳～5歳児部会及び特別支援部会

*各部会でテーマをもとにサブテーマを設定し、各年齢の発達を捉え、環境構成や保育者の関わりについて協議し学びを深めた。(別紙参照)

(2) 保育所・幼稚園・こども園 公開保育

各保育所・幼稚園・こども園 29回実施、延べ379名が参加し協議を深めた。

4 研究の成果

- ・0.1.2歳児の部会では、毎年同じ環境や同じ玩具で行う保育ではなく、今の子どもの姿から同じ育ちや関心のもち方であっても、提供する玩具はいろいろとある、と知る機会となり、イメージがもちやすくすぐに実践にいかせるよう玩具の写真を共有し、玩具についての学びを深めた。
また、グループ内で手遊びをする時間やフリートークの時間をあえて設けたことで、部会の内容に限らず話をするきっかけになり、職員交流の場にする事ができた。
- ・幼児の部会では、やってみたくなるような集団遊び等にテーマをしぼることで、保育者自身が子どもたちのことを考えながら、いきいきと実践することができたことが良かった。また、実際にやってみることで、こどもへの遊びやルールのわかりやすい伝え方の工夫や、遊びを通して子どもたちが経験できることなどを保育者自身が感じ取ることができた。
- ・特別支援部会は、昨年度ティーチャーズトレーニングを受講し実践してきたことを協議した。そしてその中で聞きたいことや悩みを講師に質問していく形式で第1回目の部会をもった。2.3回目以降は1回目で学んだことを実践に取り入れ、その後子どもの姿や自分自身の支援を振り返り共有した。子ども一人一人を見て理解を進めていくことが有効な支援につながることを再確認した。
- ・回数と時間の制限がある中で、事前準備は必要であったが、情報交換や共有、発達の確認等などから学び合うことができた。時間を有効に活用するための工夫は必要である。

令和7年度 1歳児部会 研究実績

部長（所属 香我美おれんじ保育所 氏名 山本 真以）

- 1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』
～1歳児の発達の違いを意識して工夫している玩具や遊びの環境づくりについて～
- 2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月9日 香我美おれんじ 保育所	・4月からの子どもの姿や楽しんでいる遊びの内容について、悩んでいることを共有する。 ・今年度学びたいことについて
9月3日 赤岡保育所	サブテーマを意識して行った保育室内外の環境の写真や玩具を用いて、協議する。 ・実践する前の子どもの様子 ・取り入れた遊び（環境や援助） ・子どもの変容
12月11日 佐古保育所	・今年度の成果や学び、課題 ・来年度の方向性について ・保育の中で楽しんでいる「手遊び」や「わらべうた遊び」の紹介

3 研究の成果

<第1回>

1歳児は月齢差が大きく、低月齢・高月齢のどの子どもも満足し遊べる環境を整える難しさを感じている。また、高い所に登りたくなる子どもの姿や、玩具をその場に出して遊びが終わってしまう姿など、1歳児ならではの姿が見られた時に、どのように遊びを展開していけばいいのか悩みが聞かれ、協議の中で1歳児の発達を意識した玩具のレパトリーを増やすことができた。

<第2回>

悩みをもとに各園で工夫し取り入れた玩具や環境の写真を使って情報共有を行った。写真があったことで、どんな玩具や環境を取り入れたのか分かりやすく、部会後に各園に持ち帰った時に写真があったことで、見返すことができ、自分の保育に取り入れやすかったとの声が聞かれた。昨年もこの玩具、こんな感じの環境だったという固定概念を互いに崩し合って、同じ育ちや関心のもち方であっても、提供する玩具は色々あることが学びになっていた。それぞれ同じような課題をもち共感する声も聞かれた。子どもとじっくりと関わり一緒に遊びたいが、いざこざが起き、そこに関わることになったり、安全面配慮のためには、園庭の遊具のそばで見守ったりしないといけないため、もどかしさを感じるという意見もあった。グループ協議の中で、玩具の数を調節し、環境を変えることで少しでも遊ぶ時間につなげることはできないか、フリーの職員にその時間だけでも入ってもらうことはできないかなどの意見が聞かれ、その場で具体的な方法を知る機会にもなった。

<第3回>

1.2回で共有した玩具や環境をヒントに、その後どのような遊びや環境を取り入れ、子どもたちの変容が見られたかや、今年度のサブテーマに添った成果などを共有できた。また、時間は短かったが、実際に保育者が手遊びをして遊んでみようという時間やフリートークの時間を設けたことで、じっくり話をするきっかけになった。

- 子どもたちの目線や仕草、表情などから子ども一人一人の思いを汲み取り、受け止めながら関わってきたことで、どの園でも子どもたちがその子どもなりの言葉や、時には怒ったり泣いたりしながら体全体を使って自分の思いを表現し、成長と共に自己主張する姿がたくさん見られるようになってきた。子どもたちのありのままの思いを受け止めてくれる保育者の存在があったからこそ、自己主張する姿につながってきたと思われる。また、子どもの思いを汲み取り、丁寧に言葉にして伝えてきたことで、子どもたちから聞かれる言葉も増え、保育者に楽しいことや気付いたことを聞いてほしいと伝えてくることもたくさん見られるようになった。そして、体全体や手指の発達が促されるように各園で玩具や環境を整えてきたことで、たどたどしかった歩行が安定し、走る、跨ぐ、くぐる、ぶら下がるなど、様々な動きを楽しみ遊ぶ姿が見られている。手指の発達も、様々な玩具で繰り返し遊んできたことで、指先にぎゅっと力を入れられるようになり、着替えの時にズボンを引っ張り上げようとしていたり、手首の使い方にも慣れてきて水道の蛇口を回して水を出したり止めたりするようになってきている。

4 令和8年度の研究の方向性

・部会のもち方について

写真や玩具の実物の持ち寄りがあると見返すことができて分かりやすく、自分の保育に取り入れやすいので、引き続き取り入れてはどうか。話し合う内容とは別に、ざっくばらんに情報交換をする時間があると、その知りたいことをより細かく具体的に知ることができる機会になるのではないか。

・部会の内容について

手作り玩具や環境構成、保育者と一緒に楽しめる遊びと子どもが一人でもじっくりと楽しめる遊び、体操や踊り、わらべ歌、制作、参観日の内容、今年度新しくなった月週案の書き方といった具体的な内容に絞って話をしていくと、より実践に取り入れやすい部会内容になるのではないか。

令和7年度 2歳児部会 研究実績

部長（所属 赤岡保育所 氏名 谷岡 佑亮）

- 1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』
～ いろいろな運動発達を促す環境や玩具 ～

2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月12日 赤岡保育所	・自己紹介 ・グループ協議（4月からの子どもの姿・悩みについて） ・今年度学んでいきたいこと。
9月4日 赤岡保育所	・いろいろな運動発達を促す環境や玩具の写真を用いて、子どもの姿や工夫したこと等を話し合う。 ・月週案について(悩みや実際やってみてどうだったか等)
12月12日 吉川みどり保育所	・前回共有したことを参考に、体を動かしたくなる環境をどのように取り入れたか。 ・成果と課題を出し合う。

3 研究の成果

第2回の部会では、いろいろな運動発達を促す環境や玩具の写真を用いて子どもの姿、遊びの時間帯、工夫したことなど協議をした。その中では腕を大きく回す動きを経験してほしいという思いから、保育者が大きくなり描きをして見せ、真似をしてみたいようになるように関わったという発表があった。それを聞いた他の保育者から模造紙が大きいことで思い切って描き、腕を回す動きが経験できるのではないかとということや持ちやすいクレパス（ベビーコロール）を使うことで握る動きも促され第1回目部会で出されていた蛇口をひねる力にもつながるのではないかと話が深まっていた。また写真があったことで分かりやすく、すぐに自園へ取り入れることができたという声もあがった。第3回の部会では共有したことを参考に自園でどのように取り入れたかを出し合うことで、同じ遊びでも新たな気づきが生まれていた。

今年度から月週案の様式が変わり、悩んでいるという意見が出されたことから、記入した月週案を持ち寄って情報共有した。他園の取り組みを参考に、自園の月週案に取り入れることができたという意見があった。



第3回では、各園に写真を用意してもらった時、写真と文字を大きくしてもらった。そうすることで記録をそのまま報告に載せることができて、作成時間の短縮に繋がった。

4 令和8年度の研究の方向性

- ・第2回、第3回の部会では、いろいろな運動発達を促す環境や玩具の写真を用いて話し合った。グループによって違う玩具や環境の写真を用意したが、職員数が多くグループが分かれている園は準備が大変だったという意見が聞かれた。人数が一番多い部会となるため、グループ分けや事前の準備物等に配慮していく。
- ・短い時間を利用して、手遊びや体操の情報共有ができれば良かったという意見があったので、部会の最初か最後等にそういった時間を取ることも考えていく。

令和7年度 3歳児部会 研究実績

部長（所属 野市幼稚園 氏名 南 和希）

- 1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』
～子どもの発達に応じた手指を使う遊びについて探る～

2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月13日 野市幼稚園	・4月からの子どもの様子や保育者の関わり、悩みについて出し合う。 ・悩みを基に今年度学びたいことを出し合い、サブテーマを決定する。
9月5日 夜須こども園	・園で実践した手指を使った遊びを紹介し合い、実際に遊んでみる。 ・実際に遊ぶ中で気付いたことをグループ内で話し合う。
12月15日 野市幼稚園	・第2回の部会後に取り入れたことや子どもの変容について出し合う。 ・今年度の成果と課題、来年度の方向性について話し合う。

3 研究の成果

『悩みを互いに共有できた』

- ・4月当初に自園での子どもの様子や悩みを出し合ったことで、保育での悩みが同じ意見も聞かれ、“悩んでいるのは自分だけではないんだ”と共感し合う機会となった。

『保育者自身が実践を通して遊びの楽しさを知ることができた』

- ・手指を使った玩具を持ち寄り、実際に遊びながら協議を深めていったことで、それぞれの遊びの楽しさや難しさ、手指や指先のどんな動きが生まれていくのか等、遊びの本質を保育者が身をもって知る機会となった。

また、遊びを実践しようと思った理由や、その中での子どもの姿についても協議に盛り込んだことで、保育者の子どもに対する思いや願い、遊びの様子が具体的に伝わり、今後どう育ててほしいのか保育者が思いをもって保育することの大切さを再確認できた。

『子どもの手指の使い方と気持ちに成長が見られた』

- ・自園の子どもの姿や発達に合わせて、それぞれが手指を使った遊びを取り入れ、子どもと一緒に楽しむ中で、箸やハサミの持ち方を意識するようになったり、力の入れ方を調整するようになったりと、手指の使い方に様々な成長が見られるようになった。最初は思うようにできないこともあったが、繰り返し中であらゆることができるようになってきたことから子どもが遊びの楽しさを感じ、遊び方を自分なりに変えてみたり、少し難しいこともやってみようとしたりと、やってみようという心の育ちにも成長が見られ始めていた。
- ・手指の使い方が生まれることで、遊びだけでなく、生活面の意欲にもつながり、いろいろな場面において、子どもが自分でできたと感じることが増え始めていた。

4 令和8年度の研究の方向性

- ・今年度同様、テーマに沿った遊びや玩具を持ち寄り、実践する内容で部会を進めていくと、保育の中に活かしやすいのではないかと考える。また、その際には手作りに拘らず既製品を取り入れたり、手遊びやダンス等、物がなくても実践できるものを持ち寄ったりすると、準備をする保育者の負担も少なく、明日からの保育にすぐに活かせるのではないかと考える。
- ・次年度もテーマに沿って部会を進める中で、様々な経験年数の職員同士が互いを支え、気軽に情報を共有し合える場となると良いのではないかと考える。

令和7年度 4歳児部会 研究実績

部長（ 所属 野市東こども園 氏名 竹下 佐知子 ）

- 1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』
～ やってみたいな、楽しい集団遊び ～

2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月14日 野市幼稚園	・4月からの子どもの姿、課題や悩みを共有 ・今年度学びたいことについて
9月8日 香我美幼稚園	・集団遊びの紹介（子どもの実態から遊びの内容や導入方法などの工夫点を紹介し合う） ・集団遊びの実践や遊びの展開についての出し合い
12月16日 吉川みどり保育所	・テーマに沿って取り組んだ成果と課題 ・来年度に向けて

3 研究の成果

- ・年度当初に各所園の子どもの実態を出し合った中では、一人一人の経験の差や偏りがあり、またその把握を保育者が十分にできていないことや、集団の中に入りにくい子どもがいることなどが挙げられていた。そこで、保育者や友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じたり、様々な友達との関わりをもつ機会になったりできるよう今年度のサブテーマを設定し、子どもの実態から、①どのような意図や願いをもって集団遊びを取り入れたか、②どのような導入やルールへの伝え方で集団遊びを始めたか、という2点を軸にしながらか研究を進めていった。

王様じゃんけん

《遊びのルール》前に並んだ3つの椅子に王様が座り、じゃんけんをして勝つと交代できる。
負けた子どもはどの列に並んでもよい。

《意図やねらい、導入方法など》

- ①みんなで遊ぶ心地良さを感じてほしい。誰でも勝つことができ、勝った嬉しさを感じながら、繰り返し楽しめる遊びだと思い、取り入れた。
- ②じゃんけん列車で遊んだ後に、王様じゃんけんを提案。「王様ってどんな人？」という保育者の投げかけから、王様になってみたいなど関心を惹き、遊びを始める。タイムキーパーは保育者なので、いろいろな子どもに王様になれるチャンスをつくることことができる。何回か遊んだ後、王様が王冠をかぶれるように準備すると、より王様に特別感を感じて楽しく遊んでいた。



おしりタッチ

《遊びのルール》3、4人が肩に手を置き並ぶ。最後尾の子どものお尻を鬼がタッチする。

《意図やねらい、導入方法など》

- ①大きな集団に入りにくい子どもも、4、5人での集団なら安心して楽しめるのではないかと考え選んだ。遊びの中で友達と一体感を感じたり、友達を応援したりして、一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいと願い、取り入れた。
- ②始めは保育者が鬼で、3、4人のグループが遊ぶ様子を見て応援する。また、鬼がゆっくり動くことで、子どもの動きを引き出していきながら、ルールの理解を深めていく。



- ・子どもの変容としては、特定の友達と遊ぶ姿から、様々な友達と関わって遊ぶことを楽しむようになっていたり、生活の中でも子ども同士のやり取りが多く見られたりするようになった。やり取りの中では、自分の思いを通すだけでなく、友達の思いに触れて折り合いをつけようとするようになった。また、友達と触れ合うことを喜び、自分から誘ったり教えたりするような関わりも見られるようになった。そして、関心をもって話を聞く態度やルールを理解する力の育ちにもつながった。
- ・保育者の学びとしては、集団遊びの引き出しが増え、ルールの伝え方や遊びの展開の仕方、より楽しくするための工夫やアイテムの活用方法などを具体的に知ることができ、自分の保育に生かすことができた。また、遊びの実践方法を紹介し合ったことで、自分なりに保育の展開や子どもの姿を予想することができ、配慮事項や具体的な声掛けなどを準備することができた。そして、遊びを取り入れたことで、子どもの姿や発達を細かく見ることにつながり、遊びの中で子どもができるようになったことや、子ども同士で考えられる場面を見て、保育者自身の発見にもつながった。

4 令和8年度の研究に向けて

- ・今回のように実践を取り入れた内容は、すぐに保育に生かすことができたので、遊びを紹介するだけでなく、子どもの実態をどのように捉え、どのようなねらいをもって取り組んだのかということや、遊びへの導入・展開の仕方などを具体的に伝え合える内容がより保育の充実につながると考える。
- ・取り組んだことから子どもの育ちを語り合える会になるとよいと思う。

令和7年度 5歳児部会 研究実績

部長（所属 香我美幼稚園 氏名 永野 美和）

1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』

～ 友達を意識することができる環境構成について ～



2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月15日 香我美幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からの子どもの様子や保育者の悩み、知りたい事の共有 ・今年度のサブテーマについて
9月9日 野市幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを意識した集団遊びの紹介と実践 ・実践して気づいたことを共有する
12月17日 赤岡保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・今の子ども様子とテーマを意識した環境構成について実践の紹介と発達に応じた視点で捉えた気づきの共有 ・今年度の振り返り ・来年度の方向性について

3 研究の成果

- ・1回目で子どもの育ちや保育者の悩みを共有する中で、集団遊びを通して子どもが考える機会を設けたり、友達とのつながりを感じられるような場面を作ったりしながら、子どもが友達やクラス集団を意識できるような環境構成や保育者の援助について学んでいくことにした。小さな集団での遊びから、クラス全員での遊びなどいろいろなバリエーションの遊びを具体的に紹介し合うことで、友達を意識したり協力したりすることにつながっていくという5歳児として大切にしたいことに気付いたり、保育者自身もその時期の子どもの発達に応じた遊びを考える機会となった。

(円陣しっぽとり、横おにごっこ、ハンカチ落とし、マット押し、瞬間移動ゲーム、ライオンゲーム、段ボール運び)

遊び	選んだ理由	実践した時の子どもの様子	グループ実践の気づき
<p><瞬間移動ゲーム></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数から遊べる。 ・自分だけの動きでは失敗するため、友達のことも考えられるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と競ったり力を合わせたりして遊べるようにした。 ・5人で行くと、作戦をたてて遊んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で友達を意識し、力を合わせる大切さに気付ける。 ・教材研究につながる。(新聞紙の枚数、太さや細さ等)
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士ぶつかりそうになっていたが、ぶつからないように子どもたちが考えて動いていたから。 ・初めは保育者が鬼をしていたが、だんだん友達と鬼の人数を決めるようになってきたため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横だけでなく縦に行きたい思いから、相手の動きを見るようになる。 ・ハラハラドキドキが楽しい。 ・いろいろな向きに動き、工夫している。 ・鬼の人数を子どもが考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが楽しいと感じることができる。 ・苦手な子どもも得意な子どもも楽しむことができる。 ・2人から少人数、そして集団へとバリエーションを変えていける。 ・年長ならではののおもしろいと感じられる遊び。

- ・2回目で学んだことを保育で実践したことで、子ども同士で関わりながら作戦を立てるなど、自分たちで遊びを進めていこうとする場面が増え、クラス集団を意識するようになってきた。また、遊びだけでなく友達を意識できるよう互いが見えるような環境も工夫したことで、友達の思いを受け入れたり、友達のよさを認めたりするような姿も見られるようになった。このような変容から、保育者が“友達やクラス集団を意識できるようになってもらいたい”という願いをもち、5歳児の育ちを意識しながら集団遊びを進めていくことの大切さを実感できた。
- ・保育者が子ども同士の関わりを意識した遊びを積み重ねることで、発表会やお楽しみ会などの行事でも友達と協力して進めていく姿につながった。

4 令和8年度の研究の方向性

- ・保育のねらいを踏まえた遊びや情報交換を行い、保育実践につながる部会にする。
- ・5歳児の発達に応じた具体的な話し合いができたことで子どもの育ちにもつながったことがよかったため、来年度も『友達を意識することができる環境構成』というテーマで進めていくといいのではないか。

令和7年度 特別支援部会 研究実績

部長（所属 野市保育所 氏名 垣本 葉月 ）

- 1 研究テーマ 『子ども一人一人の思いを受け止め、心身を育てる保育をめざす』
※サブテーマについて…特別支援部会では、個々の特性が様々であり、一つの視点から研究を進めていくことが難しいため設けていない。

2 研究経過

実施日・会場	研究内容
5月19日 佐古保育所	・ティーチャーズ・トレーニングを实践しての成果や課題、聞きたいことをグループ協議にて出し合う ・グループ協議の中で出た課題や質問に対して 講師：公認心理師 言語聴覚士 濱口雅子氏 アドバイザー：寺田副所長
9月10日 本庁6階会議室	・講話から学び実践したことや子どもの変容について ・新たな悩みについて
12月18日 佐古保育所	・前回の部会以降に取り組んだことや子どもの変容について ～事前アンケートにて集約～ ・本年度の部会を通して学んだこと、来年度へつなげたいこと ・来年度の方向性について

3 研究の成果

- ・6年度からの方向性を受けて、1回目にティーチャーズ・トレーニングについてグループ協議を行った後で講師への質疑応答の時間を設けた。

～講師やアドバイザーの助言より～

- ・子どもの全てを理解することは不可能であるからこそ、思いを考え理解しようとする保育者の存在が大切。
- ・大人は子どもに教える存在と思いがちだが「こんな風にしていきたい」と子どもから教えられることも多い。自己発信できる子どもに対しては直接聞き取ることを意識し、難しい子どもについては行動のABCをしっかりと捉え、記録をしていくことで個々に合った支援を考えることができる。
- ・行動や姿を細かく観察し記録することが、育ちや内面を理解することにつながる。

- ・1回目の部会では“褒める”ことで子どもとの良好な関係性が築けることや、自分でやってみようとする意欲的な姿につながることを共有した。その後の部会で有効だった関わりや子どもの変容、新たな悩みなどをグループ内で話すことで、褒め方や支援方法のバリエーションが増えたり自分自身の保育を振り返りながら異なる視点で保育を考えることができたりし、多面的に学び合えたという意見が多く聞かれた。
- ・すべての支援児に共通して有効な支援はなく、一人一人に合った支援を考えるためには子ども理解が大切であることを部会の度に確認した。

4 令和8年度の研究の方向性

- ・8年度は部員が決まってから部会で現状や悩みなどの情報交換をしながら方向性を決めることで、参加した保育者が“知りたい”と思ったことを学べる場になり、より子どもたちへの関わりが深まっていくのではないかと考える。1回目に講話等を行う場合も考えられることから、開催時期を6月にしてもよいのではないかと。また、ティーチャーズ・トレーニングについて今後も学びたいという声が聞かれていた。2、3年に一度講話を聞き学べる機会を設けてはどうだろうか。
- ・今年は見合うワールドカフェ形式にしていたことで、協議に集中することができた。毎回グループ内で何を発表するかを決めることに時間がかかっていたので、その時間をディスカッションに充てることができとても良かった。来年度も発表者を設けない形にしてはどうだろうか。

令和7年度 香南市教育研究所

所 長	小 松 泰 樹
副 所 長	森 健 太 郎
研 究 員	中 西 美 和
研 究 員	細 川 寛 史
外国語教育推進アドバイザー	鈴 木 加 代 子
小学校社会科副読本等編集コーディネーター	井 上 朗

香南市教育研究所

研究紀要

第20号

令和8年3月 発行

発行所 香南市教育研究所

〒781-5292 高知県香南市野市町西野 2706 番地

T E L 0887-50-3023 F A X 0887-50-3020

E-Mail kyouiku-kenkyu@city.kochi-konan.lg.jp

U R L <https://x.gd/MJiov>